

第三條 擔保タル國債ノ處分ヲ要スルトキハ之ヲ公賣ニ付ス

第四條 擔保及保證人ニ關シテハ國債規則第六十二條第二項、第六十五條乃至第七十條、第七十二條、第七十四條及第七十五條ノ規定ヲ準用ス

第五條 國債證券ヲ保管シタル官廳大正十三年法律第十四號第十一條ノ規定ニ依リ新證券ノ交付又ハ元利金ノ支拂ヲ請求セムトスルトキハ證券權利者毎ニ左ノ事項ヲ記載シ且官印ヲ押捺シタル請求書ヲ主務大臣及大藏大臣ヲ經テ日本銀行ニ提出スヘシ

一、國債ノ名稱及總金額

二、證券ノ額面金額ノ種類及枚數

三、證券ノ記號及番號

四、證券ノ元金償還期及附屬各利札面ニ記載セル利子支拂期

五、證券保管ノ事由

六、證券ノ滅失又ハ紛失事由

七、請求年月日

八、請求者ノ官職氏名

前項第二號乃至第四號ノ事項中不明ノモノアルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第六條 日本銀行ニ於テ新證券ノ交付ニ代ヘ支拂フヘキ元利金ハ領收證書ト引換ニ之ヲ支拂フ

附則

本令ハ大正十三年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

● 震災ニ因リ滅失シタル供託國債證券ニ對シ新證券供託請求等

二 關スル件

大正十三年九月十五日
司法省令第十二號

震災ニ因リ滅失シタル供託國債證券ニ對シ新證券供託請求等ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條 供託ニ係ル無記名國債證券カ大正十二年九月ノ震災ニ因リ滅失シタルニ付供託者カ之ニ代ヘ大正十三年法律第十四號ニ依リ交付セラルヘキ新證券ノ供託ヲ爲サムトスルトキハ第一號書式ノ新證券供託請求書一通ヲ供託局ニ提出スヘシ但シ官廳ニ對スル保證供託ナルトキハ當該官廳ノ認可書ヲ添付スヘシ

供託官吏必要ト認ムルトキハ請求者ヲシテ官廳其ノ他ノ者ノ作成シタル證明書其ノ他ノ書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第二條 供託官吏前條ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ日本銀行ニ對シ新證券ノ交付ヲ請求スヘシ
供託官吏日本銀行ヨリ新證券交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ新證券供託請求書ニ認可ノ奥書ヲ爲シ其ノ一通ヲ請求者ニ交付シ之ヲ日本銀行ニ差出サシムヘシ

第三條 日本銀行新證券受入ノ手續ヲ了シタルトキハ新證券供託請求書ニ新證券ヲ表示シテ受入ノ奥書ヲ爲シ供託局ニ送付スヘシ

大正十三年司法省令第六號第四條ノ規定ハ供託局カ前項ノ規定ニ依リ日本銀行ヨリ新證券供託請求書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 第一條ノ國債證券ニ付供託原因ノ消滅其ノ他ノ事由ニ因リ還付又ハ取戻ノ請求ヲ爲シ得ヘキ者ハ直ニ新證券又ハ之ニ代ヘテ支拂ハルヘキ金錢ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニハ第二號書式ノ拂渡請求書三通ヲ供託局ニ提出スヘシ

第五條 供託官吏前條ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ日本銀行ニ對シ新證券ノ交付又ハ之ニ代ヘテ支拂ハルヘキ金錢ノ支拂ヲ請求スヘシ

供託官吏日本銀行ヨリ新證券ノ交付又ハ金錢ノ支拂ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ拂渡請求書ニ通ニ認可ノ與書ヲ爲シ之ヲ請求者ニ交付シ日本銀行ヨリ新證券又ハ金錢ヲ受取ラシムヘシ

第六條 供託官吏第二條及第五條ノ規定ニ依リ日本銀行ニ對シテ請求ヲ爲スニハ司法大臣ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ大正十三年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

供託國債證券ニ對スル新證券供託請求書

- 一 供託番號
- 一 供託者ノ氏名住所
- 一 供託年月日
- 一 供託國債證券

五分利公債證書額面金何圓也(記號番號枚數等判明ノトキハ記載スルコト)

一 供託ノ原因タル事實

一 供託スヘキ法令ノ條項

一 裁判所其ノ他官廳ノ名稱及件名

右供託國債證券大正十二年九月ノ震災ニ因リ滅失シタルヲ以テ之ニ代ヘ大正十三年法律第十四號ニ依リ交付セラルヘキ新證券ヲ供託致度此段及請求候也

年 月 日

供託局 宛

供託者 氏

名 圖

右認可ス

年 月 日

供託局長 氏

名 圖

一 五分利公債證書額面金何圓也

以號金何圓券第何番ヨリ第何番マテ何枚

右受入ヲ證ス

年 月 日

日本銀行 圖

第二號書式

供託國債證券ニ對スル新證券(又ハ新證券ニ代ヘ支拂ハルヘキ金錢)拂渡請求書

- 一 供託番號
- 一 供託者ノ氏名住所
- 一 供託年月日
- 一 供託國債證券

五分利公債證書額面金何圓也(記號番號枚數等判明ノトキハ記載スルコト)

一 供託ノ原因タル事實

一 供託スヘキ法令ノ條項

一 裁判所其ノ他官廳ノ名稱及件名

右供託國債證券ハ何々ノ事由ニ因リ還付(取戻)請求可致處大正十二年九月ノ震災ニ因リ滅失シタルヲ以テ大正十三年法律第十四號ニ依リ交付セラルヘキ新證券(又ハ新證券ニ代ヘ支拂ハルヘキ金錢)拂渡相成度此段及請求候也

年 月 日

供託局 宛

供託者 氏

名 圖

第八類 雜件

震災ニ因リ滅失シタル供託國債證券ニ對シ新證券供託請求等ニ關スル件

右認可ス

年 月 日

一 五分利公債證書額面金何圓也

又ハ

一 金何圓也

右受領候也

年 月 日

供託局長 氏

名 圖

住 所

受取人 氏

名 圖

● 震災ニ因リ汚染又ハ毀損シタル國債證券ノ附屬利札欠缺セル
場合ノ取扱ニ關スル件

大正十二年十月八日
大藏省令第二十三號

大正十二年九月一日ノ震災ニ因リ汚染又ハ毀損シタル無記名利札附屬利札ノ引換ヲ請求スル場合ニ於テ該國債證券ノ附屬利札中欠缺セルモノアルトキハ當分ノ間國債規則第十四條第一項ノ規定ニ依ル欠缺利札ノ金額ニ相當スル現金ヲ納付セシメス當該利札ノ欠缺セル代證券ヲ交付スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 皇室會計令施行規則(登録國債及有價證券ノ記名者ヲ内藏頭

トスルノ件)(抜抄)

明治四十五年七月十日
宮内省令第六號

改正(一) 大正元年十月二十四日
宮内省令第六號
(十) 昭和八年十一月十三日
宮内省令第十三號

皇室會計令施行規則左ノ通定ム

皇室會計令施行規則

第十一條 財本及資金ノ保管出納ハ内藏頭ノ主管トス(十)

登録國債及有價證券ノ記名者ハ内藏頭トス(十)

附 則

第二百二十七條 本令ハ大正三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス(略)(一)

○ 昭和八年宮内省令第十三號附則

本令ハ昭和八年皇室令第七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和九年度ヨリ施行)

● 國債償還ノ費途ニ充ツル趣旨ヲ以テ國民ヨリ獻金
スルモノアルトキ收入方

昭和四年十月二十九日
大藏省訓令第十一號

國債償還ノ費途ニ充ツル趣旨ヲ以テ國民ヨリ獻金スルモノアルトキハ當省主管トシテ收入スヘシ

北海道廳 府 縣

第八類 雜件

震災ニ因ル汚染毀損國債證券ノ附屬利札欠缺セル場合ノ取扱方 皇室會計令施行規則
國債償還ノ費途ニ充ツル趣旨ヲ以テ國民ヨリ獻金スルモノアルトキ收入方

七二九

七二八

第九類 參考法規

● 保管金規則

明治三十三年一月七日
法律第一號

改正(一) 明治三十三年二月二十六日
法律第十八號

朕保管金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

保管金規則

第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿五年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル(一)

第一 保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二 保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス

第三 訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第二條 保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス

第三條 保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス

第四條 保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス

○明治三十三年法律第十八號附則

本法ノ期間ハ本法施行前ノ保管金ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ起算ス

● 政府差押命令ヲ受クル場合會計上ノ規程

明治二十六年十二月二十七日
勅令第二百六十一號

改正(一) 明治四十年十一月二十五日
勅令第三百三十七號

朕明治二十四年勅令第五十五號ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第九類 參考法規

保管金規則 政府差押命令ヲ受クル場合會計上ノ規程

明治二十四年勅令第五十五號左ノ通改正ス

七三二

- 第一條 政府ヲ第三債務者トシテ發スル差押命令ハ左ノ四項ニ掲クルモノノ外仕拂命令官ニ宛テ發スルモノトス
仕拂命令官既ニ現金前渡ノ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ於テハ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ向テ差押命令ヲ發スルモノトス但シ記名公債元利ニ對スル差押命令ハ公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ向テ發スルモノトス(一)
出納官吏カ繰替拂ヲ爲ス歳出金ニ對スル差押命令ハ其ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ向テ發スルモノトス預金、保管金、供託金ニ對スル差押命令ハ中央金庫ニ係ルモノハ金庫出納役ニ、本支金庫ニ係ルモノハ關係ノ金庫出納役代理人ニ向テ發スルモノトス但シ出納官吏ノ保管ニ係ル歳入歳出外現金ニ對スル差押命令ハ當該出納官吏ニ向テ發スルモノトス
郵便爲替金及郵便取立金ニ對スル差押命令ハ之カ仕拂ヲ爲スヘキ出納官吏ニ、郵便貯金ニ對スル差押命令ハ其ノ原簿ヲ管掌スル官吏ノ長ニ向テ發スルモノトス但シ郵便貯金ニシテ拂出證書ヲ發行シタルモノ及通帳ノ呈示ニ依リ即時拂渡ヲ爲スヘキモノニ對スル差押命令ハ之カ仕拂ヲ爲スヘキ出納官吏ニ向テ發スルモノトス
第二條 繼續收入ノ債權差押ノ場合ニ於テ關係官廳又ハ金庫ニ變更アルトキハ甲官吏又ハ甲金庫ノ受ケタル差押命令ハ乙官吏又ハ乙金庫ニ於テ之ヲ承繼スルモノトス
第三條 差押債權者差押命令送達ノ通知ヲ受ケタルトキ緊急ノ場合ニ於テハ仕拂ヲ執行スヘキ金庫又ハ出納官吏ニ向ヒ假リニ仕拂ノ停止ヲ求ムルコトヲ得(一)
第四條 仕拂命令、仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書及現金引出切符ヲ政府ノ債權者ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ當該仕拂命令官又ハ出納官吏ハ速カニ金庫ニ向テ差押金額ノ仕拂ヲ停止スヘシ(一)
繰替拂ヲ命令スル官吏カ繰替拂ノ命令ヲ發シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ速ニ出納官吏ニ向テ差押金額ノ仕拂ヲ停止スヘシ
第五條 差押ヘラレタル金額ヲ裁判所ノ命令ニ依リ差押債權者ニ仕拂フヲ要スルトキハ當該仕拂命令官、郵便貯金ノ原簿ヲ

- 管掌スル官吏ノ長、繰替拂ヲ命令スル官吏、出納官吏、銀行又ハ金庫ニ於テ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ(一)
第六條 配當要求ノ送達又ハ民事訴訟法第六百七條ノ命令ヲ受ケタル場合ニ於テハ當該仕拂命令官、郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官吏ノ長、繰替拂ヲ命令スル官吏、出納官吏、銀行又ハ金庫ニ於テ供託ノ手續ヲ爲スヘシ(一)
第七條 差押金額ノ仕拂停止、仕拂執行又ハ供託ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ
第八條 假差押命令ノ場合ニ於テハ本令ヲ準用ス

附則

第九條 本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

●政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額ノ仕拂停止、仕拂執行及供託ニ關スル手續

明治二十七年二月七日
大藏省令第二號

改正(一) 明治四十一年四月四日
大藏省令第十二號

政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額ノ仕拂停止仕拂執行及供託ニ關スル手續左ノ通相定ム

- 第一條 仕拂命令官ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ仕拂命令又ハ仕拂請求書並ニ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ニ何之誰ノ差押債權者何之誰渡ト記入シ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ差押債權者ニ交付スヘシ
第一條ノ二 歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ歳出金繰替拂證券又ハ同通知書ニ「何之誰ノ差押債權者何之誰渡」ト記入シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但シ歳出金繰替拂證券又ハ同通知書ヲ發行セサル場合ニ於テハ繰替拂傳票ニ本文ノ記入ヲ爲シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ(一追加)
第一條ノ三 郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官吏ノ長ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ郵便貯金拂出證ニ關スル手續

第九類 參考法規

政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額ノ仕拂停止、仕拂執行及供託

七三三

書ニ「何之誰ノ差押債權者何之誰渡」ト記入シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ(一追加)

第二條 政府カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ仕拂フヘキ金額ノ一部分ナルトキハ其仕拂命令又ハ仕拂請求書歳出金繰替拂證票同通知書又ハ同傳票ヲ各別ニ發行シ差押債權者ニ交付スヘキモノハ前條ノ如ク記入スヘシ(一)

第三條 第二條ノ場合ニ於テ官吏遺族扶助法納金ノ差引ヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ對シ發行スル仕拂命令、仕拂請求書、歳出金繰替拂證票、同通知書又ハ同傳票ニ於テスヘシ(一)

第四條 出納官吏又ハ記名公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押金額ノ仕拂ヲ要スルトキハ差押債權者ヨリ適宜ノ領收證書(公債元利拂ノ場合ニ於テハ公債證書又ハ利札トモ)ヲ徴シ其差押金額ヲ仕拂フヘシ(一)

第五條 金庫出納役又ハ其ノ代理人ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押ヘラレタル預金保管金供託金ノ仕拂ヲ要スルトキハ差押債權者ヨリ明治二十六年大藏省令第十九號第九條ノ領收證書(差押債權者之ヲ調製スルモノトス)及預金通帳又ハ同年大藏省令第二十號第十條ノ保管證書第十二條ノ拂渡證書又ハ明治三十二年大藏省令第六號第九條ノ請求書及受領證第十三條ノ拂渡證書等ヲ提出セシメ總テ預金保管金供託金拂戻ノ例ニ據リ其差押金額ヲ仕拂フヘシ(一)

第六條 金庫出納役又ハ其代理人カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ差押ヘラレタル保管金ノ一部分ナルトキハ明治二十六年大藏省令第二十號第十二條第十五條ノ順序ニ準據シ差押債權者ヲシテ拂渡證書又ハ保管證書分割ノ手續ヲ爲サシメタル上其差押金額ノ仕拂ヲ爲スヘシ

第六條ノ二 出納官吏ニ於テ裁判所ノ命令ニ據リ差押ヘラレタル保管金ノ仕拂ヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル保管金額收證書ヲ差押債權者ヨリ提出セシメタル上差押金額ノ仕拂ヲ爲スヘシ(一追加)

前項ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額カ差押ヘラレタル保管金ノ一部分ナルトキハ保管金額收證書分割ノ手續ヲ爲シタル後差押金額ノ仕拂ヲ爲スヘシ(一追加)

第六條ノ三 出納官吏カ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ郵便貯金、郵便爲替金又ハ郵便取立金ナルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル郵便貯金通帳、郵便貯金拂出證書、郵便爲替證書又ハ郵便取立金取立濟通知書ヲ差押債權者ヨリ提出セシメ貯金、爲替金又ハ取立金拂渡ノ例ニ依リ差押金額ノ仕拂ヲ爲スヘシ(一追加)

前項ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額カ郵便貯金拂出證書、郵便爲替證書又ハ郵便取立金取立濟通知書ニ記載セル金額ノ一部分ナルトキハ適宜ノ領收證書ヲ徴シ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂ヒ郵便貯金拂出證書、郵便爲替證書、郵便取立金取立濟通知書ノ裏書ニ「表記金額ノ内金何程ハ差押債權者何之誰ニ仕拂ヲ了ス」ト記入捺印シ之ヲ政府ノ債權者ニ交付スヘシ(一追加)

第七條 差押債權者明治二十六年勅令第二百六十一號第三條ニ據リ金庫又ハ出納官吏ニ向テ仕拂ノ停止ヲ請求セントスルトキハ差押命令送達通知書ヲ添ヘ第一號書式ノ仕拂停止請求書ヲ金庫又ハ出納官吏ニ差出スヘシ(一)

第八條 金庫又ハ出納官吏ニ於テ第七條ノ請求書ヲ受ケ其金額ノ既ニ仕拂済ナルトキハ直チニ請求書竝ニ差押命令送達通知書ヲ返付スヘシ但仕拂未済ナルトキハ差押命令送達通知書ノミ返付スルモノトス(一)

第九條 仕拂命令官出納官吏既ニ仕拂命令仕拂請求書集合仕拂命令集合仕拂請求書又ハ現金引出切符ヲ政府ノ債權者ニ交付シ若クハ金庫ニ送付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ直チニ第二號書式ノ仕拂停止通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ(一)

第九條ノ二 歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏既ニ歳出金繰替拂證票又ハ同通知書ヲ政府ノ債權者ニ交付シ又ハ繰替拂傳票ヲ出納官吏ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ第二號書式ニ準シ仕拂停止通知書ヲ調製シ遲滞ナク之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ(一追加)

出納官吏現金引出切符ヲ政府ノ債權者ニ交付シタル後前項ノ仕拂停止通知書ヲ受ケタルトキハ直ニ第二號書式ノ仕拂停止通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ(一追加)

第十條 金庫又ハ出納官吏ニ於テ前二條ノ仕拂停止通知書ヲ受ケ其ノ金額ノ既ニ仕拂済ナルトキハ直ニ其ノ旨ヲ附箋シテ通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ(一追加)

第九條 參考法規 政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額ノ仕拂停止、仕拂執行及供託ニ關スル手續

七三五

知書ヲ返付スヘシ(一)

第十一條 仕拂停止ノ通知ヲ爲シタル後差押ノ解除アリタルトキハ其ノ通知ヲ發シタル官吏直ニ第三號書式ノ仕拂停止解除通知書ヲ金庫又ハ出納官吏ニ送付スヘシ(一)

第十二條 仕拂命令官出納官吏裁判所ノ命令ニ據リ第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル金額ヲ差押債權者ニ仕拂フコトヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル仕拂命令仕拂請求書通知書(明治二十六年大藏省訓令第四十號附屬第一號書式ノ以下同シ)又ハ現金引出切符ヲ差押債權者ヨリ提出セシメ之ニ同書式中何之誰渡トアル渡ノ文字ニ朱ノ二線ヲ劃シ其下ニ「ノ差押債權者何之誰渡」(通知書ノ場合ニハ何某殿トアル何某ノ文字ニ朱ノ二線ヲ劃シ「何某ノ差押債權者何之誰」ト記入シ差押債權者ニ交付スヘシ(一))

第十二條ノ二 歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏裁判所ノ命令ニ據リ第九條ノ二ノ仕拂停止ヲ爲シタル金額ヲ差押債權者ニ仕拂フコトヲ要スルトキハ政府ノ債權者ニ交付シアル歳出金繰替拂證券又ハ同通知書ヲ差押債權者ヨリ提出セシメ前條ノ例ニ依リ訂正ノ記入ヲ爲シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ仕拂ハシムル場合ニ於テハ本文ニ準シ該傳票ニ訂正ノ記入ヲ爲スヘシ(一追加)

第十三條 第十二條ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ仕拂命令仕拂請求書通知書又ハ現金引出切符ニ記載シタル金額ノ一部分ナルトキハ仕拂命令仕拂請求書通知書又ハ現金引出切符ノ裏面ニ「表面ノ金額内何程別ニ差押債權者何之誰ニ仕拂フヘシ」ト記入シ之ヲ政府ノ債權者ニ交付シ尙ホ第四號書式ニ據リ金庫ニ於テ差押金額ヲ受取ルヘキ證券ヲ調製シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ

第十三條ノ二 第十二條ノ一ノ場合ニ於テ差押債權者ニ仕拂フヘキ金額ニシテ歳出金繰替拂證券又ハ同通知書ニ記載シタル金額ノ一部分ナルトキハ其ノ裏面ニ「表記金額ノ内金何程ハ差押債權者何之誰ニ拂渡ヲ要スルニ依リ別ニ歳出金繰替拂證券(又ハ同通知書)ヲ發行ス」ト記入捺印シ之ヲ政府ノ債權者ニ交付シ別ニ差押金額ニ對スル歳出金繰替拂證券又ハ同通知書ヲ發

行シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ仕拂ハシムル場合ニ於テハ該傳票ノ金額及氏名ノ傍ニ「内金何程ハ差押債權者何某渡」ト朱書シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ(一追加)

第十四條 第十二條第十三條ノ手續ヲ爲スニ當リ既ニ現金引出切符ノ無効トナリタルトキハ更ニ現金引出切符ヲ發行シ差押債權者ニ交付スヘシ

第十五條 仕拂命令官出納官吏第十二條ノ記入ヲ爲シタルトキハ第五號書式第十三條ノ記入ヲ爲シタルトキハ第六號書式ノ仕拂通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ(一)

第十五條ノ二 歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏第十二條ノ二及第十三條ノ二ノ記入ヲ爲シタルトキハ仕拂通知書ヲ調製シ遲滞ナク之ヲ出納官吏ニ送付スヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ仕拂ハシムル場合ハ此ノ限ニアラス(一追加)

第十六條 第七條、第九條及第九條ノ二ノ規定ニ依リ仕拂停止ヲ爲シタル金額ハ第十一條ノ仕拂停止解除ノ通知又ハ第十五條若ハ第十五條ノ二ノ仕拂通知アルニアラサレハ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス(一)

第十七條 金庫又ハ出納官吏第十二條、第十三條及第十三條ノ二ノ記入アル仕拂命令、仕拂請求書、通知書、歳出金繰替拂證券、同通知書、現金引出切符又ハ證券ヲ以テ現金仕拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ普通仕拂ニ關スル手續ヲ爲シタル上第十五條又ハ第十五條ノ二ノ通知書ト對査シ之カ仕拂ヲ爲スヘシ繰替拂傳票ニ依リ仕拂ヲ爲ス場合モ亦之ニ準ス(一)

第十八條 仕拂命令官、出納官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ仕拂命令、仕拂請求書、現金引出切符又ハ現金ニ明治三十二年大藏省令第六號附屬第一號書式ノ供託書ヲ添ヘ金庫ニ送附シ其ノ旨執行裁判所ニ通知スヘシ但シ供託受領證ハ當該仕拂命令官又ハ出納官吏ニ於テ之ヲ保管シ若シ執行裁判所ヘ送付ヲ要スルトキハ之ヲ裁判所ニ送付シ其ノ領收證書ヲ受クヘシ(一)

第十八條ノ二 歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ供託スヘキ金額ニ對スル歳出金繰替拂證券又ハ同傳票ヲ發行シ其ノ裏面若ハ餘白ニ「表(前)記ノ金額ハ何執行裁判所ノ命令ニ依リ金庫ヘ供託スル爲何出納官吏

第九類 參考法規

政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額ノ仕拂停止、仕拂執行及供託ニ關スル手續

ニ拂渡ヲ要ス」ト記入捺印シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ(一追加)

第十八條ノ三 郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ供託スヘキ金額ニ對スル郵便貯金拂出證書ヲ發行シ其ノ裏面ニ「表記ノ金額ハ何執行裁判所ノ命令ニ依リ金庫ヘ供託スル爲何局所出納官吏ニ拂渡ヲ要ス」ト記入捺印シ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ(一追加)

第十八條ノ四 出納官吏前二條ノ歳出金繰替拂證券、同傳票又ハ郵便貯金拂出證書ヲ受ケタルトキハ現金ニ明治三十二年大藏省令第六號附屬第一號書式ノ供託書ヲ添ヘ金庫ヘ送付シ其ノ旨執行裁判所ヘ通知ノ手續ヲ爲スヘシ(一追加)

第十八條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(一追加)

第十九條 第十八條及第十八條ノ二ノ供託スヘキ金額ニシテ政府ノ債權者ニ仕拂フヘキ金額ノ一部分ナルトキハ仕拂命令、仕拂請求書、現金引出切符、歳出金繰替拂證券又ハ同傳票ヲ各別ニ發行シ各其ノ所定ノ手續ヲ爲スヘシ(一)

第二十條 差押金額ヲ供託シタル仕拂命令官歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏、郵便貯金ノ原簿ヲ管掌スル官署ノ長、出納官吏ニ於テ取立命令ヲ受ケタル後配當ニ與カルヘキ各債權者連署ノ仕拂請求又ハ裁判所ノ命令アリタルトキハ供託金拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ(一)

第二十一條 仕拂命令官出納官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ第九條ノ仕拂停止ヲ爲シタル後ナルトキハ第七號書式ノ政府ノ債權者ニ交付シタル仕拂命令仕拂請求書通知書又ハ現金引出切符ノ取消通知書ヲ金庫及政府ノ債權者ニ送付シタル上第十八條第十九條ノ手續ヲ爲スヘシ(一)

第二十一條ノ二 歳出金ノ繰替拂ヲ命令スル官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ第九條ノ二ノ仕拂停止ヲ爲シタル後ナルトキハ第七號書式ニ準シ政府ノ債權者ニ交付シタル歳出金繰替拂證券、同通知書ノ取消通知書ヲ調製シ之ヲ出納官吏及政府ノ債權者ニ送付シタル後第十八條ノ二及第十九條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ繰替拂傳票ニ依リ出納官吏ヲシテ仕拂ハシムルモノナルトキハ同官吏ヨリ繰替拂傳票ヲ提出セシメタル後本文後段ノ手續ヲ爲スヘシ(一追加)

第二十一條ノ三 出納官吏ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スル場合ニシテ當該差押金額カ郵便貯金、郵便爲替金、郵便取立金ナルトキハ政府ノ債權者ニ交付シタル郵便貯金通帳、郵便貯金拂出證書、郵便爲替證券、郵便取立金取立濟通知書ヲ提出セシメタル後第十八條ノ四及第十九條ノ手續ヲ爲スヘシ(一追加)

第二十二條 銀行又ハ金庫ニ於テ差押金額ノ供託ヲ要スルトキハ其現金ニ明治三十二年大藏省令第六號附屬第一號書式ノ供託書ヲ添ヘ金庫ニ送付シ其旨執行裁判所ニ通知スヘシ但供託受領證ハ其銀行又ハ金庫ニ保管シ若クハ執行裁判所ニ送付ヲ要スルトキハ之ヲ該裁判所ニ送付シ其領收證書ヲ徴スヘシ(一)

第二十三條 差押金額ヲ供託シタル銀行又ハ金庫ニ於テ取立命令ヲ受ケタル後配當ニ與カルヘキ各債權者連署ノ仕拂請求又ハ裁判所ノ命令アリタルトキハ第四條第五條差押金額仕拂ノ例ニ據リ供託金拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ(第一號書式) (用紙美濃二ツ切)

仕拂停止請求書

某年度何廳所管仕拂命令官官氏名發行

仕拂命令(仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書)第何號何之誰渡又ハ渡ノ内

一金何程

又ハ

明治何年何月何日第何號

出納官吏官氏名發行現金引出切符何之誰渡又ハ渡ノ内

右ハ別紙之通り裁判所ヨリ差押命令送達ノ通知ヲ領シ候ニ付仕拂停止相成度明治二十六年勅令第二百六十一號第三條ニ據リ此段請求候也

年 月 日

何之誰債權者

第九類 參考法規

政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額ノ仕拂停止、仕拂執行及供託ニ關スル手續

何府(縣)何地

何之

誰

七四〇

何地金庫宛

(第二號書式) (用紙美濃二ツ切)

仕拂停止通知書

某年度何廳所管

一金何程

仕拂命令(仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書)第何號何之誰渡又ハ渡ノ内
金額氏名表第何號何之誰渡又ハ渡ノ内(本文ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令、集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル)

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符何之誰渡又ハ渡ノ内

右ハ差押命令ヲ受ケタルニ付仕拂停止相成度明治二十六年勅令第二百六十一號第四條ニ據リ此段通知候也

仕拂命令官 官 氏

名

年 月 日

又ハ

出納官吏官 官 氏

名

何地金庫宛

(第三號書式) (用紙美濃二ツ切)

仕拂停止解除通知書

某年度何廳所管

一金何程

仕拂命令(仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書)第何號何之誰渡又ハ渡ノ内
金額氏名表第何號何之誰渡又ハ渡ノ内(本文ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令、集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル)

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符何之誰渡又ハ渡ノ内

右金額明治何年何月何日付ヲ以テ仕拂停止及通知置候處今般差押解除相成候此段通知候也

仕拂命令官 官 氏

名

年 月 日

又ハ

出納官吏官 官 氏

名

何地金庫宛

(第四號書式) (用紙美濃二ツ切)

證 票

何府(縣)何地

差押債權者 何 之

誰

右者「某年度何廳所管仕拂命令(仕拂請求書集合仕拂命令集合仕拂請求書)第何號何之誰渡ノ内」(金額氏名表第何號何之誰渡ノ内)(金額氏名表云々ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令、集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル)又ハ「明治何年何月何日第何號現金引出切符何之誰渡ノ内」金何程ノ仕拂ヲ受クヘキ差押債權者タルコトヲ證明ス

仕拂命令官 官 氏

名

年 月 日

又ハ

第九類 參考法規

政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額ノ仕拂停止、仕拂執行及供託ニ關スル手續

七四一

何地金庫宛

出納官吏官 氏 名 誰

前記證券ノ金額何程正ニ領收候也

年 月 日

差押債權者 何 之 誰

何地金庫宛

備考 「前記證券云々」以下ハ差押債權者ニ於テ記入スルモノトス

(第五號書式) (用紙美濃ニツ切)

差押金額仕拂通知書

某年度何廳所管第何號

案内仕拂命令(案内仕拂請求書)金何程何之誰渡

又ハ

仕拂命令(仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書、金額氏名表第何號)

金何程何之誰渡

又ハ

明治何年何月何日第何號案内引出切符何之誰渡

右ニ對スル仕拂命令(仕拂請求書、通知書、現金引出切符)ニ明治二十七年大藏省令第二號第十二條ニ據リ差押債權者何之誰渡ト記入シ差押債權者ニ交付ス此段通知候也

年 月 日

仕拂命令官 官 氏 名 誰

又ハ

何地金庫宛

出納官吏官 氏 名 誰

(第六號書式) (用紙美濃ニツ切)

差押金額仕拂通知書

某年度何廳所管

仕拂命令(仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書)第何號何之誰渡ノ内

一金 何程 金額氏名表第何號何之誰渡ノ内(本文ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令、集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル)

又ハ

明治何年何月何日第何號

現金引出切符何之誰渡ノ内

右金額差押債權者何府(縣)何地何之誰ヘ仕拂可有之此段通知候也

年 月 日

仕拂命令官 官 氏 名 誰

又ハ

出納官吏官 氏 名 誰

何地金庫宛

(第七號書式ノ甲) (用紙美濃ニツ切)

取消通知書

某年度何廳所管第何號

仕拂命令(仕拂請求書)金何程何之誰渡

第九類 參考法規

政府カ第三債務者トシテ差押ヘラレタル債務額ノ仕拂停止、仕拂執行及供託ニ關スル手續

又ハ
仕拂命令(仕拂請求書)又ハ「集合仕拂命令、集合仕拂請求書、金額氏名表第何號」ニ係ル第何號通知書金何程何某宛

又ハ
明治何年何月何日第何號
現金引出切符金何程何之誰渡

右ハ明治何年何月何日仕拂停止及通知置候處今般該仕拂命令(仕拂請求書、通知書、現金引出切符)取消候ニ付「右ニ係ル案内仕拂命令(案内仕拂請求書、案内引出切符、仕拂命令^{送金ノ裏書}アルモノ)返付相成度」又ハ「右ニ對スル集合仕拂命令ノ金額何程ニ更正シ金額氏名表中第何號ヲ取消ス」此段通知候

年 月 日
仕拂命令官 氏 名
又ハ
出納官吏官 氏 名

何 地 金 庫 宛
(第七號書式ノ乙) (用紙美濃ニツ切)

取消通知書
某年度何廳所管第何號
仕拂命令(仕拂請求書)金何程何之誰渡
又ハ
仕拂命令(仕拂請求書)又ハ「集合仕拂命令、集合仕拂請求書、金額氏名表」第何號ニ係ル第何號通知書

書金何程何某宛

又ハ
明治何年何月何日第何號
現金引出切符金何程何之誰渡

右ニ對シ仕拂フヘキ金額ハ明治二十六年勅令第二百六十一號第六條ニ據リ供託セリ依テ曩ニ交付セシ前記仕拂命令(仕拂請求書通知書現金引出切符)ヲ取消ス此段通知候也

年 月 日
仕拂命令官 氏 名
又ハ
出納官吏官 氏 名

● 國庫出納金端數計算法

大正五年一月二十九日
法律第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國庫出納金端數計算法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國庫出納金端數計算法

第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

第二條 國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第三條 分割シテ收入シ又ハ仕拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス

第九類 參考法規 國庫出納金端數計算法

第四條 分割シテ收入又ハ仕拂ヲ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未滿ナルトキ又ハ之ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租ノ分納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 賣藥印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス

法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

第七條 本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ

仍其ノ效力ヲ有ス

●國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル

命令ノ件

大正五年三月三十一日
勅令第五十六號

朕國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國庫ノ收入及支拂中左ニ掲クル種目ニハ國庫出納金端數計算法ヲ適用セス

- 一 切手及印紙類賣下代金
- 二 沒入金、沒收金及犯罪ニ基ク追徵金
- 三 法令ニ依リ當然國庫ニ歸屬スル收入金
- 四 貨幣交換差金
- 五 外國貨幣ヲ基礎トスル收入金及仕拂金

六 缺損補填金

七 切手貯金拂込金

附則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上

圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定

大正五年三月三十一日
大藏省令第二號

改正(一) 大正七年四月四日
大藏省令第十一號

(二) 大正十五年六月二十一日
大藏省令第二十六號

(三) 昭和十年三月三十日
大藏省令第六號

(四) 昭和十二年四月一日
大藏省令第九號

國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅ヲ指定スル左ノ如シ

- 一 第一種所得稅
- 二 第三種所得稅
- 三 營業收益稅(二追加)
- 四 乙種資本金子稅(二追加)
- 五 法人資本金稅(四追加)
- 六 外貨債特別稅(四追加)
- 七 相續稅
- 八 取引稅

第九類 參考法規

國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル命令ノ件 國庫出納金端數計算法
第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定

九 取引所營業稅

十 鑛產稅

十一 特別鑛產稅(四追加)

十二 臨時利得稅(三追加)

附則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十年大藏省令第六號附則

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十二年大藏省令第九號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●會計法

大正十年四月八日
法律第四十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル會計法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ每年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一 會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度七月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ之ヲ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 毎會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第五條 政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ニ依リ日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ預金トス

第六條 政府ハ國庫金出納上必要アルトキハ大藏省證券ヲ發行シ又ハ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

大藏省證券及借入金ハ當該年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

大藏省證券及借入金ノ最高額ハ毎年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第二章 豫算

第七條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ヲ除クノ外追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス

第八條 歳入歳出ノ總豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

一 歳入豫算明細書

二 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第九條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一 豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二 豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第十條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ其ノ第一豫備金支出ニ係ルモノハ年度經過後其ノ第二豫備金支出ニ係ルモノハ次ノ

第九類 參考法規 會計法

常會ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス

第十一條 政府ハ豫算ニ定ムルモノ及特ニ帝國議會ノ協贊ヲ經タルモノヲ除クノ外災害事變其ノ他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テハ翌年度ニ互ル契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ毎年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十二條 租稅其ノ他ノ歳入ハ法令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收又ハ收納スヘシ

法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收又ハ收納スルコトヲ得ス但シ各廳事務員ヲシテ收納ヲ分掌セシムル場合又ハ日本銀行ヲシテ收納ヲ取扱ハシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四章 支出

第十三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第十四條 國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

第十五條 國務大臣其ノ所管定額ヲ支出セムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ振出スヘシ但シ他ノ官吏ニ委任シテ小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第十六條 國務大臣ハ債主ノ爲ニスルニ非サレハ小切手ヲ振出スコトヲ得ス但シ以下四條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏又ハ日本銀行ニ對シ資金ヲ交付スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定ムル經費ニ限り主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

第十八條 國務大臣ハ日本銀行ニ命シ國債ノ元利拂ヲ爲サシムル爲之カ資金ヲ日本銀行ニ交付スルコトヲ得

第十九條 國務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金支拂ヲ爲サシムル爲當該官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル歳入金、歳出金又ハ歳入歳出外現金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金ヲ補填スル爲國務大臣ハ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

第二十條 國務大臣隔地者ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ必要ナル資金ヲ日本銀行ニ交付シ之カ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定メタル場合ニ限り前金拂又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得但シ軍艦、兵器、彈藥若ハ外國ヨリ直接購入スル機械圖書ノ代價及官公署ニ對シ支拂フヘキ經費ヲ除クノ外物件ノ製造若ハ買入又ハ工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 國務大臣ハ特殊ノ經理ヲ必要トスル場合ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五章 決算

第二十三條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル歳入歳出ノ總決算ハ翌年開會ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第二十四條 總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用キ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

- 歳入ノ部
- 歳入ノ部
- 歳入豫算額
- 調定済歳入額
- 收入済歳入額
- 不納缺損額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

支出済歳出額

翌年度繰越額

不用額

第二十五條 總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

一 歳入決算明細書

二 各省決算報告書

三 國債計算書

第六章 歳計剩餘定額繰越過年度支出豫算外收入及定額戻入

第二十六條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十七條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル

事故ノ爲ニ竣工又ハ納入若ハ運搬ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十八條 數年ヲ期シテ竣工スヘキ工事製造其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ支出殘額ヲ竣工年度迄逐次繰越シ使用スルコトヲ得

第二十九條 過年度ニ屬スル經費ハ現年度定額ヨリ支出スヘシ但シ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノヲ除クノ外其ノ經費所屬

年度ノ毎項定額中不用ト爲リタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十條 出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入其ノ他豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ支出済歳出ノ返納金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルルコトヲ得

第七章 契約

第三十一條 政府ニ於テ賣買貸借請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ勅令ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外總テ公告シテ競争ニ付スヘシ

國務大臣前項ノ方法ニ依リ契約ヲ爲スヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ不動産賣拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八章 時効

第三十二條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時効ニ關シ他ノ法律ニ規定ナキトキハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十三條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニ付消滅時効ノ中斷停止其ノ他ノ事項ニ關シ適用スヘキ他ノ法律ノ規定ナキトキハ民法ノ規定ヲ準用ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十四條 法令ノ規定ニ依リ政府ノ爲ス納入ノ告知ハ民法第五百十三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力ヲ有ス

第九章 出納官吏

第三十五條 出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ

出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第三十六條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十七條 國務大臣ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳ノ事務員ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ分掌セシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ事務員ニ付之ヲ準用ス

第三十八條 第十五條ニ定メタル小切手振出ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十九條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四十條 政府ハ其ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第四十一條 日本銀行ハ其ノ取扱ヒタル國庫金ノ出納、國債ノ發行ニ依ル收入金ノ收支、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル資金ノ收支及前條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル有價證券ノ受拂ニ關シ會計検査院ノ検査ヲ受クヘシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年勅令第四百八十六號ヲ以テ大正十一年四月一日ヨリ施行)

明治二十七年法律第十六號、明治三十三年法律第五十號及明治四十四年法律第二十四號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ爲シタル第二豫備金ノ支出竝本法施行ノ日ノ屬スル年度ノ前年度及前々年度ノ決算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前ニ期滿免除ト爲ラサル權利ニ付テハ本法其ノ他ノ法律中時効ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ期間ノ起算點ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

本法施行前ニ進行ヲ始メタル期滿免除ノ期間カ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ從前ノ規定ニ依ル但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ本法其ノ

他ノ法律ヲ適用ス

前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●會計規則 大正十一年一月九日 勅令第一號

改正(一)昭和七年六月二十九日 勅令第百號 (二)昭和八年十二月二十八日 勅令第三百三十號

朕會計規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計規則

第一章 總則

第一節 會計年度所屬區分

第一條 歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一 納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度

二 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發スルモノハ納入ノ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歲出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一 國債ノ元利、年金、恩給ノ類ハ支拂期日ノ屬スル年度

二 諸拂戻金、缺損補填金、償還金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

三 俸給、給料、手当、旅費、手數料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

四 使用料、保管料、電燈電力料ノ類ハ其ノ支拂ノ原因タル事實ノ存シタル期間ノ屬スル年度

五 工事製造費、物件ノ購入代價、運賃ノ類ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ日ノ屬スル年度

第九類 參考法規 會計規則

七五五

六 前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其ノ繰替拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度、其ノ他ノモノハ小切手ヲ振出シタル日ノ屬スル年度

七五六

第二節 國庫金ノ出納

第三條 日本銀行ハ本令ニ依ルノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金出納ノ事務ヲ取扱フヘシ

日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ政府預金トシ其ノ種別及受拂ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノニ限り相當ノ利子ヲ附セシム(一)

第五條 毎年度所屬歲入金ヲ日本銀行ニ於テ受入ルルハ翌年度四月三十日限トス但シ左ニ掲クルノ場合ニ於テハ翌年度五月三十一日迄之カ受入ヲ爲スコトヲ得

- 一 出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歲入金ノ拂込アリタルトキ
 - 二 市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歲入金ノ送付アリタルトキ
 - 三 國庫内ニ於テ移換ニ依ル歲入金ノ受入ヲ爲ストキ
- 毎年度所屬歲出金ヲ日本銀行ニ於テ支拂フハ翌年度五月三十一日限トス

第二章 豫算

第一節 總豫算

第六條 大藏大臣ハ歲入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歲入歳出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ニハ歲計全體ニ關スル説明ヲ附スヘシ

第七條 歲入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歲入ノ性質ヲ明ニスヘシ

第八條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第九條 歲入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 歲入豫算明細書

第十條 大藏大臣ハ毎年度歲入ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ歲入豫算明細書ヲ調製スヘシ

歲入豫算明細書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項ノ金額ヲ各目ニ區分シ各項毎ニ増減ノ事由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第三節 豫定經費要求書

第十一條 各省大臣ハ毎年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十二條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ必要ノ場合ニ於テハ更ニ之ヲ細分シ經費所要ノ理由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十三條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ附スヘシ

第四節 支拂豫算

第十四條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

支拂豫算ハ各款各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十五條 支拂豫算ヲ更定シタルトキハ其ノ計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

第十六條 大藏大臣支拂豫算又ハ其ノ更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五節 豫備金支出

第十七條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九類 參考法規 會計規則

七五七

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ要求書ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣ハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知シ且其ノ事項及金額ヲ官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 第一豫備金ヲ以テ補充シタル金額ハ各省大臣其ノ計算書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第一豫備金支出ノ總計算書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 第二豫備金ヲ以テ支辨シタル金額ハ各省大臣其ノ調書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ毎年度帝國議會常會ノ開會後直ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第二豫備金支出ノ總調書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ調書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六節 翌年度ニ互ル契約

第二十六條 各省大臣災害事變其ノ他避クヘカラサル事由ノ爲會計法第十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ結フノ必要アリト認ムルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十七條 大藏大臣前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三章 收入

第一節 徵收

第二十八條 歳入徵收官ハ法律又ハ勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外各省大臣ノ定ムル各廳ノ長ヲ以テ之ニ充ツ但シ各省大臣必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ特例ヲ設クルコトヲ得

歳入徵收官必要アリト認ムルトキハ他ノ官吏ヲシテ其ノ徵收事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二十九條 支出済ト爲リタル歳出ノ返納金ヲ歳入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ該經費ヲ支出シタル支出官之カ歳入徵收官トシテ徵收ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條 歳入徵收官租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收セムトスルトキハ法令ニ違フコトナキカ、所屬年度及歳入科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査シ之ヲ決定スヘシ

第三十一條 歳入徵收官前條ノ決定ヲ爲シタルトキハ納人ニ對シ其ノ納付スヘキ金額、期日及場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ出納員ニ即納セシムル場合ハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ總テ納入ノ告知書ヲ發シタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二節 收納

第三十三條 出納官吏又ハ出納員租稅其ノ他ノ歳入金ヲ收納シタルトキハ領收證書ヲ納人ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ出納官吏收納済ノ旨ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第三十四條 出納官吏又ハ出納員ノ收納シタル現金ハ出納官吏之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三十五條 日本銀行ニ於テ歳入金ヲ收納シ又ハ歳入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ納人又ハ拂込人ニ交付シ領收済ノ旨ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三十六條 毎年度所屬歳入金ヲ出納官吏又ハ出納員ニ於テ收納スルハ翌年度四月三十日限トス

第三節 報告

第三十七條 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ歳入事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十八條 歳入事務管理廳ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第一節 總則

第三十九條 勅令ヲ以テ指定シタル費途ニ對シテハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ニ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス
大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第四十條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第四十一條 各省大臣他ノ官吏ヲシテ其ノ所管定額ノ支出ヲ爲サシメムトスルトキハ支拂豫算ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第四十二條 支出官ニ事故アルトキハ各省大臣ハ臨時他ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四十三條 本章ノ規定ハ小切手法ノ適用ヲ妨ケス(二)

第二節 小切手ノ振出

第四十四條 支出官ハ小切手振出前其ノ經費ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキカヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ且該經費ハ支拂豫算額ニ超過スルコトナキカ、所屬年度及支出科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査スヘシ

第四十五條 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ受取人ノ氏名、金額、年度、支出科目、番號其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條 小切手ハ一項毎ニ之ヲ振出スヘシ

第四十七條 支出官ノ振出ス小切手ハ大藏大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式持參人拂ト爲スヘシ(二)

第四十八條 支出官隔地ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ支拂場所ヲ指定シ日本銀行ニ之カ資金ヲ交付シ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條 支出官小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五十條 毎年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ小切手ヲ振出スハ翌年度四月三十日限トス但シ國庫内ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金補填ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度五月三十一日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第三節 支拂

第五十一條 小切手ノ呈示アリタルトキハ日本銀行ハ其ノ小切手カ法令ニ違フコトナキカ、券面金額カ支拂豫算各項定額ノ殘高ニ超過スルコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ十日ヲ經過シタルモノト雖一年ヲ經過セサル場合ニ於テハ之カ支拂ヲ爲スヘシ

第五十二條 日本銀行第四十八條ノ規定ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ小切手ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ債主又ハ出納官吏ニ對シ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 毎年度小切手振出済金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十六條ノ歲計剩餘ニ組入レス之ヲ繰越整理スヘシ

第五十四條 前條ノ規定ニ依リ繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

前項ノ規定ハ日本銀行第五十二條ノ場合ニ於テ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ノ返納ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 支出官小切手ノ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ具シ證書類ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ提出シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十六條 前條ノ規定ハ支出官第五十二條ノ場合ニ於テ其ノ支拂ヲ受ケサル債主又ハ出納官吏ヨリ更ニ支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四節 資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費

第五十七條 會計法第十七條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡スルハ左ニ掲クル經費ニ限ル

- 一 陸軍ノ軍隊、學校及病院並海軍ノ部隊、學校、病院及艦船ニ屬スル經費
- 二 陸海軍ノ行軍又ハ演習ニ要スル經費
- 三 陸軍ニ於テ馬匹又ハ糧秣ヲ生産者ヨリ直接購入スル場合ニ要スル經費
- 四 官船ニ屬スル經費
- 五 外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費
- 六 運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費
- 七 廳中常用ノ雜費及旅費但シ一年ノ總額五千圓ヲ超ユルコトヲ得ス
- 八 場所ノ一定セサル事務所ノ經費
- 九 各廳直營ノ工事、製造又ハ造林ニ要スル經費但シ一主任官ニ付常時五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス
- 十 監獄作業賞與金
- 十一 囚人及刑事被告人押送費

十二 證人、鑑定人、通事又ハ參考人ニ支給スル旅費其ノ他ノ給與

第五十八條 前條ノ規定ニ依リ資金ヲ前渡スルハ左ノ區分ニ依ル

- 一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一月分以内ノ費額ヲ豫定シテ交付スヘシ但シ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費、運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費又ハ支拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ依リ六月分以内ヲ交付スルコトヲ得
 - 二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シ事務上差支ナキ限り成ルヘク分割シテ交付スヘシ
- 第五十九條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ前金拂ヲ爲シ得ルハ左ニ掲クル經費ニ限ル但シ第九號乃至第十三號ニ掲クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

- 一 軍艦、兵器又ハ彈藥ノ代價
- 二 外國ヨリ直接購入スル機械又ハ圖書ノ代價
- 三 朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島内ニ居住スル者ニ支給スル徴兵旅費
- 四 運賃
- 五 外國ニ於テ支拂ヲ要スル土地又ハ家屋ノ借料及公課
- 六 政府ノ買収又ハ收用ニ係ル土地ノ上ニ存スル物件ノ移轉料
- 七 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費
- 八 外國ニ於テ研究又ハ調査ニ從事スル者ニ支給スル學資金其ノ他ノ給與
- 九 交通至難ノ場所ニ勤務スル者又ハ艦船乗組ノ者ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與
- 十 軍人、軍屬及陸海軍ノ職工ニ支給スル旅費
- 十一 外國在勤陸海軍武官ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與
- 十二 補助金

十三 諸謝金

第六十條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ概算拂フ爲シ得ルハ左ニ掲クル經費ニ限ル但シ第三號ニ掲クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一 旅費

二 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費

三 補助金又ハ補給金

第六十一條 會計法第二十二條ノ規定ニ依リ事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給シ得ルハ左ニ掲クル官署ノ經費ニ限ル

一 在外各廳

二 遞信官署

三 區裁判所出張所

四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル官署

前項ノ官署ノ種類、渡切ト爲スヘキ歲出科目及支給方法ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五節 繰替拂

第六十二條 各省大臣ハ左ニ掲クル經費ノ支拂ヲ爲サシムル爲出納官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル前渡ノ資金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得但シ第四號ニ掲クル經費ニ繰替使用スヘキ資金ハ艦船經費繰替金ニ限ル

一 旅費

二 埋葬費

三 在外公館ニ於ケル難民貸與金

四 海軍省所管艦船經費

第六十三條 所管大臣ハ左ニ掲クル官署ノ出納官吏又ハ出納員ヲシテ其ノ取扱ニ係ル歲入金、歲出金及歲入歲出外現金ヲ交

五ニ繰替使用セシムルコトヲ得

一 鐵道官署

二 遞信官署

前項ノ規定ニ依ル現金ノ繰替使用ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第六節 年度開始前支出

第六十四條 各省大臣ハ資金前渡ヲ爲シ得ル經費ニ限リ必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ當該年度開始前之カ資金ヲ交付スルコトヲ得

第六十五條 前條ノ場合ニ於テハ各省大臣其ノ前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ計算書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

大藏大臣前項ノ計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ審査ノ上之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第七節 報告

第六十六條 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

第六十七條 所管大臣ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一節 總決算

第六十八條 歲入歲出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ依リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第九類 參考法規 會計規則

第六十九條 大藏大臣ハ總決算ニ歳入決算明細書、各省決算報告書及國債計算書ヲ添ヘ會計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節 歳入決算明細書、各省決算報告書及收入支出計算書

第七十條 大藏大臣ハ歳入豫算明細書ト同一ノ區分ニ依リ歳入決算明細書ヲ調製シ各項毎ニ豫算ニ對スル増減ノ事由ヲ説明スヘシ

第七十一條 歳入事務管理廳ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ毎年度收入濟歳入額ニ付豫算ニ對スル増減計算書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十二條 各省大臣ハ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ依リ其ノ省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十三條 歳入徴收官ハ會計検査院ニ證明ノ爲歳入徴收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十四條 支出官ハ會計検査院ニ證明ノ爲支出計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十五條 前二條ノ計算書ハ歳入事務管理廳又ハ所管大臣ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル官吏ヲシテ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三節 國債計算書

第七十六條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第七十七條 國債計算書ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現在高ヲ示ス計算

- 二 當該年度ニ於テ償還シ及支拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算
- 三 最近五年度間ニ於ケル各種國債増減ノ情況ヲ示ス計算

第六章 定額繰越及定額戻入

第一節 定額繰越

第七十八條 各省大臣會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ調製シ各事件毎ニ其ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

繰越計算書ハ歳出豫算ト同一ノ區分ニ依リ調製シ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一 繰越ヲ要スル項ノ定額
- 二 定額中支出済ト爲リタル額及當該年度所屬トシテ支出スヘキ額
- 三 定額中翌年度ニ繰越ヲ要スル額
- 四 定額中不用ト爲ルヘキ額

第七十九條 會計法第二十七條ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルトキハ豫算ニ於テ明許シタル場合ヲ除クノ外前條ノ繰越計算書ニ契約書ノ寫其ノ他ノ参照書類ヲ添附スヘシ

第八十條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ繰越計算書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二節 定額戻入

第八十一條 支出済ト爲リタル歳出ノ返納金ハ其ノ支拂ヒタル經費ノ定額ニ之ヲ戻入ルルコトヲ得但シ重大ナル過失ニ因リ誤拂過渡ト爲リタル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 支出官前條ノ規定ニ依リ定額ニ戻入レムトスルトキハ返納人ヲシテ其ノ金額ヲ返納セシムヘシ

第八十三條 日本銀行ニ於テ前條ノ返納金ヲ領收シタルトキハ之ニ相當スル金額ヲ支拂豫算定額ニ戻入ノ記帳ヲ爲シ其ノ旨

ヲ支出官ニ通知スヘシ

第八十四條 毎年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日限トス

第七章 契約

第一節 總則

第八十五條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スヘシ

第八十六條 契約書ニハ當該官吏記名捺印スルコトヲ要ス

第八十七條 各省大臣ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ第八十五條ニ規定スル契約書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ第五號ノ場合

ニ於テハ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一 三千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

二 外國ニ於テ五千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

三 驛賣ニ付スルトキ

四 物品賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ

五 第一號及第二號以外ノ隨意契約ニ付各省大臣契約書ヲ作成スルノ必要ナシト認ムルトキ

第八十八條 政府ト契約ヲ結ハムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ契約金額百分ノ十以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ各省大臣ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得前條第三號及第四號ノ場合亦同シ

第八十九條 契約者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外保證金ハ政府ノ所得トス

第九十條 政府ニ屬スル財産ノ賣拂ヲ爲ストキハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ引渡前又ハ移轉ノ登記若ハ

登録前其ノ代金ヲ完納セシムヘシ

第九十一條 財産ノ貸付料ハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ前納セシムヘシ但シ貸付期間ノ長期ニ涉ルモノニ付テハ毎定期ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第九十二條 各省大臣三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ付テハ竣功又ハ完納ノ後之ヲ監督又ハ検査シタル官吏又ハ技術者ヲシテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

契約ニ依リ工事若ハ製造ノ既済部分又ハ物件ノ既済部分ニ對シ完済前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ハムトスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏又ハ技術者ヲ命シ事實ヲ測定シテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ
前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條 前條第二項ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ工事又ハ製造ニ付テハ其ノ既済部分ニ對スル代價ノ十分ノ九、物件ノ買入ニ付テハ其ノ既済部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得但シ箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事又ハ製造ニ於ケル各箇ノ完済部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額迄ヲ支拂フコトヲ得

第九十四條 前二條ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條 本章ニ定ムルモノノ外契約ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 一般競争契約

第九十六條 一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九十七條 各省大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ヲ爾後二年間競争ニ加ラシメサルコトヲ得之ヲ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用シタル者亦同シ

一 契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事、製造又ハ物件ヲ粗雑ニシ又ハ其ノ品質數量ニ關シ欺罔ノ行爲アリタル者

第九類 參考法規 會計規則

- 二 競争ニ際シ不當ニ價格ヲ競上ケ又ハ競下クル目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者
- 三 競争ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落者ノ契約締結若ハ契約ノ履行ヲ妨害シタル者
- 四 検査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者
- 五 正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セサリシ者
- 六 前各號ノ一ニ該當スト認メラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約ニ際シ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用スル者

テ使用スル者

第九十八條 各省大臣ハ前條ノ規定ニ該當スル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ヲ競争ニ加ラシメサルコトヲ得

第九十九條 競争ニ加ラムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ見積金額百分ノ五以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

第一百條 競落者契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス

第一百一條 競争ハ第九九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第一百二條 入札ノ方法ニ依リ競争ニ付セムトスルトキハ其ノ入札期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ十日前ニ官報、新聞紙、掲示其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ但シ急ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ五日迄ニ短縮スルコトヲ得

第一百三條 前條ノ公告ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一 競争入札ニ付スル事項
- 二 契約條項ヲ示ス場所
- 三 競争執行ノ場所及日時
- 四 入札ノ保證金額

第一百四條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ競争入札ニ付スル事項ノ價格ヲ豫定シ其ノ豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第一百五條 開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札者ニシテ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ

入札者ハ一旦提出シタル入札書ノ引換、變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス

競争加入ノ資格ナキ者ノ爲シタル入札又ハ入札ニ關スル條件ニ違反シタル入札ハ無効トス

第一百六條 開札ノ場合ニ於テ各人ノ入札中第四百四條ノ規定ニ依リ豫定シタル價格ノ制限ニ達シタルモノナルトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百七條 落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ爲サシムヘシ

第一百八條 入札者若ハ落札者ナキ場合又ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ入札ニ付セムトスルトキハ第一百二條ノ期間ハ五日迄ニ之ヲ短縮スルコトヲ得

第一百九條 各省大臣動産ノ賣拂ニ付特別ノ事由ニ因リ必要アリト認ムル場合ニ於テハ大藏大臣ト協議シ本節ノ規定ニ準シ賣ニ付スルコトヲ得

第三節 指名競争契約

第一百十條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ指名競争ニ付スルコトヲ得

- 一 契約ノ性質又ハ目的ニ依リ競争ニ加ルヘキ者少數ニシテ一般ノ競争ニ付スルノ必要ナキトキ
- 二 一萬圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ五千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ
- 三 賃借料年額又ハ總額三千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
- 四 豫定賃貸料年額又ハ總額千圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ

- 五 豫定代價二千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 六 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額四千圓ヲ超エサルトキ
隨意契約ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ指名競争ニ付スルコトヲ妨ケス
- 第七十一條 指名競争ニ付セムトスルトキハ成ルヘク五人以上ノ入札者ヲ指定スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ第三百三條ニ規定シタル事項ヲ各入札者ニ通知スヘシ
- 第七十二條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競争ニ付シテ契約ヲ結ヒタルトキハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
- 第七十三條 第九十七條乃至第一百一條、第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ指名競争契約ノ場合ニ之ヲ準用ス
各省大臣必要ナシト認ムル場合ニ於テハ第九十九條ノ保證金ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第四節 隨意契約

- 第七十四條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
 - 一 契約ノ性質又ハ目的ノ力競争ヲ許ササルトキ
 - 二 急迫ノ際競争ニ付スルノ暇ナキトキ
 - 三 政府ノ行爲ヲ秘密ニスルノ必要アルトキ
 - 四 五千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ
 - 五 賃借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
 - 六 豫定貸付料年額又ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
 - 七 豫定代價千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
 - 八 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額二千圓ヲ超エサルトキ

- 九 勞力ノ供給ヲ請負ハシムルトキ
 - 十 運送又ハ保管ヲ爲サシムルトキ
 - 十一 官廳相互間ニ於テ契約ヲ爲ストキ
 - 十二 農工場、學校、試験所、監獄其ノ他之ニ準スヘキモノノ生産又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂ヲ爲ストキ
 - 十三 法律勅令ノ規定ニ依リ財産ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ其ノ財産ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
 - 十四 非常災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ政府ノ生産ニ係ル建築材料ノ賣拂ヲ爲ストキ
 - 十五 外國ニ於テ契約ヲ爲ストキ
 - 十六 道府縣市町村其ノ他ノ公法人、公益法人、産業組合又ハ慈善ノ爲ニ設立シタル教育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ
 - 十七 移住地域内ニ於ケル土木工事ヲ其ノ移住民ノ共同請負ニ付スルトキ
 - 十八 學術又ハ技藝ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
 - 十九 産業又ハ拓殖事業ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂若ハ貸付ヲ爲ストキ又ハ生産者ヨリ直接ニ其ノ生産若ハ製造ニ係ル物品ノ買入ヲ爲ストキ
 - 二十 公共用、公用又ハ公益事業ニ供スル爲必要ナル物件ヲ直接ニ公共團體又ハ起業者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
 - 二十一 土地、建物、林野又ハ其ノ產物ヲ之ニ特別ノ緣故アル者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
 - 七十二 事業經營上特ニ必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地建物ノ借入ヲ爲ストキ
 - 二十三 法律勅令ノ規定ニ依リ問屋業者ニ販賣ヲ委託スルトキ又ハ之ヲシテ販賣ヲ爲サシムルトキ
- 前項第十九號乃至第二十三號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫メ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス
前項ノ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏大臣直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第百十五條 競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナキトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ保證金及期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十六條 落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ落札金額ノ制限内ニ於テ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十七條 前二條ノ場合ニ於テ豫定價格又ハ落札金額ヲ分割計算シ得ル場合ニ限り該價格又ハ金額ノ制限内ニ於テ各目的ニ付之ヲ數人ニ分割シテ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十八條 隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徴スヘシ

第百十九條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依リタル場合ニ於テハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第八章 保管金及有價證券

第百二十條 政府ハ法律勅令ノ規定ニ依ルニ非サレハ公有又ハ私有ノ現金又ハ有價證券ヲ保管セス

第百二十一條 政府ノ保管ニ係ル現金ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第百二十二條 政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之カ取扱ヲ爲サシム

第百二十三條 政府ノ保管ニ係ル現金又ハ政府ノ所有若ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱手續ニ關シテハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外大藏大臣之ヲ定ム

第九章 出納官吏

第一節 總則

第百二十四條 本令ニ於テ出納官吏ト稱スルハ現金ノ出納保管ヲ掌ル官吏ヲ謂フ

第百二十五條 出納官吏ハ各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ命ス

第百二十六條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏必要アリト認ムルトキハ出納官吏ノ代理官又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

前項ノ代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其ノ一部ヲ分掌スルモノトス

第百二十七條 所管大臣ハ會計法第三十七條ノ規定ニ依リ左ニ掲クル官署ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

一 鐵道官署

二 遞信官署

前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大藏大臣ト協議シ其ノ廳ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第百二十八條 前條ノ規定ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ノ分掌ヲ命セラレタル事務員ハ主任出納官吏又ハ分任出納官吏所屬ノ出納員トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ

第百二十九條 出納員ノ領收シタル現金ハ之ヲ所屬出納官吏ニ拂込ムヘシ但シ所管大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ出納官吏又ハ出納員ニ交付セシムルコトヲ得

第百三十條 出納官吏又ハ出納員其ノ保管ニ屬スル現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタル場合ニ於テハ所管大臣ハ遲滞ナク之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ

第百三十一條 出納官吏及出納員ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ヲ爲スヘシ

第二節 責任

第百三十二條 出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル現金ノ出納保管ニ付單ニ自ラ事務ヲ執ラサルコトヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ其ノ代理官、分任官又ハ所屬出納員ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ出納員ノ責任ニ付之ヲ準用ス

第三百三十三條 代理出納官吏、分任出納官吏又ハ出納員ハ其ノ行爲ニ付會計法第三十五條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百三十四條 各省大臣ハ出納官吏又ハ出納員ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決前ト雖其ノ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ヲ命スルコトヲ得

第三百三十五條 前條ノ場合ニ於テ其ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏又ハ出納員其ノ責ヲ免ルルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其ノ判決ヲ求ムルコトヲ得

所管大臣ハ前項ノ場合ト雖其ノ命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計検査院ニ於テ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其ノ既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付スヘシ

第三節 検査及證明

第三百三十六條 出納官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日又ハ轉免、死亡、退職其ノ他異動アリタルトキ所管大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但シ臨時ニ資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムヘシ

第三百三十七條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ當該出納官吏又ハ出納員事故ニ因リ自ラ検査ヲ受クルコト能ハサルトキハ其ノ代理者又ハ特ニ所管大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第三百三十八條 出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ檢定書ニ通ヲ作成シ検査員及當該出納官吏、出納員又ハ立會人之ニ記名捺印シ一通ハ當該出納官吏、出納員又ハ立會人ニ交付シ一通ハ所管大臣ニ提出スヘシ

第三百三十九條 出納官吏又ハ出納員他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ金櫃ノ検査ヲ執行スル者ハ併セテ他ノ公金ノ検査ヲ行フヘシ

第四百十條 租税其ノ他ノ歳入金ノ收納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ歳入徴收官ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十一條 資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十二條 歳入歳出外現金ノ出納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十三條 第六十三條ノ規定ニ依リ現金ノ繰替使用ヲ爲ス官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十四條 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシ出納員ノ出納ハ總テ所屬出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其ノ報告書及計算書ハ各別ニ提出スルコトヲ要セス但シ所管大臣又ハ會計検査院ニ於テ必要アリト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏又ハ出納員ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第四百十五條 出納官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ第四百十條乃至第四百十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四百十六條 出納官吏又ハ出納員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ計算書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ所管大臣ノ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏又ハ出納員定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ所管大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ
前二項ノ規定ニ依リ調製シタル計算書ハ出納官吏又ハ出納員ノ自ラ調製シタルモノト看做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第四百十七條 出納官吏又ハ出納員ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第十章 日本銀行ノ計算報告及出納證明

第四百四十八條 日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金ノ出納報告書ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

第四百四十九條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲國庫金ノ出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國債ノ發行ニ依ル收入金、國債元利拂資金及隔地者拂資金ノ收支ヲ整理シ之ヲ前項ノ計算書ニ掲記スヘシ

大藏大臣ハ第一項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第五百十條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券受拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第五百十一條 政府ノ爲ニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ政府ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於ケル日本銀行ノ賠償責任ニ付テハ民法及商法ニ依ル

第十一章 帳簿

第五百五十二條 大藏省ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ國庫金ノ出納ヲ登記スヘシ

第五百五十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ歳入主計簿ニハ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記シ歳出主計簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第五百五十四條 歳入徴收官ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第五百五十五條 歳入事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第五百五十六條 支出官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ支拂豫算額、支出濟額及支拂豫算殘額ヲ登記スヘシ

第五百五十七條 各省ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第五百五十八條 出納官吏及出納員ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第五百五十九條 前七條ニ規定スル帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六十條 日本銀行ハ左ニ掲クル帳簿ヲ備ヘ政府ノ爲ニ取扱フ現金ノ出納又ハ有價證券ノ受拂ヲ登記スヘシ

一 國庫金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿

二 支拂豫算額及支拂濟額ヲ登記スヘキ帳簿

三 國債ノ發行ニ依ル收入金ニ關スル出納ヲ登記スヘキ帳簿

四 國債元利拂資金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿

五 隔地者拂資金ノ收支ヲ登記スヘキ帳簿

六 有價證券ノ受拂ヲ登記スヘキ帳簿

前項ノ帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ日本銀行之ヲ定ム

第六十一條 大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上毎年七月三十一日前年度ノ主計簿ヲ締切ルヘシ

第十二章 雜則

第六十二條 本令ニ依リ會計検査院ニ提出スル計算證明書類ノ様式及提出期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第六十三條 前條ノ計算證明書類ヲ除クノ外本令ニ規定スル書類ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六十四條 本令ニ依リ記名捺印ヲ要スル場合ニ於テハ外國ニ在リテハ署名ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第六十五條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外收入及支出ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第六十六條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第六十七條 左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

仕拂命令委任規程

會計年度開始前現金支出規則

明治二十二年勅令第二百一十一號

金庫規則

明治二十三年勅令第二號

明治二十三年勅令第二十號

明治二十三年勅令第三十二號

明治二十三年勅令第三十五號

明治二十三年勅令第四號

明治二十三年勅令第一百八號

明治二十三年勅令第九十三號

明治二十三年勅令第二百七十三號

明治二十三年勅令第二百九十五號

明治二十四年勅令第一號

明治二十四年勅令第二十四號

明治二十四年勅令第七十五號

明治二十四年勅令第六十三號

明治二十六年勅令第五十一號

明治二十六年勅令第七十號

明治二十六年勅令第二百二十八號

明治二十七年勅令第四十號

明治二十七年勅令第七十六號

明治二十八年勅令第四百號

明治二十九年勅令第五百十八號

明治二十九年勅令第二百四十號

明治二十九年勅令第二百六十八號

明治二十九年勅令第三百七十三號

明治三十年勅令第十五號

明治三十年勅令第二十一號

明治三十年勅令第五十八號

明治三十年勅令第二百二十七號

明治三十一年勅令第三十七號

明治三十一年勅令第三十八號

帝國大學資金並學校及圖書館資金所屬森林原野並產物特別處分規則

明治三十一年勅令第七十四號

第九類 參考法規 會計規則

明治三十二年勅令第二十五號
明治三十二年勅令第二百六號
明治三十二年勅令第二百二十九號
明治三十二年勅令第三百三號
明治三十二年勅令第三百六十三號
明治三十二年勅令第三百七十五號
明治三十二年勅令第四百十三號
明治三十二年勅令第四百二十四號
明治三十二年勅令第四百三十七號
明治三十三年勅令第三十九號
明治三十三年勅令第二百八十號
明治三十三年勅令第三百四十二號
明治三十三年勅令第四百八號
明治三十四年勅令第八號
明治三十四年勅令第二百二十號
明治三十五年勅令第二百五號
明治三十五年勅令第二百三十六號
明治三十六年勅令第二十三號
明治三十六年勅令第八十號

明治三十七年勅令第十號
明治三十七年勅令第十七號
明治三十七年勅令第五十四號
明治三十七年勅令第一百七十八號
明治三十七年勅令第二百十七號
明治三十八年勅令第二十二號
明治三十八年勅令第三十二號
明治三十八年勅令第三十五號
郵便電信及電話官署經費渡切規則
明治三十八年勅令第二百二十八號
明治三十八年勅令第二百一號
明治三十八年勅令第二百二號
明治三十八年勅令第二百六十五號
明治三十八年勅令第二百九十號
明治三十九年勅令第九十三號
明治三十九年勅令第一百一號
明治三十九年勅令第二百四十六號
明治三十九年勅令第二百七十號
明治四十年勅令第八十四號

明治四十年勅令第五百十號
明治四十年勅令第二百二十七號
明治四十年勅令第二百六十一號
明治四十年勅令第三百四十一號
明治四十一年勅令第三百三十八號
明治四十一年勅令第五百五十八號
明治四十一年勅令第二百四十八號
明治四十二年勅令第六十一號
明治四十二年勅令第二百二十六號
明治四十三年勅令第三百四十一號
明治四十三年勅令第四百八號
明治四十三年勅令第四百九號
明治四十四年勅令第六十一號
明治四十四年勅令第五十六號
明治四十四年勅令第二百二十號
明治四十四年勅令第二百七十九號
明治四十四年勅令第二百九十二號

大正元年勅令第七號
大正二年勅令第三百三號
大正三年勅令第三號
大正三年勅令第三百三十五號
大正三年勅令第三百三十六號
大正四年勅令第五十五號
大正四年勅令第七十八號
大正四年勅令第八十七號
大正四年勅令第九十五號
大正四年勅令第二百二十五號
大正五年勅令第四十五號
大正五年勅令第五百五十五號
大正五年勅令第六十二號
大正五年勅令第七十三號
大正五年勅令第八十八號
大正五年勅令第九十八號
大正五年勅令第二百十九號
大正六年勅令第五十二號
大正六年勅令第六十二號

大正六年勅令第八十一號

大正六年勅令第二百三十四號

大正七年勅令第二百二十二號

大正八年勅令第三號

大正八年勅令第二十六號

大正八年勅令第三百六十二號

大正九年勅令第二百二十五號

大正九年勅令第三百三十六號

大正九年勅令第五百四十七號

大正十年勅令第四百四十四號

大正十年勅令第四百二十八號

大正六年勅令第三百三十二號ハ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第百六十八條 金庫ニ納付セシムル爲納入ノ告知アリタル歳入金ニシテ本令施行前收納ヲ了セサルモノハ該納入ノ告知ニ依

リ日本銀行ニ於テ之カ收納ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ハ定額戻入ノ爲納入ノ告知アリタル返納金ニシテ本令施行前領收ヲ了セサル場合ニ之ヲ準用ス

第百六十九條 仕拂命令ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ仕拂命令ニ關スル從前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本

令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第五十五條ノ規定ハ前項ノ支拂期間經過後仍會計法附則第五項ノ規定ニ依リ期間ノ滿了セサル債務ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第百七十條 大正十一年五月三十一日迄ニ支拂ノ請求ナキ大正十年度仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ從前ノ例ニ依リ當該

年度ノ歳出支拂未濟金トシテ之ヲ繰越整理スヘシ

第百七十一條 本令施行前繰越整理ニ係ル資金及前條ノ繰越整理ニ係ル資金ニシテ大正十二年三月三十一日迄ニ支拂ヲ了セ

サルモノハ之ヲ大正十一年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第百七十二條 大正十年度支出濟歳出額ハ同年度歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ仕拂命令濟歳出額ニ併算スヘシ

大正十一年度仕拂命令濟歳出額ハ同年度歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ支出濟歳出額ニ併算スヘシ

第百七十三條 大正十年度分ニ限リ金庫ニ備ヘタル支出簿ハ第百六十條第二號ノ帳簿ニ代用セシムルコトヲ得

第百七十四條 前六條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ大藏大臣之ヲ定ム

○昭和七年勅令第百號附則

本令ハ昭和七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和八年勅令第三百三十號附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 支出官事務規程

大正十一年一月十一日
大藏省令第一號

改正 (一) 大正十五年三月二十九日
大藏省令第六號

(二) 昭和元年十二月二十八日
大藏省令第一號

(三) 昭和八年十二月二十八日
大藏省令第三十二號

(四) 昭和九年三月十七日
大藏省令第七號

支出官事務規程左ノ通定ム

支出官事務規程

第一章 總則

第九類 參考法規 支出官事務規程

第一條 支出官ハ本令ノ定ムル所ニ依リ支出ニ關スル事務ヲ處理スヘシ

第二條 支出官ハ支拂豫算ニ依リ定メラレタル日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ヲ以テ其ノ振出ス小切手ノ支拂店ト爲スヘシ

第三條 支出官ノ更迭アリタルトキハ各省大臣ハ直ニ大藏大臣及小切手ノ支拂店ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
各廳長官又ハ八部局長ヲ支出官トスル場合ニ於テ其ノ更迭ヲ官報ニ掲載シタルトキハ前項ノ通知ヲ要セス但シ至急支拂ヲ要スル場合又ハ特ニ各廳長官若ハ八部局長以外ノ者ヲ以テ支出官トスル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 會計規則第四十二條ノ規定ニ依ル代理官ノ任免アリタルトキハ前條第一項ノ規定ニ準シ之カ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 支出官及其ノ代理官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

第六條 支出官特別會計支拂元受高ノ内ヲ翌年度ノ支拂元受高ニ組入ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ請求スヘシ

第七條 支出官特別會計支拂元受高ノ内ヲ當該會計ノ他ノ支出官ノ支拂元受高ニ轉換ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ請求シ振替受拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第八條 本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ(一)

第二章 小切手ノ振出

第一節 總則

第九條 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ支拂金額、支拂店名及受取人ノ氏名ト共ニ其ノ小切手ノ持參人カ支拂ヲ受クルコトヲ得ヘキコト、振出ノ年月日、振出地及支拂地ヲ記載スルノ外年度、所管、會計名、經常臨時部別、款項及番號ヲ附記スヘシ

シ(四)

第十條 官廳、出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出ス小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ指圖禁止ノ旨ヲ記載スヘシ(三)

前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノナルトキハ表面餘白ニ「要振替」ノ印ヲ押捺スヘシ

第十一條 支出官受取人ニ小切手ヲ交付シ支拂了シタルトキハ之カ領收證書ヲ徴スヘシ

第十二條 支出官本章ノ規定ニ依リ小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度第一號書式ノ小切手振出濟通知書ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

第二節 隔地者ニ支拂ヲ爲サシムル爲振出ス小切手

第十三條 支出官小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル債主ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ第二號書式ニ依リ債主ノ住所氏名及支拂場所等ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付スヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テ數人ノ債主ニ對シ同一支出科目ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ合計額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ小切手ノ裏面ニ第二號書式ニ依リ記入ヲ爲シ第三號書式ノ金額氏名表ヲ添附スヘシ

第十五條 前二條ノ場合ニ於テ支出官ハ債主ノ爲最便利ナリト認ムル日本銀行ヲ支拂場所ト爲スヘシ但シ運輸交通不便ナル地方ニ在ル債主ノ請求ニ依リ其ノ住所又ハ居所ニ送金ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得

第十六條 支出官第十三條又ハ第十四條ノ手續ヲ爲シタルトキハ第四號書式ノ歳出金支拂通知書ヲ債主ニ送付スヘシ但シ前條但書ノ規定ニ依リ支拂場所ヲ指定シタル場合ニ於テハ歳出金支拂通知書ニ代ヘ適宜ノ通知書ヲ債主ニ送付シ電信送金ノ場合ニ於テハ電信ヲ以テ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

第十七條 支出官歳出金支拂通知書ノ送付ヲ爲シタル後債主ヨリ該通知書ヲ添ヘ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ

相當ノ事由アリト認メタルトキハ歳出金支拂通知書ニ記載セル支拂場所ヲ訂正シ之ヲ債主ニ返付シ直ニ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ通知スヘシ

第十八條 支出官電信送金ノ通知ヲ爲シタル後債主ヨリ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ支拂未済ナルコトヲ確メタルトキハ前條ノ規定ニ準シ電信ヲ以テ之カ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 支出官外國ニ在ル債主ニ對シ邦貨ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ第五號書式ノ記入ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ直ニ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ但シ電信送金ノ場合ニ於テ必要アリト認メタルトキハ電信ヲ以テ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

第二十條 支出官外國ニ在ル債主ニ對シ外國貨幣ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出シ其ノ裏面ニ第六號書式ノ記入ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ前條ノ規定ニ準シ債主ニ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 第十四條第一項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス(一追加)
前項ノ場合ニ於テハ其ノ小切手ノ裏面ニ第六號ノ二書式ニ依リ記入ヲ爲シ第六號ノ三書式ノ金額氏名表ヲ添附スヘシ(一追加)

第二十二條 本節ノ規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外支出官小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第三節 國庫内移換ノ爲ニ振出ス小切手

第二十二條 支出官他ノ會計ニ資金繰入ノ爲歳出ヲ支出セムトスル場合ニ振出ス小切手ハ之カ繰入ヲ要求スル當該官廳ヲ受取人トシ其ノ裏面ニ歳入年度、所管、會計名及取扱廳名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十三條 前條ノ場合ニ於テ其ノ振替ニ依ル受入濟ノ旨ヲ當該官廳及當該支拂元受高ノ計算ヲ爲ス日本銀行ニ至急通知スルノ必要アルトキハ其ノ旨ヲ記載シ別ニ「要電信通知」ノ印ヲ押捺スヘシ

第四節 俸給又ハ給料支拂、國庫納金、健康保險料被保險者負擔金及相殺ノ爲ニ振出ス小切手(二、四)

第二十四條 支出官恩給法上ノ公務員(軍人ニ在リテハ下士官以上ノ軍人ニ限ル)ニ俸給又ハ給料ノ支拂ヲ爲ス爲振出ス小切手ハ其ノ俸給又ハ給料額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ(四)

支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ國庫納金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「國庫納金」ノ印ヲ押捺シ其ノ裏面ニ歳入年度、所管、會計名及取扱廳名ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十四條ノ二 前條ノ規定ハ支出官カ健康保險法施行令第九十八條ノ規定ニ依リ被保險者ノ負擔スヘキ保險料ヲ其ノ支拂フヘキ報酬ヨリ控除スル場合ニ之ヲ準用ス但シ前條第二項中「國庫納金」トアルハ「健康保險料被保險者負擔金」トス(二追加)

第二十五條 支出官民法ノ規定ニ依リ政府ノ債務ノ一部ニ付私人ノ債務トノ間ニ相殺アリタル場合ニ振出ス小切手ハ政府ノ支拂金額ヨリ相殺額ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ

支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ相殺額ニ相當スル金額ヲ券面金額トシ歳入所屬ノ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「相殺額」ノ印ヲ押捺シ之ヲ當該相殺額ニ對スル納入告知書ニ添附シ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十六條 政府ノ收納スヘキ金額カ相殺額ト同額ナルトキ又ハ之ヲ超過スルトキハ支出官ハ其ノ相殺額ニ付前條第二項ノ手續ニ準シ小切手ヲ振出シ其ノ收納スヘキ金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ其ノ超過額及相殺ノ相手方氏名ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三章 定額戻入

第二十七條 支出官會計規則第八十二條ノ規定ニ依リ經費ノ定額ニ戻入ヲ爲サムトスルトキハ返納人ニ對シ第七號書式ノ返納告知書ヲ發スヘシ

前項ノ場合ニ於テ返納人小切手ノ支拂店以外ノ日本銀行ニ拂込ヲ爲シタルトキ至急ニ定額戻入ヲ要スルモノニ付テハ當該告知書ノ表面餘白ニ「電信戻入」ヲ朱書スヘシ(一追加)

第四章 證明

第二十八條 支出官日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ヨリ支拂濟ニ係ル小切手振出濟通知書ヲ添ヘ歳出金月計突合表又ハ歳出支拂未濟繰越金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日内ニ之ヲ統轄店又ハ特扱代理店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス(一)

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由スヘシ

第五章 雜則

第二十九條 支出官其ノ振出シタル小切手又ハ第二十七條ニ規定スル返納告知書ニ記載セル年度、所管、會計名、經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ小切手ノ支拂店ニ之カ訂正ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 支出官第十三條、第十九條乃至第二十二條及第二十四條ノ小切手裏面ノ記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ小切手ノ支拂店ニ對シ之カ訂正ノ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ第十四條ニ規定スル金額氏名表中金額以外ノ誤謬訂正ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 支出官歳出金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得

支出官前項ノ訂正ヲ爲サムトスルトキハ受取人ヲシテ該歳出金支拂通知書ヲ提出セシメ相當ノ訂正ヲ爲シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ

第三十二條 支出官第十六條ノ規定ニ依リ受取人ニ送付シタル歳出金支拂通知書ニシテ受取人ノ受領前亡失シ日本銀行ニ於テ其ノ支拂未濟ナルコトヲ確メタルトキハ之カ支拂ヲ停止セシメ更ニ歳出金支拂通知書ヲ調製シ表面餘白ニ「再發行」ノ印ヲ押捺シ之ヲ受取人ニ送付シ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ通知スヘシ

第三十三條 支出官受取人ノ受領前亡失シタル歳出金支拂通知書ニ依リ日本銀行既ニ支拂ヲ爲シタルコトヲ確メタルトキハ事情ヲ詳具シタル書面ヲ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ニ送付スヘシ

支出官大藏大臣ヨリ支拂ヲ爲スヘキ旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シ之カ支拂ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 受取人支出官ヨリ送付ヲ受ケタル歳出金支拂通知書ヲ亡失シタルトキハ直ニ支拂場所タル日本銀行ニ支拂停止ノ請求ヲ爲シ且支拂未濟ナルトキハ當該日本銀行ヲ經由シ支出官ニ届出ツヘシ

前項ノ届書ニハ歳出金支拂通知書ニ記載シタル金額、番號、年度、發行官廳及支拂場所ヲ記載スヘシ

第三十五條 支出官前條ノ届書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ支拂ヲ要スルモノト認メタルトキハ第三十二條ノ規定ニ準シ之カ支拂ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

第三十六條 第三十三條ノ規定ハ受取人ノ亡失シタル歳出金支拂通知書ニ依リ既ニ支拂ヲ受ケタル者アル場合ニ付之ヲ準用ス

第三十七條 支出官歳出金月計突合表又ハ歳出支拂未濟繰越金月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ニ送付スヘシ(一)

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ小切手ノ支拂店ヲ經由スヘシ(一追加)

附則

第三十八條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三十九條 左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス

前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入ルル取扱規程

明治二十三年大藏省令第十七號

明治二十三年大藏省令第二十七號

明治三十四年大藏省令第十二號

仕拂命令等盜難又ハ亡失ノ場合ニ關スル取扱手續

第四十條 歳出金仕拂通知書ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ従前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第四十一條 前條ニ規定スル支拂期間經過後仍時効ノ完成セサル債務ノ支拂ニ付テハ會計規則第六十九條第二項ノ規定ニ依ル

○昭和八年大藏省令第三十二號附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和九年大藏省令第七號附則

本令ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

小切手振出濟通知書

No. _____
大正「何」年度歳出
「何」省所管
「何」會計部
「何」 (款)
_____ (項)

「何」

某「渡」

金

大正「何」年「何」月「何」日

日本銀行「何」店御中

「支出官

官氏

名「印

第二號書式(内國送金ノ場合ニ於ケル小切手裏面記載例)

表面ノ金額ハ何府縣郡市町村何番地何某へ日本銀行本店(何地支店又ハ代理店)ニ於テ拂渡(電信送金)ヲ要ス 官支印出

又ハ

表面ノ金額ハ何府縣郡市町村何番地何某ニ送金ヲ要ス 官支印出

又ハ

表面ノ金額ハ金額氏名表ニ記載ノ通拂渡(送金)ヲ要ス 官支印出

第三號書式

大正「何」年「何」月「何」日
小切手第「何」號

大正「何」年度

「何」省所管

金額氏名表

「何」會計

歳出「何」部

「支出官官氏名」圖

(款)

(項)

番 號	受 取 人		金 額	拂渡店又ハ送金先	備 考
	住 所	氏 名			

備考 用紙ハ摺水引美濃判ノ半截トシ左方ニ一吋以上ノ綴代ヲ存スヘシ表裏ヲ使用スヘカラス若ニ葉以上ニ互ルトキハ追次計ヲ附スヘシ

第九類 參考法規 支出官事務規程

備考

- 一 用紙寸法 縦五寸二分 輪廓寸法 縦四寸六分 横六寸三分
- 二 用紙ハ印刷局紙若ハ永久保存ニ耐ユル用紙ヲ用ユヘシ
- 三 官廳又ハ市町村若ハ公共團體等ノ收入ト爲ルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ公共團體名等ヲ記入シテ發行スヘシ
- 四 領收證ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ「要印紙」ノ印ヲ押捺スヘシ

トシテ左方ニ八分ノ綴代ヲ設ク可シ

前記ノ金額日本銀行本店(何地支店又ハ代理店) 金

「何」省「何」月「何」日

「何」年度歳出

「何」手年「何」月「何」日

「何」切「何」日本銀行本店(何地支店又ハ代理店) 號

小大正「何」日本銀行本店(何地支店又ハ代理店) 號

計附日本銀行名 號

大正「何」年「何」月「何」日

何某宛

「何」何某宛

前記ノ金額領收候也

大正「何」年「何」月「何」日

「何」住所

何某

印紙入

受取人

何某

第四號書式(表面) 領收證

歳出金支拂通知書

第「何」	號	大正「何」	年度歳出	「何」	省	「何」	月	「何」	日	號
「何」	切手ヲ宛テタル	日本銀行名	號	小大正「何」	日本銀行本店(何地支店又ハ代理店)	號	「何」	手年「何」	月「何」	日
計附	日本銀行名	號	大正「何」	年「何」	月「何」	日	號	「何」	何某宛	

(注意) 受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

(裏面)

注意事項

- 一 受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ
- 但シ官更公更ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體名等ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印スヘシ
- 二 受取人ノ印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル
- 三 受取人カ代理人ヲ以テ現金支拂ノ請求ヲ爲サントスルトキハ本人ニ於テ本書委任權内ニ相當ノ事項ヲ記載シ記名捺印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代理人ハ本書ニ代理人タルノ肩書ヲ附シ記名捺印スヘシ
- 四 受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 五 小切手振出ノ日附ヨリ一箇年ヲ過クルトキハ日本銀行ハ本書ニ對シ之カ支拂ヲ爲ササルモノトス
- 六 本書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ拂渡ヲ受クヘキ日本銀行ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ

印紙入	委任狀	表面金額ノ受取方	ニ委任收候也
大正「何」年「何」月「何」日	何	住所	何

第六號ノ二書式(一追加) (邦貨又ハ外國貨幣ヲ基礎トスル外國送金ノ場合ニ於ケル小切手裏面記載例)

表面ノ金額ハ金額氏名表ニ記載ノ通送金(電信)ヲ要ス

第六號ノ三書式(一追加)

大正「何」年「何」月「何」日

金額氏名表 「支出官氏名」印

小切手第「何」號

大正「何」年度 「何」省所管「何」會計歳出「何」部(款)(項)

番 號	受 取 人		金 額	外 貨 額	備 考
	住 所	氏 名			

- 備考 一 第三號書式備考ハ本表ノ調製ニ付之ヲ適用ス
 二 第五號及第六號ノ書式記載例ハ本書式ノ記載方ニ付之ヲ準用ス

第五號書式(邦貨ヲ基礎トスル外國送金ノ場合ニ於ケル小切手裏面記載例)

表面ノ金額ハ何貨ニ換ヘ何國何地何某ヘ送金(電信)ヲ要ス

ス 官支印出

備考

外國人ノ氏名及外國ノ地名ハ成ルヘク其ノ地ノ原語ヲ記

入スヘシ

第六號書式(外國貨幣ヲ基礎トスル外國送金ノ場合ニ於ケル小切手裏面記載例)

表面ノ金額ハ何貨何程ニ換ヘ何國何地何某ヘ送金(電信)ヲ要ス

要ス 官支印出

備考

外國人ノ氏名及外國ノ地名ハ成ルヘク其ノ地ノ原語ヲ記

入スヘシ

通知書

第「何」號		大正「何」年度	
「何」省	所管	「何」會計	歳出「何」部
(款)		(項)	
金			
上記ノ金額定額ニ戻入済			
大正「何」年「何」月「何」日			
日本銀行「何」店宛			
返納人 「何」 某		領收店 日本銀行「何」店	

接続トシ左方ニ一寸ノ綴代ヲ設クヘシ
 ス
 ルモノナルトキ又既ニ之ヲ本邦貨幣ニ交換シタルモノナルトキハ返納金額

領收證書

第「何」號	大正「何」年度
「何」省所管	
金	
上記ノ金額領收候也	
大正「何」年「何」月「何」日	
日本銀行「何」店宛	
返納人 「何」 某 宛	

ノ傍ニ「此何貨何程」ト記載スヘシ

返納告知書

第「何」號		大正「何」年度	
「何」省	所管	「何」會計	歲出「何」部
(款)		(項)	
金			
上記ノ金額大正「何」年「何」月「何」日迄ニ日本銀行本店支店又ハ代理店ニ拂込マルヘシ			
大正「何」年「何」月「何」日			
「支出官官氏名」印			
「何」某		宛 定額戻入店 日本銀行「何」店	

備考

- 一 用紙寸法 縦五寸六分 横三寸八分 輪廓寸法 縦四寸五分 横三寸三分 ノモノ三枚
- 二 金額、番號、年度、所管廳名及科目ハ支出官ニ於テ記入スルモノト
- 三 返納金ニシテ外國貨幣、外國貨幣拂爲替券又ハ邦貨拂爲替券ニ係

● 保管金取扱規程

大正十一年二月一日
大藏省令第五號

改正 (一) 大正十三年七月二十六日
大藏省令第十九號 (二) 大正十五年三月二十九日
大藏省令第八號

保管金取扱規程左ノ通定ム

保管金取扱規程

第一章 總則

- 第一條 政府ノ保管ニ係ル現金ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ
- 第二條 取扱官廳ハ保管金ヲ預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルヘシ但シ數日內ニ拂渡ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ其ノ官廳ノ出納官吏ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得
- 第三條 前條ノ規定ニ依リ預入ヲ爲ス取扱官廳ハ所在地日本銀行(本店、支店又ハ代理店)ヲ謂フ以下同シヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スヘシ但シ其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スコトヲ得
- 第四條 本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ(二)
- 第四條ノ二 出納官吏事務規程第三十五條乃至第三十七條及第七十二條ノ規定ハ取扱官廳ノ振出シタル小切手ニシテ其ノ振出日附後一年ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス(ニ追加)

第二章 保管金ノ提出

第五條 保管金ヲ提出スル者ハ保管金提出書ヲ添ヘ現金ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ保管金ヲ提出スル者ハ預金部預金取扱規程第五條ノ規定ニ依リ保管金振込書ヲ添ヘ豫メ現金ヲ取扱官廳

第九類 參考法規 保管金取扱規程

ノ預金取扱店ニ振込ミ預金部預金振込済通知書ノ交付ヲ受ケ之ニ保管金提出書ヲ添ヘ取扱官廳ニ提出スルコトヲ得

取扱官廳前二項ノ提出書ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第三章 保管金ノ拂渡

第七條 保管金ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ保管金拂渡請求書又ハ前條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ取扱官廳ニ提出シ其ノ拂渡ヲ請求スヘシ

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書又ハ受領證書ニ領收ノ旨ヲ記載セシメ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ受取人特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ヲ除クノ外預金部預金ニ預入ヲ爲シタル取扱官廳ハ現金ノ交付ニ代ヘ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ

第七條ノ二（一追加、二削除）

第八條 保管金ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者其ノ拂渡ヲ請求セムトスルニ當リ取扱官廳ノ預金取扱店所在地外ノ預金取扱店ニ於テ支拂ヲ受ケムトスルトキハ前條ノ請求書又ハ受領證書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該保管金ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絶シ、大藏省預金部ニ預入レタルモノナルトキハ預金部預金取扱規程第十二條ノ手續ヲ爲シ第二號書式ノ保管金支拂通知書ヲ請求者ニ交付シ指定ノ預金取扱店ヨリ之カ支拂ヲ受ケシムヘシ

第四章 保管金利子ノ拂渡

第九條 保管金ノ利子ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ毎年三月三十一日迄ニ生シタル利子ノ支拂ヲ請求スヘシ但シ保管金全額ノ拂渡ヲ受クル權利者ハ其ノ拂渡ヲ受クル時迄ニ生シタル利子ノ支拂ヲ請求スヘキモノトス

前項ノ利子ハ保管金提出ノ月及拂渡ノ月ハ其ノ金額ニ對シテ之ヲ付セス保管金ノ一圓未滿ノ端數ニ對シ亦同シ

第十條 前條ノ權利者保管金ノ利子拂渡ヲ請求セムトスルトキハ第三號書式ノ保管金利子請求書ヲ取扱官廳ニ提出スヘシ

第十一條 取扱官廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ預金部預金取扱規程第十七條ノ規定ニ依ル預金部預金利子支拂請求書ヲ請求者ニ交付シ預金取扱店ヨリ之カ支拂ヲ受ケシムヘシ但シ前條ノ請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第五章 保管金ノ保管替

第十二條 甲官廳ニ保管金ヲ提出シタル者乙官廳ニ保管替ヲ請求セムトスルトキハ第四號書式ノ保管金保管替請求書二通ヲ甲官廳ニ提出スヘシ

第十三條 甲官廳前條ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ該保管金ニシテ第二條但書ノ規定ニ依リ保管スルモノナルトキハ其ノ請求ヲ拒絶シ、大藏省預金部ニ預入レタルモノニシテ保管替ノ理由アリト認メタルトキハ預金部預金取扱規程第十一條ノ手續ヲ爲シ保管金保管替請求書ノ一通ニ承認ノ旨ヲ記入シ尙有利子ノモノハ第五號書式ノ保管金利子參考表ヲ添附シ之ヲ乙官廳ニ送付スヘシ

第十四條 乙官廳前條ノ請求書及其ノ預金取扱店ヨリ預金部預金領收證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ保管金受領證書ヲ保管替請求者ニ交付スヘシ

第十五條 前二條ノ規定ハ甲官廳保管金ヲ提出シタル者ノ請求ニ依ラスシテ保管金ヲ乙官廳ニ保管替ヲ爲サムトスル場合ニ於ケル甲官廳及乙官廳ノ取扱手續ニ付之ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於テ甲官廳ハ第十三條ノ規定ニ依リ送付スル保管金保管替請求書ニ代ヘ保管金保管替通知書ヲ乙官廳ニ送付スルモノトス

第六章 政府ノ所得ニ歸シタル保管金

第九類 參考法規 保管金取扱規程

第十六條 保管金規則、遺失物法其ノ他ノ法令ニ定メタル期間ノ經過ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル保管金アルトキハ取扱官廳ハ一年度分ヲ取纏メ第六號書式ノ保管金政府所得調書ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ送付スヘシ

第十七條 主務官廳前條ノ調書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ取扱官廳毎ニ所得總額ヲ記載金額トセル納入告知書ヲ取扱官廳ニ送付スヘシ

取扱官廳前項ノ納入告知書ヲ受ケタルトキハ該告知書ニ依リ歳入納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 第十六條ニ規定スルモノヲ除クノ外保管金ニシテ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

第七章 雜則

第十九條 保管金ヲ提出シタル者其ノ交付ヲ受ケタル保管金受領證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ取扱官廳ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

取扱官廳前項ノ請求ヲ受ケ其ノ理由アリト認メタルトキハ之カ證明ヲ爲スヘシ

第二十條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱手續ニ關スル規定ハ保管金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

附則

第二十一條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 保管物取扱規程及明治三十六年大藏省令第九號ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 本令施行前保管物取扱規程ニ依リ金庫ニ寄託シタル保管金ハ本令ニ依リ大藏省預金部ニ預入レタルモノト看做ス

ス

前項ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ當該金庫ノ國庫金出納ノ事務ヲ引繼キタル日本銀行ヲ其ノ預金取扱店ト爲スヘシ

第二十四條 前條ノ保管金ノ拂渡、他店拂、保管替、歳入納付、特殊資金ニ組入又ハ期滿失効年月日ノ變更ニ關スル通知ノ手續ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ金庫ニ於テ領收證書ヲ發行シタル保管金ニ付テハ第七條、第八條、第十二條乃至第十五條及第十八條ノ手續ヲ爲スモノトス

前項但書ノ場合ニ於テ取扱官廳ハ其ノ振出ス小切手ニ金庫ノ發行シタル領收證書ノ年月日及番號ヲ附記スヘシ

第一號書式 保管金受領證書 (用紙寸法 半紙判半載)

保管金受領證書

第 號 金

保管ノ事由

上記金額領收候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名圖

何 某 宛

上記金額領收候也

年 月 日

住 所

氏 名

某廳取扱主任官宛

備考

- 一 本書ハ之ヲ縦書トスルコトヲ得
- 二 受取人本書ヲ以テ保管金ノ拂渡ヲ請求シタルトキハ式ノ如ク領收ノ旨ヲ記入スヘシ

第九類 參考法規 保管金取扱規程

領收證		保管金支拂通知書	
前記ノ金額領收候也 年 月 日	保管金受領證書日附番號		
	期滿失效年月日		
	小切手振出日附		
	小切手ヲ宛テタル店名		
印紙 收入		金	
住所 氏 名		前記ノ金額日本銀行(何店)ニ於テ受領セラルヘシ	
		年 月 日	
住所 氏 名		何 某 宛	
		某廳取扱主任官 官 氏 名印	

- 備考
- 一 用紙ハ印刷局紙若ハ永久保存ニ耐フル用紙ヲ用ユヘシ
 - 二 官廳又ハ公共團體等ノ收入ト爲ルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ公共團體名等ヲ記入シ發行スヘシ
 - 三 領收證ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ「要印紙」ノ印ヲ押捺スヘシ
- (注意) 受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

裏面書式

(注意事項)	
一 受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官公吏ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體名等ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印スヘシ	
二 受取人ノ印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル	
三 受取人カ代理人ヲ以テ支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本書刷込ノ委任狀ニ相當ノ事項ヲ記入スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ	
四 代理人カ支拂ヲ受クル場合ニ於テハ表面領收證ノ部ニ代理人タルノ肩書ヲ附スヘシ	
五 受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス	
六 小切手振出ノ日附ヨリ一年ヲ過クルトキハ日本銀行ハ本書ニ對シ之カ支拂ヲ爲ササルモノトス	
七 本書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ支拂ヲ受クヘキ日本銀行ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ	
委任狀	
ニ委任致候也	
表面金額ノ受取方ヲ	
年 月 日	
住所	
氏 名	

第三號書式 保管金利子請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

保管金利子請求書

年 月 日 第 號 保管金

ニ對スル利子支拂相成度及請求候也

住 所

氏

名

某廳取扱主任官宛

金

保管金 ニ對スル

年 月ヨリ 年 月迄年 分ノ割

右支拂フヘキコトヲ證明ス

年 月 日

日本銀行(何店)宛

某廳取扱主任官氏名

前記金額領收候也

年 月 日

日本銀行(何店)宛

住 所

氏

名

第四號書式 保管金保管替請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

保管金保管替請求書

金

保管金受領證書日附番號
保管スヘキ法令ノ條項
保管ノ事由
新取扱官廳名
上記ノ通保管替相成度候也
年 月 日

住 所

氏

名

某廳取扱主任官宛

本書保管替ノ申出ヲ承認候間貴廳ノ保管金トシテ取扱相成度候也
但シ別紙保管金利子參考表ヲ添附ス(利付ノ分ニ限り此ノ但書ヲ記
入スルコト)

年 月 日

某廳取扱主任官氏名

某 廳 宛

備考 本書ハ之ヲ縦書トスルコトヲ得

第九類 參考法規 保管金取扱規程

●政府所有有價證券取扱規程

大正十一年二月一日
大藏省令第七號

改正(一) 大正十五年三月二十九日
大藏省令第十號

政府所有有價證券取扱規程左ノ通定ム

政府所有有價證券取扱規程

- 第一條 各官廳ニ於ケル政府所有有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂保管ヲ爲スヘシ
- 第二條 各官廳ハ特殊ノ事由アルモノヲ除クノ外政府所有有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ寄託スヘシ但シ其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スルモノトス
- 第三條 各官廳前條ノ寄託ヲ爲サムトスルトキハ第一號書式ノ政府所有有價證券寄託書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ送付シ政府所有有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ
- 第四條 各官廳日本銀行ニ寄託セル有價證券ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ第二號書式ノ政府所有有價證券拂渡請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ
- 第五條 各官廳日本銀行ニ寄託セル有價證券附屬利札ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ第三號書式ノ政府所有有價證券利札請求書ヲ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ
- 第六條 各官廳日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ヨリ政府所有有價證券ノ寄託書及拂渡請求書ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ政府所有有價證券月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日內ニ之ヲ統轄店又ハ取扱代理店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス(一)
- 前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テ統轄店官廳ノ所在地外ニ在ルトキハ其ノ所屬代理店ヲ經由スヘシ
- 第七條 各官廳第三條ノ政府所有有價證券寄託書ノ記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキ又ハ其ノ變更ヲ要スルトキハ

之カ訂正ヲ爲ス爲訂正請求書ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

- 第八條 各官廳政府所有有價證券受託證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得

- 第九條 各官廳政府所有有價證券月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ取扱代理店ニ送付スヘシ(一)
- 前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ其ノ所屬代理店ヲ經由スヘシ(一追加)
- 第十條 各官廳ハ取扱主任官ノ職務及氏名ヲ日本銀行ニ通知スヘシ
- 前項ノ取扱主任官ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式 政府所有有價證券寄託書 (用紙寸法 半紙判半載)

政府所有有價證券寄託書

備考

第 號

下記證券寄託候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名

日本銀行(何店)宛

證券種別	枚 數	券 面 額	券面、記番 號及回数別	備 考

- 備考
- 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ
 - 二 利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第二號書式 政府所有有價證券拂渡請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

政府所有有價證券拂渡請求書

備考

受託證書番號
第 號

(又ハ第 號ノ内)

受託證書日附

下記證券拂渡相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名

日本銀行(何店)宛

下記證券領收候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名

日本銀行(何店)宛

證券種別	枚 數	券 面 額	券面、記番 號及回数別	備 考

- 備考
- 一 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ
 - 二 利札缺欠ノモノニ付テハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第九類 参考法規 政府所有有價證券取扱規程

政府所有有價證券利札請求書

受託證書番號
 受託證書日附
 下記證券何年何月渡利札交付相成度候也
 年 月 日
 某廳取扱主任官官氏名
 日本銀行(何店)宛
 下記利札領收候也
 年 月 日
 某廳取扱主任官官氏名
 日本銀行(何店)宛

證券種別	枚	數	券面額	券面、記番 號及回数別	備考

備考 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ

●政府保管有價證券取扱規程(抜抄)

大正十一年二月一日
 大藏省令第八號

政府保管有價證券取扱規程左ノ通定ム

政府保管有價證券取扱規程

第一章 總 則

第二條 取扱官廳ハ政府保管有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ又其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スヘシ但シ數日內ニ拂渡ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五章 政府ノ所得ニ歸シタル保管有價證券

第二十條 政府保管有價證券ニシテ法令ノ規定又ハ契約ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ報告スヘシ
 主務官廳前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ該有價證券ヲ換價シ歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

附 則

第二十五條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル
 帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式(抜抄)
 大正十一年三月二十九日
 大藏省令第二十號

改正沿革(略) (但シ昭和十三年三月三十一日
 大藏省令第十四號改正分迄採録)

第九類 參考法規
 政府保管有價證券取扱規程 會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製ス
 ルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式

政府所有有價證券利札請求書

受託證書番號
 受託證書日附
 下記證券何年何月渡利札交付相成度候也。
 年 月 日
 某廳取扱主任官官氏名
 日本銀行(何店)宛
 下記利札領收候也
 年 月 日
 某廳取扱主任官官氏名
 日本銀行(何店)宛

證券種別	枚	數	券面額	券面、記番號及回数別	備考

備考 全額拂込ニアラサルモノモ券面額ヲ記入シ備考欄ニ拂込済額ヲ記入スヘシ

●政府保管有價證券取扱規程(抜抄)

大正十一年二月一日 大藏省令第八號

政府保管有價證券取扱規程左ノ通定ム

第一章 總 則

第二條 取扱官廳ハ政府保管有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ又其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スヘシ但シ數日内ニ拂渡ヲ爲ス必要アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五章 政府ノ所得ニ歸シタル保管有價證券

第二十條 政府保管有價證券ニシテ法令ノ規定又ハ契約ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタルモノアルトキハ取扱官廳ハ其ノ都度之ヲ所管大臣ノ指定スル主務官廳ニ報告スヘシ
 主務官廳前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ該有價證券ヲ換價シ歳入ニ納付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ特殊ノ資金ニ組入ヲ要スルモノニ付テハ當該資金ニ組入ノ手續ヲ爲スモノトス

附 則

第二十五條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式(抜抄)
 大正十一年三月二十九日 大藏省令第二十號

改正沿革(略) (但シ昭和十三年三月三十一日 大藏省令第十四號改正分迄採録済)

第九類 参考法規 政府保管有價證券取扱規程 會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式

會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式左ノ通之ヲ定ム

- 一 支拂豫算書 別表第一號書式ニ依ル
- 一 支拂豫算更定計算書 別表第二號書式ニ依ル
- 一 年度開始前支出計算書 別表第三號書式ニ依ル
- 一 徵收報告書 別表第四號書式ニ依ル
- 一 徵收總報告書 別表第五號書式ニ依ル
- 一 徵收簿 別表第六號書式ニ依ル
- 一 歳入簿 別表第七號書式ニ依ル
- 一 支出濟額報告書 別表第八號書式ニ依ル
- 一 支出總報告書 別表第九號書式ニ依ル
- 一 繰越計算書 別表第十號書式ニ依ル
- 一 支出簿 別表第十一號書式ニ依ル
- 一 歳出簿 別表第十二號書式ニ依ル

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス

- 明治二十三年大藏省令第九號
- 明治二十六年大藏省令第三十二號
- 明治三十年大藏省令第五號

- 明治四十年大藏省令第十七號
 - 明治四十二年大藏省令第十六號
 - 明治四十三年大藏省令第四十五號
 - 明治四十五年大藏省令第九號
 - 大正五年大藏省令第三號
 - 大正五年大藏省令第二十一號
 - 大正十年大藏省令第十一號
 - 大正十年大藏省令第十六號
- 本令施行ノ際現存スル帳簿及用紙ハ當分ノ内之ヲ取締ヒ使用スルコトヲ得

第九類 參考法規

會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式

第二號書式

支拂豫算更定計算書

何省所管

某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)

支出官官氏名

日本銀行何店

款	項	増	減
何	何	圓 0	圓
	何		0
		0	0

年 月 日
 支拂豫算書ヲ調製スル官吏官氏名
 大藏大臣(會計検査院長)宛

第九類
 參考法規

會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及
 記入ノ方法並書類ノ様式

第一號書式

支拂豫算書

何省所管

某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)

支出官官氏名

日本銀行何店

款	項	金額
何	何	圓 0
	何	0
	何	0
		0

年 月 日
 支拂豫算書ヲ調製スル官吏官氏名
 大藏大臣(會計検査院長)宛

備考

一用紙ハ厚質簞砂引美濃紙トシ左方ニ約一寸ノ綴代ヲ設クヘシ第二號乃至第五號、第八號乃至第十號書式亦同シ
 二本書式中日本銀行何店トアルハ支出官ノ振出ス小切手ノ支拂店名ヲ謂フ第二號、第三號及第十四號書式亦同シ
 三本書式ハ罫線其ノ他凡テ墨書スルモノトス第二號乃至第五號、第八號乃至第十號、第十三號、第二十七號乃至第三十三號書式亦同シ

(別表)

第四號書式乙

現金拂込済仕譯書

某年度歳入(何々會計歳入)經常部(臨時部)

何省所管 何 廳 何年何月分

摘要	金額	備考
前月迄拂込未済	0	
本月中現金拂込高	0	
翌月へ越高	0	
年月日		
歳入徴收官	官氏名	
備考		
歳入調定済額、収入済額及不納缺損額ニ		異動ナク現金拂込高
ノミニ異動アル月ニ於テハ徴收報告書ヲ		要セス單ニ本書式ニ
依リ現金拂込済仕譯書ヲ調製シ之ニ日本		銀行ノ月計突合表ヲ
添へ徴收報告書送付ノ順序ニ依リ送付ス		ルモノトス

第九類 参考法規

會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式

第四號書式甲

某年度歳入(何々會計)

何省所管 何 廳 何 年

款	項目	事由	調定済額		收入
			本月分	本累月迄計	本月分
經 何	常 何	部 何	圓	圓	圓
			0	0	0
何	何	何	圓	圓	圓
			0	0	0
臨 何	時 何	部 何	圓	圓	圓
			0	0	0
何	何	何	圓	圓	圓
			0	0	0
			圓	圓	圓
			0	0	0
			圓	圓	圓
			0	0	0
備考					
一本 書ニハ日本銀行ノ月計突合表ヲ添附スルモノトス					
二特 別會計ニ於テ徴收報告書ヲ以テ徴收總報告書ニ充ツル場合ニ					
官 氏名ヲ奥書シ徴收總報告書送付ノ順序ニ依リ送付スルモノト					
			年 月 日		
			歳入徴收官官氏名		

某年度歳入(何々會)

何省所管

何年

款	項	目	事由	調定濟額		收入
				本月分	本月迄計	本月分
經何	常何	部何	調定外誤納額	0	0	0
				0	0	0
臨何	時何	部何		0	0	0
				0	0	0
				0	0	0
				0	0	0
				0	0	0
				0	0	0
備考				年	月	日
一本書ニハ歳入徴收官ヨリ提出スル日本銀行ノ月計突合表ヲ添付ス				徴收總報告書ヲ調製スル官吏官氏名印		
二大學特別會計規則第二十條ノ二ノ徴收集計報告書ハ此ノ書式ヲ準						

第九類 參考法規

會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式

計歳入)徴收總報告書

何月分

濟額	不納缺損額		收入	現金拂込濟仕譯
	本月分	本月迄計		
0	0	0	0	
0	0	0	0	前月迄拂込未済 0
0	0	0	0	本月中現金領收額 0
0	0	0	0	本月中現金拂込高 0
0	0	0	0	翌月〜越高
0	0	0	0	
0	0	0	0	
0	0	0	0	

ルモノトス
用ス

第五號書式丙

現金拂込済總仕譯書

某年度歳入(何々會計歳入)經常部(臨時部)

何省所管

何年何月分

摘	要	金額	備考
前月迄拂込未済		圓 0	
本月中現金拂込高		0	
翌月へ越高		0	
年 月 日			
徴收總報告書	ヲ調製スル官吏官氏	名印	
備考			
各歳入徴收官	トモ單ニ現金拂込済	仕譯書ノミヲ送付セシ月	
ニ於テハ徴收	總報告書ヲ要セス本	書式ニ依リ現金拂込済總	
仕譯書ヲ調製	シ之ニ收入金拂込未	済内譯報告書及月計突合	
表ヲ添へ徴收	總報告書送付ノ順序	ニ依リ送付スルモノトス	

第九類 參考法規

會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式

第五號書式乙

收入金拂込未済内譯報告書

某年度歳入(何々會計歳入)經常部(臨時部)

何省所管

何年何月分

應 名	徴收報告書		拂込未済額	事 由
	年 月	書		
何 應	何	何	圓 0	
何 應		〃	0	
			0	
年	月	日		
官 廳			名 印	
備考				
一本書	ハ徴收總報告	書現金拂込済仕譯	ノ欄内ニアル翌月へ越	
高ノ	内譯トシテ徴	收總報告書ニ添附	スルモノトス	
二拂込	遅滞セルモノ	ハ其ノ事由ヲ記載	スヘシ	

第六號書式

「某年度歳入(何々會計歳入)經常部(臨時部)徴收簿」

何々(款) 何々(項)何々目

年月日	摘要	調定済額	収入済額	不納 缺損額	収入 未済額
		圓	圓	圓	圓
何年何月何日		0	0	0	0
	調定外誤納額	0			0
備考	一 歳入徴收官ノ備フ依ル	ヘキ徴收簿ハ	別段ノ定アル	場合ヲ除クノ	外此ノ書式ニ
	二 調定済額ノ欄内ニハ出納官吏又ハ日欄内ニハ其ノ缺損	ハ收入スヘキ本銀行ヨリ收ナルコトノ確	額ノ確定シタル納済ノ報告ヲ定シタル額ヲ	ルモノ、收入受ケタル額、記入スルモノ	濟額ノ欄内ニ不納缺損額ノトス
	三 調定済額ニ超過シ載シ誤納額ニ相当	タル誤納アリタル額ヲ調定スル爲要ス	タルトキハ摘要欄内ニ記入スルモノ	要欄内ニ調定	外誤納額ト記
	四 徴收簿ノ詳細ヲ明	ニスル爲要ス	ル補助簿ハ適	宜各廳ニ於テ	設クルモノト
	但シ便宜本簿中ニ七號書式亦同シ	統括又ハ款、	項、目、節別	ノ口座ヲ設ク	ルコトヲ得第
	五 本書式中「」内ハ一號、第十二號及	朱書トシ欄格第十四號乃至	ヲ示ス罫線ハ第二十六號書	之ヲ朱線トス	第七號、第十

第九類 參考法規

會計規則及記入ノ方法並會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式

第五號書式丁

徴收總報告書ト日本銀行月計突合表トノ差額仕譯書

某年度歳入(何々會計歳入)

何省所管 何年何月分

廳名	徴收報告書年月	差額		事由
		突合表ノ方 超過	突合表ノ方 不足	
何廳何廳	何何	圓0	圓0	何々何々
		0	0	
備考	年 月 日	官 廳 名 印		
本書ハ	徴收總報告書ト日本銀行月計突合表トノ			差額ノ内譯トシテ徴收總報
告書ニ	添附スルモノトス			

第八號書式

支出濟額報告書

某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)

何省所管

何年何月分

款	項	支出濟額			備考
		本月分	前月迄累計	合計	
何	何	圓 0	圓 0	圓 0	定額戻入 0、 更正減額何々 0、
	何	0	0	0	
		0	0	0	
		年 月 日			
		支出官 官氏名 印			
備考					
一定額	戻入及更正減額ハ金額事由		トモ朱書スルモノトス		
第九號	第九號、第十一號、第十二號及		第二十六號書式亦同シ		
二特別	會計ニ於テ支出濟額報告書ヲ以テ支出總報告書ニ充ツル場合ニ				
於テ	ハ支出總報告書ヲ調製スヘキ官吏第九號書式ノ例ニ依リ本書ニ				
年月	日及官氏名ヲ奥書シ支出總報告書送付ノ順序ニ依リ送付スルモ				
ノトス					
三本報	告書ハ所管大臣必要アリト認ムル場合ニ於テハ目迄ヲ記載セシ				
ムル	コトヲ得				

第九類 參考法規

會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式

第七號書式

「某年度歳入(何々會計歳入)經常部(臨時部)歳入簿」

何々(款)

何々(項)何々(目)

年月日	摘要	徵收報告年月	應名	豫算額	調定濟額	收入濟額	不納損額	收入未濟額	豫算額ト調定濟額トノ差
何年				圓 0	圓 0	圓 0	圓 0	圓 0	圓 0
何月									
何日									
〃	調定外誤納額	〃	〃		0	0	0	0	0
備考									
一	歳入簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要スル補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモノトス								
二	大學特別會計規則第二十九條ノ歳入支簿ハ此書式ヲ準用ス								

第十號書式

繰越計算書

某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)

款	項	豫算定額	小切手振出 手振出額 及小切手 振出額	豫算定額 不用額	翌年度へ繰越額		事由
					繰越承認額	繰越額	
何	何	0	0	0	0	0	何々ノ事由ニ依リ會計法第何條(何々會計規則第何條)ニ依リ繰越ヲ要ス何々
何	何	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
備考		年	月	日	所管大臣氏名		
一小切タル	手振出額及小切手振出額	手振出額	スヘキ額	ノ欄内ニ	ハ既ニ支出済ト爲リ		
二特別及小切額ノ	金額及當該會計ノ於テ支出未済トシテ繰越スヘキ金額ハ	整理期限	迄ニ支出スヘキ額	ヲ掲クルモノトス	ハ此ノ書式ヲ準用ス		
	手振出額	テ支出未済トシテ繰越スヘキ金額ハ	ニ支出未済トシテ	翌年度へ繰越スヘキ			

第九類 參考法規
會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式

第九號書式

支出總報告書

某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)

何省所管 何年何月分

款	項	支出濟額			備考
		本月分	前月迄累計	合計	
何	何	0	0	0	定額戻入 0、 更正減額何々 0、
何	何	0	0	0	
		0	0	0	
備考		年	月	日	
支出總報告書	報告書ヲ調製スル官吏官氏名				
大學特別會計規則第二十條ノ四ノ	支出濟額集計				
報告書	ハ此ノ書式ヲ準用ス				

第十二號書式

「某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)歳出簿」

何々(款)		何々(項)				
年月日	摘要	預算額	預算決定後増加額	支出済額	翌年度へ繰越額	預算残額
何	年	圓	圓	圓	圓	圓
何	何	0				0
	何			0		0
	何		0			
	何			0		0
	何		0			0
	何				0	0
備考	一歳出簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要スル補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモノトス					
	二大學特別會計規則第三十二條ノ歳出支簿ハ此ノ書式ヲ準用ス					

第九類 参考法規

會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法並書類ノ様式

第十一號書式

「某年度歳出(何々會計歳出)經常部(臨時部)支出簿」

何々(款)		何々(項)				
年月日	摘要	支拂預算額	支出済額	支拂預算残額		
何	年	圓	圓	圓		
何	何	0		0		
	何		0	0		
	何		0	0		
	何		0	0		
備考	支出簿ノ詳細ヲ明ニスル爲要スル補助簿ハ適宜各廳ニ於テ設クルモノトス					
	但シ便宜本簿中ニ統括又ハ款、項、目、節別ノ口座ヲ設クルコトヲ得第十二號書式亦同シ					

●會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正

二 關スル件

大正十一年五月三十日
大藏省令第四十三號

會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

第一條 會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ニ記載スル金額其ノ他ノ數量ニシテ「一」、「二」、「三」、「十」、「廿」、「卅」ノ數字ハ「壹」、「貳」、「參」、「拾」、「貳拾」、「參拾」ノ字體ヲ用ユヘシ

第二條 會計法規ニ基ク出納計算ニ關スル諸書類帳簿ノ記載事項ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル諸書類帳簿ノ記載事項ニ付訂正、挿入又ハ削除ヲ爲サムトスルトキハ二線ヲ劃シテ其ノ右側又ハ上位ニ正書シ其ノ削除ニ係ル文字ハ仍明ニ讀得ヘキ爲字體ヲ存スルコトヲ要ス但シ金錢又ハ物品ノ受授ニ關スル諸證書ノ數字ハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得ス數字以外ノ事項ニ付訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ作製者之ニ認印スルコトヲ要ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十三年大藏省令第二十一號ハ之ヲ廢止ス

●臨時軍事費特別會計法

昭和十二年九月十日
法律第八十五號

改正(一) 昭和十三年三月二十三日
法律第二十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臨時軍事費特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時軍事費特別會計法

第一條 支那事變ニ關スル臨時軍事費ノ會計ハ一般ノ歲入歲出ト區分シ事件ノ終局迄ヲ一會計年度トシテ特別ニ之ヲ整理ス

第二條 一般會計ニ屬スル陸海軍省所管ノ北支事件費及大藏省所管ノ北支事件第一豫備金並ニ其ノ財源ニ充ツベキ歲入ハ之ヲ本會計ニ移シ整理ス

第三條 政府ハ臨時軍事費出納上必要アル場合ニ於テハ一時借入金ヲ爲シ又ハ融通證券ヲ發行スルコトヲ得(一追加)
前項ノ規定ニ依ル一時借入金及融通證券ハ臨時軍事費特別會計ノ歲入ヲ以テ之ヲ償還スベシ(一追加)

第一項ノ規定ニ依ル融通證券ハ國債整理基金特別會計法第二條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ國債ト看做サズ(一追加)

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十三年法律第二十四號附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(略)

●大藏省預金部特別會計法

大正十四年三月三十日
法律第十三號

改正(一) 昭和九年三月二十日
法律第八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル大藏省預金部特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大藏省預金部特別會計法

第一條 大藏省預金部ノ會計ハ之ヲ特別トシ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ預金部資金ノ運用利殖金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ預金部預金ノ利子、運用手数料、毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ他ノ會計ヘ繰入ルル金額、事務取扱費、營繕費、附屬諸費及運用損失金ヲ以テ其ノ歲出トス(一)

第九類 參考法規

會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件
別會計法 大藏省預金部特別會計法

臨時軍事費特

第三條 預金部資金ニ屬スル運用資産ニシテ價格ノ減損ヲ生シタルモノアルトキハ本會計ノ決算上生シタル剩餘又ハ積立金ヲ以テ之ヲ償却スヘシ

第四條 本會計ノ決算上剩餘ヲ生シタルトキハ前條ノ償却ニ充テ殘餘アルトキハ之ヲ積立ツヘシ

本會計ノ決算上不足ヲ生シタルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第五條 所管大臣ハ日本銀行ニ命シ預金部預金ノ利子ノ支拂ヲ爲サシムル爲之カ資金ヲ日本銀行ニ交付スルコトヲ得

第六條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 本會計ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

明治二十三年法律第二十一號ハ之ヲ廢止ス但シ大正十三年度分預金特別會計ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

預金特別會計ニ屬スル積立金ハ之ヲ本會計ニ歸屬セシム

○昭和九年法律第八號附則

本法ハ昭和九年度ヨリ之ヲ施行ス

●預金部預金法

大正十四年三月三十日
法律第二十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル預金部預金法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

預金部預金法

第一條 法律勅令ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルル現金ハ預金部預金トシ大藏大臣之ヲ管理ス

第二條 郵便貯金トシテ受入レタル現金ハ之ヲ大藏省預金部ニ預入レ其ノ利子ヲ以テ貯金利子ノ支拂ニ充ツヘシ

第三條 預金部預金ノ種類、利子及取扱ニ關シテハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 預金部預金並大藏省預金部特別會計ノ積立金及支拂上ノ餘裕金ハ之ヲ預金部資金トシ預金部資金運用委員會ニ諮問シ有利且確實ナル方法ヲ以テ國家公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用スヘシ

預金部資金運用委員會ノ組織權限及預金部資金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 預金部資金ノ運用ニ關スル事務ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

附則

本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

預金規則、明治二十三年法律第七十五號及明治三十九年勅令第二百一十一號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前大藏省預金部ニ於テ受入レタル預金ハ之ヲ預金部預金トス

預金規則第一條第三號ノ規定ニ依リ預金及其ノ預金ヲ以テ購入保管シタル國債證券並明治三十九年勅令第二百一十一號ニ依ル預金及預託ノ國債證券ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ付本法施行後三月内ニ預ケ人ノカ拂戻ノ請求ヲ爲ササルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ預金ハ之ヲ郵便貯金ニ振替ヘ國債證券ハ之ヲ郵便貯金法第九條ノ規定ニ依リ購入シタルモノト看做シテ保管ス

●預金部資金運用規則

大正十四年四月一日
勅令第五十五號

改正 (一) 昭和五年二月二十七日
勅令第三十五號

(二) 昭和六年八月二十八日
勅令第二百二十九號

(三) 昭和七年十一月二日
勅令第三百三十三號

(四) 昭和十年十月二日
勅令第二百八十八號

(五) 昭和十一年八月十二日
勅令第二百六十三號

朕預金部資金運用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

預金部資金運用規則

第九類 參考法規

預金部預金法

預金部資金運用規則

第一條 預金部資金ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ運用スヘシ

一 國債ノ應募、引受若ハ買入又ハ一般會計若ハ特別會計ニ對スル貸付(一、三)

二 地方債、水利組合債若ハ健康保險組合債ノ應募、引受若ハ買入又ハ地方公共團體、水利組合若ハ健康保險組合ニ對スル貸付(三、五)

三 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ債券ヲ發行スルモノノ發行ニ係ル債券ノ應募、引受若ハ買入又ハ之等ノ法人ニ對スル三年内ノ貸付(二)

四 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル銀行ニシテ社債ヲ發行セサルモノニ對スル貸付

五 外國政府ノ發行ニ係ル國債ノ應募又ハ買入

六 日本銀行ニ對スル在外指定預金

第二條 大藏大臣ハ毎年度預金部資金ノ運用ニ關シ必要ナル計畫ヲ定メ豫メ之ヲ預金部資金運用委員會ニ付議スヘシ其ノ計畫ニ付追加又ハ變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第三條 大藏大臣ハ毎年度預金部資金運用報告書ヲ調製シ年度經過後四月内ニ之ヲ預金部資金運用委員會ニ提出スヘシ

前項ノ報告書ニハ當該年度ニ於ケル預金部資金運用ノ狀況及運用資産ノ異動ニ關スル重要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外預金部資金ノ運用ノ爲必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 預金部資金運用委員會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ大藏大臣ノ諮問ニ應ジ預金部資金ノ運用ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第六條 預金部資金運用委員會ハ預金部資金ノ運用ニ關シ大藏大臣ニ建議スルコトヲ得

第七條 預金部資金運用委員會ハ會長一人及委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

臨時必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第八條 會長ハ大藏大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 大藏政務次官

二 大藏次官

三 關係各廳高等官

四 會計検査院部長

五 日本銀行總裁

六 學識經驗アル者

前項第三號、第四號及第六號ニ掲クル者ヲ以テ充ツル委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

臨時委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第十條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ其ノ指命シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第十一條 預金部資金運用委員會ニ幹事ヲ置ク

幹事ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス(四)

第十二條 預金部資金運用委員會ニ書記ヲ置ク

書記ハ大藏部内判任官ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ運用中ノ預金部資金ニシテ其ノ運用方法カ第一條ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ同條ノ規定ニ拘ラス仍其ノ運用方法ニ依ルコトヲ得

○昭和五年勅令第三十五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和六年勅令第二百二十九號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和七年勅令第三百三十三號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十年勅令第二百八十八號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十一年勅令第二百六十三號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●預金部預金取扱規程

大正十一年二月一日
大藏省令第六號

改正 (一) 大正十四年四月一日

(二) 大正十五年三月二十九日
大藏省令第九號

(三) 昭和五年九月三十日
大藏省令第十七號

(四) 昭和六年八月二十二日
大藏省令第三十一號

(五) 昭和七年九月二十九日
大藏省令第二十二號

(六) 昭和十年三月二十六日
大藏省令第五號

(七) 昭和十一年三月二十六日
大藏省令第七號

(八) 昭和十一年六月五日
大藏省令第十九號

預金部預金取扱規程左ノ通定ム

預金部預金取扱規程

第一章 總 則

第一條 預金部預金及預金購入有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂ヲ爲スヘシ(一)

第二條 預ケ人ハ左ノ者ヲ擔當者ト爲シ其ノ資格氏名及住所ヲ日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ届出ツヘシ(一)

- 一 官廳ニ係ルモノハ當該官廳ニ於ケル取扱主任官
- 二 法人ニ係ルモノハ其ノ理事者

預金部預金及購入有價證券ノ受拂ニ關シ預ケ人ヨリ提出スル書類ニハ擔當者之ニ記名捺印スヘシ

第三條 前條ノ擔當者ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ(一)

第二章 預金ノ種類(二追加)

第三條ノ二 預金部預金中預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第二百一十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノモノハ之ヲ普通預金及定期預金ノ二種トス(二追加)

第三條ノ三 普通預金ハ預ケ人ノ請求アルトキハ何時ニテモ之カ拂戻ヲ爲スモノトス(二追加)

定期預金ハ預入ノ日ヨリ六月以上ノ約定期間内之カ拂戻ヲ爲ササルモノトス但シ約定期間内ト雖預ケ人ノ要求アルトキハ事情ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得(二追加)

第三章 預金ノ拂込(二)

第四條 預ケ人預金ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第一號書式ノ預金部預金拂込書ヲ、其ノ他ノ預金ニ在リテハ第一號ノ二書式ノ預金部預金拂込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ拂込ミ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ(二)

定期預金以外ノ預金ノ預ケ人ハ預金ノ拂戻ニ使用スル小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ

預ケ人ハ必要アル場合ニ於テハ預金部預金帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テハ保管金ヲ提出スヘキ者ヲシテ第二號書式ノ保管金振込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ於ケル預ケ人ノ預金ニ振込マシムルコトヲ得

○昭和五年勅令第三十五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和六年勅令第二百二十九號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和七年勅令第三百三十三號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十年勅令第二百八十八號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十一年勅令第二百六十三號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●預金部預金取扱規程

大正十一年二月一日
大藏省令第六號

改正 (一) 大正十四年四月一日

(二) 大正十五年三月二十九日

(三) 昭和五年九月三十日

(四) 昭和六年八月二十二日

(五) 昭和七年九月二十九日

(六) 昭和十年三月二十六日

(七) 昭和十一年三月二十六日

(八) 昭和十一年六月五日

(九) 大藏省令第五號

預金部預金取扱規程左ノ通定ム

預金部預金取扱規程

第一章 總則

第一條 預金部預金及預金購入有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之カ受拂ヲ爲スヘシ(一)

第二條 預ケ人ハ左ノ者ヲ擔當者ト爲シ其ノ資格氏名及住所ヲ日本銀行(本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ニ届出ツヘシ(一)

- 一 官廳ニ係ルモノハ當該官廳ニ於ケル取扱主任官
- 二 法人ニ係ルモノハ其ノ理事者

預金部預金及購入有價證券ノ受拂ニ關シ預ケ人ヨリ提出スル書類ニハ擔當者之ニ記名捺印スヘシ

第三條 前條ノ擔當者ハ照較ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ提出スヘシ(一)

第二章 預金ノ種類(二追加)

第三條ノ二 預金部預金中預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第二百一十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノモノハ之ヲ普通預金及定期預金ノ二種トス(二追加)

第三條ノ三 普通預金ハ預ケ人ノ請求アルトキハ何時ニテモ之カ拂戻ヲ爲スモノトス(二追加)

定期預金ハ預入ノ日ヨリ六月以上ノ約定期間内之カ拂戻ヲ爲ササルモノトス但シ約定期間内ト雖預ケ人ノ要求アルトキハ事情ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得(二追加)

第三章 預金ノ拂込(二)

第四條 預ケ人預金ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第一號書式ノ預金部預金拂込書ヲ、其ノ他ノ預金ニ在リテハ第一號ノ二書式ノ預金部預金拂込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ拂込ミ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ(二)

定期預金以外ノ預金ノ預ケ人ハ預金ノ拂戻ニ使用スル小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ

預ケ人ハ必要アル場合ニ於テハ預金部預金帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テハ保管金ヲ提出スヘキ者ヲシテ第二號書式ノ保管金振込書ヲ添ヘ現金ヲ日本銀行ニ於ケル預ケ人ノ預金ニ振込マシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ振込ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ振込人ヲシテ日本銀行ヨリ預金部預金振込済通知書ノ交付ヲ受ケシムヘシ

第六條 (一削除)

第七條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人ハ其ノ預金ヲ以テ購入保管ニ係ル有價證券ノ利子支拂期到來シタルモノアルトキハ第三號書式ノ有價證券利子預金組入請求書ニ、其ノ償還ヲ受クヘキモノアルトキハ第四號書式ノ有價證券償還金預金組入請求書ニ受領ノ旨ヲ記入シ當該有價證券ノ記番號内譯表ヲ添附シテ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金組入金額ノ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ(一、二)

第八條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ日本銀行政府有價證券取扱規程第十二條ノ規定ニ依リ遺失物法ニ依ル政府保管有價證券ノ元利息受入ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ受領ノ旨ヲ記入シテ日本銀行ニ提出シ預金部預金領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第八條ノ二 預ケ人定期預金ノ更新ヲ爲サムトスルトキハ其ノ期限到來ノ日迄ニ第四號ノ二書式ノ預金部定期預金更新通知書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ(二追加)

預ケ人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ定期預金ノ期限到來ノ日ヨリ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做ス(二追加)

第四章 預金ノ拂戻(二)

第九條 預ケ人預金ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ定期預金ニ在リテハ第五號書式ノ預金部預金拂戻請求書ヲ日本銀行ニ提出シ其ノ他ノ預金ニ在リテハ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出スヘシ(一、二)

第十條 (一削除)

第十一條 預ケ人保管金ノ取扱官廳ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ保管替ヲ爲サムトスルトキハ第六號書式ノ預金部預金預入替請求書ヲ添へ保管替ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ヲ日本銀行ニ交付ス

ヘシ

第十二條 預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金取扱規程第八條又ハ供託物取扱規則第八條ノ規定ニ依リ日本銀行ヲシテ保管金又ハ供託金ノ他店拂ヲ爲サシメムトスルトキハ他店拂ヲ爲スヘキ金額ヲ券面金額トセル小切手ノ裏面ニ保管金又ハ供託金ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ氏名、住所及支拂店名ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ交付スヘシ

第五章 預金ノ利子(二)

第十二條ノ二 普通預金及定期預金ニ對シテハ拂込ノ翌日ヨリ拂戻ノ日迄日割計算ヲ以テ左ノ區分ニ依リ利子ヲ付スヘシ但シ一圓未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ付セス(二追加、四、五)

一 普通預金 年七厘五毛(三、四、五、六、七)

但シ法律勅令ニ依リ現金ノ預入ヲ預金部ノミニ限定セラレタル資金ニ屬スル預金ハ年一分(五追加、七)

二 定期預金 年二分五厘(三、四、五、八)

但シ法律勅令ニ依リ現金ノ預入ヲ預金部ノミニ限定セラレタル資金ニ屬スル預金ハ年三分(四、五、八)

第十三條ノ三第二項但書ノ規定ニ依リ拂戻ヲ爲シタル定期預金ノ額ニ對シテハ利子ヲ付セス但シ事情ニ依リ普通預金ニ付スヘキ利子ト同額以下ノ利子ヲ付スルコトヲ得(二追加)

第十三條 普通預金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモノトス但シ預金全額ノ拂戻ニ係ル利子ハ預金ノ拂戻ヲ爲ストキ計算シ之ヲ其ノ元金ニ組入ルルモノトス(二)

第十三條ノ二 預ケ人定期預金ノ利子ノ支拂ヲ受ケムトスルトキハ定期預金期限到來ノ日ニ於テ第六號ノ二書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ(二追加)

預ケ人前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ前項ノ利子ハ期限到來ノ日ニ普通預金トシテ拂込マレタルモノト看做ス(二追加)

第十四條 預ケ人毎年四月日本銀行ヨリ預金利子元加通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出

スヘシ

第十三條但書及前項ノ場合ニ於テ預ケ人ハ日本銀行ニ對シ元加利子額ニ相當スル金額ノ預金部預金領收證書ヲ請求スルコトヲ得(二)

第十四條ノ二 預ケ人日本銀行ヨリ預金部預金利子組入通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ承認ノ旨ヲ記入シ日本銀行ニ提出スヘシ(二追加)

前項ノ場合ニ於テ預ケ人ハ日本銀行ニ對シ定期預金利子ノ普通預金組入額ニ相當スル金額ノ預金部預金領收證書ヲ請求スルコトヲ得(二追加)

第十五條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人郵便貯金規則第二十四條ノ規定ニ依リ郵便貯金ニ對スル利子ノ元加ヲ要スルトキハ第七號書式ノ預金部預金利子元加請求書ヲ、郵便貯金規則第七十九條ノ規定ニ依リ隨時郵便貯金ニ對スル利子ノ支拂ヲ要スルモノアルトキハ第八號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ(一)

第十六條 大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ調査ノ上元加又ハ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ該請求書ニ記入シ之ヲ日本銀行本店ニ送付シ利子元加又ハ支拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十七條 預ケ人保管金ノ取扱官廳又ハ供託局ナル場合ニ於テ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ニ對シテ利子ノ支拂ヲ要スルトキハ第九號書式ノ預金部預金利子支拂請求書ニ依リ其ノ利子額ニ相當スル預金利子額ノ支拂ヲ日本銀行ニ請求スヘシ但シ保管金又ハ供託金ノ利子ヲ受取ル權利ヲ有スル者ノ提出シタル利子請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ預金部預金利子支拂請求書ニ代フルコトヲ得

第六章 預金購入有價證券(二)

第十八條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人預金ヲ以テ有價證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ第十號書式ノ有價證券購入請求書ヲ大藏省預金部ニ提出スヘシ(一)

第十九條 大藏省預金部前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ該請求書ニ記載ノ購入日附ニ於ケル時價ヲ以テ日本銀行本店ヲシテ指定ノ有價證券ヲ購入セシムヘシ(一)

第二十條 (一削除)

第二十一條 大藏省預金部日本銀行本店ヨリ購入有價證券ノ額面金額及購入代價ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十一號書式ノ有價證券購入濟通知書ヲ日本銀行ヲ經テ預ケ人ニ送付スヘシ

第二十二條 預ケ人前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ該通知書ノ裏面ニ有價證券購入代價ニ相當スル金額ノ預金ヲ領收セル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券保管通知書ノ交付ヲ受クヘシ

第二十三條 預ケ人預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ第十二號書式ノ預金購入有價證券拂戻請求書ニ當該有價證券ノ記番號内譯表ヲ添附シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ(二)

第二十四條 預ケ人日本銀行ヨリ預金購入有價證券ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ第十三號書式ノ預金購入有價證券受領證書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第七章 證明(二)

第二十五條 預ケ人官廳ナル場合ニ於テ日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ヨリ預金部預金ノ受入及拂渡ノ請求書並支拂小切手ノ番號及金額ヲ記載シタル書類ヲ添へ預金部預金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日內ニ之ヲ日本銀行ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス(二)

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ返付スル場合ニ於テハ預金取扱店ヲ經由スヘシ

第一項ノ規定ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏統轄店ヨリ預金部受拂計算表ノ送付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第八章 雜則(二)

第二十六條 日本銀行甲店ヲ預金取扱店トスル預ケ人日本銀行乙店ヲ預金取扱店ニ變更セムトスルトキハ第十四號書式ノ預

第九類 參考法規 預金部預金取扱規程

金取扱店變更申込書ヲ日本銀行甲店ニ提出シ預金部預金現在額證明書ノ交付ヲ受クヘシ
預ケ人ハ前項ノ證明書ヲ日本銀行乙店ニ提出シ承認ノ旨ノ記入ヲ受クヘシ

第二十七條 預ケ人預金部預金領收證書、預金部預金振込済通知書又ハ預金購入有價證券保管通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ證明請求書ヲ日本銀行ニ提出シ之カ證明ヲ請求スルコトヲ得第五條第二項ノ振込人預金部預金振込済通知書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ亦同シ

第二十八條 第二十五條ノ規定ニ依リ預ケ人又ハ大藏大臣ノ指定シタル官吏預金部預金月計突合表又ハ預金部受拂計算表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行統轄店又ハ特扱代理店ニ送付スヘシ(二)

前項ノ規定ニ依リ統轄店ニ送付スル場合ニ於テハ預金取扱店ヲ經由スヘシ(二追加)

第二十九條 預金部預金帳ノ交付ヲ受ケタル預ケ人ハ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金ノ受拂額ノ記入ヲ受クヘシ

第三十條 預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金ノ預ケ人ハ日本銀行ヨリ預金購入有價證券保管帳ノ交付ヲ受ケ隨時之ヲ日本銀行ニ提出シ預金購入有價證券ノ受拂額ノ記入ヲ受クヘシ(一)

附則

第三十一條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 預金取扱規程ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 本令施行前大藏省預金部ニ預入ヲ爲シタル預ケ人ハ従前ノ規定ニ依ル總代人、擔當者又ハ取扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス

保管金取扱規程第二十三條ノ規定ニ依ル預金部預金ノ預ケ人ハ保管物取扱規程ニ依ル取扱主任官ヲ以テ本令ニ規定スル擔當者ト爲シタルモノト看做ス

第三十四條 本令施行前預ケ人カ金庫ヨリ交付ヲ受ケタル預金通帳ハ本令ニ依リ日本銀行ヨリ交付ヲ受ケタル預金部預金帳ト看做ス

○大正十四年大藏省令第五號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

預金部預金法附則第四項ニ規定スル預金及國債證券ニシテ本令施行後三月内ニ受拂ヲ爲スモノニ付テハ従前ノ規定ニ依ル

○大正十五年大藏省令第九號附則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

預金部預金法第二條ノ規定ニ依ル預金及會計規則第二百一十一條ノ規定ニ依ル預金以外ノ預金ニシテ本令施行前預入ニ係ルモノニ付テハ其ノ預ケ人ハ本令施行後一月内ニ預金ノ種類ヲ定メ之ヲ日本銀行ニ通知スルコトヲ要ス

預ケ人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ本令施行ノ日ニ於テ當該預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做シ其ノ通知ヲ爲ササルトキハ本令施行ノ日ニ於テ普通預金ニ預入替ヲ爲シタルモノト看做ス

大正九年九月大藏省告示第百六十五號ハ之ヲ廢止ス

○昭和五年大藏省令第十七號附則

本令ハ昭和五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ預入シタル定期預金ニ付テハ該預金ノ期限到來ノ日迄従前ノ利率ニ依ル

○昭和六年大藏省令第三十一號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ預入シタル定期預金ニ付テハ該預金ノ期限到來ノ日迄従前ノ利率ニ依ル

○昭和七年大藏省令第二十二號附則

第九類 參考法規 預金部預金取扱規程

本令ハ昭和七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ預入シタル定期預金ニ付テハ該預金ノ期限到來ノ日迄従前ノ利率ニ依ル

○昭和十年大藏省令第五號附則

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十一年大藏省令第七號附則

本令ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十一年大藏省令第十九號附則

本令ハ昭和十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ預入シタル定期預金ニ付テハ該預金ノ期限到來ノ日迄従前ノ利率ニ依ル

第一號書式

預金部預金拂込書(用紙寸法
半紙判半載)(ニ追加)

預金部預金拂込書

第 號

金

期 限 年 月 日

預入根據法令

上記金額預金部定期預金トシテ拂込候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事者)
(住所氏名) 印

日本銀行(何店)宛

第一號ノ二書式 預金部預金拂込書(用紙寸法半紙判半截)(一、二)

預金部預金拂込書

第 號 金

預入根據法令

上記金額拂込候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事者) 氏名(住所)

日本銀行(何店)宛

第二號書式

保管金振込書

(用紙寸法半紙判半截)

保管金振込書

金

右某廳ノ保管金トシテ振込候也

年 月 日

住 所

氏

名

日本銀行(何店)宛

備考 本書ハ之ヲ横書スルコトヲ得

第三號書式 有價證券利子預金組入請求書(用紙寸法半紙判半截)

有價證券利子預金組入請求書

金

上記利子金額受領ノ上郵便貯金ニ係ル預金ニ元加相成度候也

内譯下記ノ通

貯金局長氏名 印

日本銀行 宛

年 月 日

證 券 種 別	券 面 額	利 子 額	内				譯		
			所 得 額	利 子 額	賦 課 額	同 免 除 額	同 券 面 額	利 子 額	

有價證券償還金預金組入請求書

金

證券何枚

内譯下記ノ通

上記償還金額受領ノ上郵便貯金ニ係ル預金ニ組入相成度候也

年 月 日

貯金局長氏名印

日本銀行宛

内 譯 (證券記番號ハ別紙記番號内譯表ノ通)

證券種別	券面、記號 及回数別	枚 數	券面額	割増金	月割利子	受 預 高

第四號書式 有價證券償還金預金組入請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

所得稅免除證券利子證明書

金

利子金額

内 譯

證券種別	記番號及回数別	券 面 額	利 子 額

上記證券ハ所得稅ヲ免除スヘキ所有者ノ分ナルコトヲ證明ス

年 月 日

貯金局長氏名印

第三號書式附屬 所得稅免除證券利子證明書 (用紙寸法 半紙判半載)

第四號書式附屬 (二) 削除
第四號ノ二書式

預金部定期預金更新通知書 (用紙寸法半紙判半截) (二) 追加

預金部定期預金更新通知書

金
預入年月日 年 月 日
期 限 年 月 日
預入根據法令
上記預金期限到來後引續キ 年 月 日迄
預入繼續可致候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名 (又ハ何々理事者) 宛
(住所氏名)

日本銀行 (何店) 宛

第五號書式 預金部預金拂戻請求書 (用紙寸法半紙判半截) (一) 削除、(二) 追加

預金部預金拂戻請求書

金 定期預金
預入年月日 年 月 日
期 限 年 月 日
預入根據法令
上記金額拂戻相成度候也
年 月 日

某廳取扱主任官官氏名 (又ハ何々理事者) 宛
(住所氏名)

日本銀行 (何店) 宛

上記金額領收候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名 (又ハ何々理事者) 宛
(住所氏名)

日本銀行 (何店) 宛

預金部預金利子元加請求書

金

上記金額郵便貯金ノ利子元加ヲ要スルモノニ付預金ニ元加ノ手續相成度候也

年 月 日

貯金局長氏名 印

大藏省理財局長宛

上記金額元加ヲ要ス

年 月 日

大藏省理財局長氏名 印

日本銀行宛

第七號書式 預金部預金利子元加請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

預金部預金預入替請求書

金

預入替受入官廳

同 受入店

上記ノ通預入替相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名 印

日本銀行(何店)宛

第六號書式 預金部預金預入替請求書 (用紙寸法 半紙判半載)

預金部預金利子支拂請求書

金

預入年月日

定期預金利子

年 月 日

期 限

年 月 日

預入根據法令

上記金額支拂相成度候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名 (又ハ何々理事者) 印

日本銀行(何店)宛

第六號ノ二書式 預金部預金利子支拂請求書 (用紙寸法 半紙判半載) (二追加)

上記金額領收候也

年 月 日

某廳取扱主任官官氏名 (又ハ何々理事者) 印

日本銀行(何店)宛

第九類 參考法規 預金部預金取扱規程

預金部預金利子支拂請求書

金 保管金(又ハ供託金)利子
上記金額支拂相成度候也
年 月 日

某廳取扱主任官官氏名(又ハ某供託局長氏名) ㊟

日本銀行(何店)宛

上記金額領收候也

年 月 日

住 所

氏 名 ㊟

日本銀行(何店)宛

第九號書式 預金部預金利子支拂請求書 (用紙判半寸法)

預金部預金利子支拂請求書

金
上記金額郵便貯金ノ利子支拂ヲ要スルモノニ付支拂ノ手續相成度候也
年 月 日

貯金局長氏名 ㊟

大藏省理財局長宛

上記金額支拂ヲ要ス

年 月 日

大藏省理財局長氏名 ㊟

日本銀行宛

上記金額領收候也

年 月 日

貯金局長氏名 ㊟

日本銀行宛

第八號書式 預金部預金利子支拂請求書 (用紙判半寸法)

第 號 有價證券購入済通知書 (郵便貯金)		
証券種別	券面別	購入代金
上記証券購入済ニ付通知ス 年 月 日 大藏省理財局長氏名 貯金局長宛		

第 號 有價證券購入済通知書原符 (郵便貯金)		
証券種別	券面別	購入代金
貯金局長氏名 購入済通知書 年 月 日		

裏 面

表書ノ通大藏省ヨリ通知ヲ受ケ候ニ付預金部預金帳及預金購入有價證券保管帳差出候間購入代價及有價證券ノ記入相成度候也

年 月 日

日本銀行宛

貯金局長氏名

第 號 有價證券購入済通知書 (郵便貯金)		
証券種別	券面別	購入代金
上記証券購入済ニ付通知ス 年 月 日 大藏省理財局長氏名 日本銀行宛		

第十一號書式 有價證券購入済通知書(用紙寸法縦八寸五分 横一尺五寸)(一)

有價證券購入請求書

下記証券 月 日ノ時價ヲ以テ購入保管相成度候也
年 月 日

貯金局長氏名

大藏省理財局長宛

証券種別	券面額	券面別	枚 數	見込相場額	備 考

第十號書式 有價證券購入請求書(用紙寸法 半紙判半載)(一)

第九類 參考法規 預金部預金取扱規程

預金購入有價證券受領證書

何公債證書(又ハ何)額面何圓也 何 枚

内譯下記ノ通

上記證券領收候也

年 月 日

貯金局長氏名園

日本銀行宛

券面、記番 號及回数別	枚 數	券面、記番 號及回数別	枚 數	券面、記番 號及回数別	枚 數	券面、記番 號及回数別	枚 數

第十三號書式 預金購入有價證券受領證書(用紙寸法(一)半紙判半載)

預金購入有價證券拂戻請求書

何公債證書(又ハ何)額面何圓也 何 枚

内譯下記ノ通

上記證券拂戻相成度候也

年 月 日

貯金局長氏名園

日本銀行宛

内 譯

(證券記番號ハ別紙記番號内譯表ノ通)

券面、記 號及回数別	枚 數	券面、記 號及回数別	枚 數	券面、記 號及回数別	枚 數

第十二號書式 預金購入有價證券拂戻請求書(用紙寸法(一、二)半紙判半載)

第十四號書式 預金取扱店變更申込書(用紙寸法)

預金取扱店變更申込書

左記預金日本銀行(何店)ノ取扱ニ變更相成度候也

年 月 日

日本銀行(何店)宛

記

預金現在高

某廳取扱主任官官氏名(又ハ何々理事若ハ何々總代住所氏名) 印

●預金部預金法附則第四項ニ依リ預金部預金ヲ郵便貯金

ニ振替ノ件

大正十四年六月二十四日
大藏、逓信省令

預金部預金法附則第四項ニ依リ預金部預金ヲ郵便貯金ニ振替ノ件左ノ通之ヲ定ム

第一條 預金規則第一條第三號ノ規定ニ依ル預金及明治三十九年勅令第二百一十一號ニ依ル預金ニシテ預金部預金法施行後三

月内ニ預ケ人之カ拂戻ノ請求ヲ爲サ、ルトキハ大正十四年六月三十日ヲ以テ之ヲ郵便貯金ニ振替ヘ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ヲ交付ス但預ケ人既ニ他ノ郵便貯金通帳ヲ所持スル場合ニハ貯金轉記ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依リ郵便貯金ニ振替ヘタル預金ノ利子ニ付テハ大正十四年六月分迄ノ利子ヲ從前ノ規定ニ依リ計算シ郵便貯金ノ全部拂戻又ハ利子元加ノ際其ノ支拂又ハ元加ヲ爲スヘシ

第三條 預金規則第一條第三號ノ規定ニ依ル預金ヲ以テ購入保管シタル國債證券及明治三十九年勅令第二百一十一號ニ依ル預託ノ國債證券ニシテ預金部預金法施行後三月内ニ預ケ人之カ拂戻ノ請求ヲ爲ササルトキハ大正十四年六月三十日ヲ以テ之

ヲ貯金局保管ニ組替ヘ預ケ人ニ對シ證券保管通帳ヲ交付ス

第四條 從前ノ預金部預金又ハ預金購入保管國債證券ノ拂戻ニ關シ特ニ定メタル者ノ證明ヲ要スル場合ニ於テ其ノ證明ヲ爲スヘキ者ハ大正十四年七月一日以後之ヲ郵便貯金ノ加印者トス

第五條 第一條及第三條ノ規定ニ依リ郵便貯金通帳又ハ證券保管通帳ノ交付ヲ受ケタル者從前ノ規定ニ依リ日本銀行ヨリ交付ヲ受ケタル預金部預金帳又ハ證券保管證書ヲ所持スルトキハ之ヲ日本銀行ニ返還スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國爲替管理法

昭和八年三月二十九日
法律第二十八號

改正(一)昭和十二年八月二十八日
法律第八十一號

(二)昭和十二年九月十日
法律第八十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國爲替管理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國爲替管理法

第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

一 外國通貨又ハ外國爲替ノ取得又ハ處分

二 通貨、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄造又ハ毀傷

三 外國ニ對スル送金ニシテ前二號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ

四 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本邦内ニ於テ爲ス支拂

五 外國爲替相場ノ取極

六 外國通貨ヲ以テ表示スル證券、債權又ハ債務ノ取得又ハ處分

第九類 參考法規

預金部預金法附則第四項ニ依リ預金部預金ヲ郵便貯金ニ振替ノ件
外國爲替管理法

- 七 本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權又ハ債務ノ取得又ハ處分(二追加)
- 八 信用狀ノ發行又ハ取得
- 九 外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲
- 十 證券ノ輸出又ハ輸入
- 十一 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出又ハ輸入(一)
- 十二 外國ニ在ル財産ニシテ第一號、第六號又ハ第七號ニ掲ゲザルモノノ取得又ハ處分(二追加)
- 第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ禁止若ハ制限又ハ第四條ノ處分命令ニ關シ必要ナル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ行フコトヲ得(二)
- 第三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國爲替ニ關スル取引ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合ニ限定スルコトヲ得
- 第四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル財産ヲ有スル者ニ對シ之ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ニ賣却シ其ノ他之ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得(二)
 - 一 金地金、外國通貨又ハ外國爲替(二)
 - 二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權(二)
 - 三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノ(二)
- 前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ外貨評價委員會ノ定ムル所ニ依リ外貨評價委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 第一條又ハ第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ規定スル取引又ハ行爲ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該取引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金

ハ當該價額ノ三倍以下トス

- 第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的ヲ以テ取得シ又ハ輸出セントシタル者亦前項ニ同ジ(二追加)
- 前條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ依リ金地金其ノ他ヲ處分シ又ハ賣却スベキ旨ノ政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ當該金地金其ノ他ノ價額ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス
- 第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿其ノ他ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隠蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ
- 第六條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス
- 第七條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ
- 第八條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲外國爲替管理委員會ヲ置ク

外國爲替管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年勅令第六十五號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行)

資本逃避防止法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前舊法ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第九類 參考法規 外國爲替管理法

○昭和十二年法律第八十一號附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十二年法律第八十七號附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件

昭和八年四月二十六日
大藏省令第七號

- 改正 (一) 昭和八年五月十八日 (二) 昭和八年八月八日 (三) 昭和八年九月二十八日
大藏省令第十二號 大藏省令第十九號 大藏省令第二十六號
(四) 昭和十一年十一月二十七日 (五) 昭和十二年七月七日 (六) 昭和十二年十二月十一日
大藏省令第三十八號 大藏省令第二十一號 大藏省令第五十三號

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件左ノ通定ム

第一條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スルコトヲ得ズ

(三、六)

金貨幣ハ之ヲ鑄造シ又ハ毀傷スルコトヲ得ズ

第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出申告又ハ郵便差出ニ際シ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ(四追加)

第二條 商取引上ノ必要其ノ他ノ實需ニ基クコトナク邦貨ノ爲替相場ノ變動ニ依リ利益ヲ得ルコトヲ目的トシテ外國通貨、

外國爲替(本邦ヨリ外國ニ仕向ケ又ハ外國ヨリ本邦ニ仕向ケタル爲替手形、小切手、支拂指圖書、電信爲替及郵便爲替ヲ謂フ但シ本邦ト邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域トノ間ノ圓爲替ヲ除ク以下同ジ)又ハ外國ヨリ外國ニ仕向ケタル圓爲替ノ賣買ヲ爲スコトヲ得ズ(四)

第三條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

- 一 邦貨ヲ對價トスル外國通貨、外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入(四)
- 二 邦貨ヲ對價トスル外國爲替ノ賣却ニシテ外國爲替銀行ニ非ザル者ヲ相手方トスルモノ又ハ買爲替ノ相殺ヲ目的トスルモノ(四)
- 三 外國通貨ヲ對價トスル外國爲替タル圓爲替ノ賣却(四、六)
- 四 外國通貨ヲ對價トスル外國爲替タル圓爲替ノ買入ニシテ賣爲替ノ相殺ヲ目的トスルモノ(六追加)
- 五 通貨、外國通貨、小切手又ハ手形ノ送付又ハ攜帶其ノ他外國ニ對スル送金ニシテ第一條及本條ノ他ノ各號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ
- 六 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地内ニ於テ爲ス支拂

第四條 左ニ掲グル場合ニハ前條ノ規定ニ拘ラズ前條ノ取引又ハ行爲ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ但シ通貨又ハ外國通貨ヲ外國ニ攜帶又ハ送付シ得ル額ハ第十二號ニ掲グル場合ヲ除クノ外千圓相當額以下トス(四)

- 一 本邦ヨリノ貨物(證券ヲ除ク以下同ジ)本令ニ於テ證券トハ本邦又ハ外國ノ公債、社債、株式又ハ公債社債ノ利札ヲ謂フノ輸出又ハ本邦ヘノ貨物ノ輸入ノ爲必要ナルトキ(四)
- 二 再保險又ハ海上保險契約ニ基ク保險金ノ支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ(六)
- 三 本邦内ニ於テ支拂ハルル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又ハ金錢信託ノ利益ヲ外國ニ住所ヲ有スル權利者ニ送ル爲必要ナルトキ(五、六)

四 契約上ノ義務トシテ外國ニ於テ六箇月内ニ爲スベキ公債又ハ社債ノ元利拂基金交付ノ爲必要ナルトキ

五 外國ニ於テ特許權其ノ他ノ工業所有權ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲スニ必要ナル費用ヲ送ル爲必要ナルトキ

(四、五)

六 外國ニ旅行セントスル者其ノ旅費ニ充ツル爲千圓相當額以下ノ通貨又ハ外國通貨ヲ攜帶スル爲必要ナルトキ(五)

- 七 外國ニ旅行セントスル者一箇年内ノ所要旅費トシテ其ノ取得シタル信用狀(旅行小切手ヲ含ム以下同ジ)ノ金額ト通ジ千圓相當額以下ノ送金爲替ヲ携帶スル爲必要ナルトキ(四、五、六)
- 八 外國ニ旅行シ又ハ滞在スル者ニ對シ一箇年内ノ所要ニ充ツベキ旅費、俸給、給料、手當、學費其ノ他之ニ類スル費用トシテ其ノ取得シタル信用狀ノ金額並該旅行者又ハ滞在者ノ出發ニ際シ携帶シタル送金爲替及信用狀ノ金額ト通ジ千圓相當額以下ヲ送ル爲必要ナルトキ又ハ本邦ニ滞在スル者外國ニ在ル家族ニ對シ一箇年内ノ所要ニ充ツベキ生活費千圓相當額以下ヲ送ル爲必要ナルトキ(二、四、五、六)
- 九 主務大臣ノ指定スル移民ガ其ノ移住定著ニ必要ナル費用ヲ送金スル爲又ハ移植民事業ヲ行フ會社其ノ他ノ法人ガ該移民ノ委託ヲ受ケ其ノ移住定著ニ必要ナル費用ヲ送金スル爲必要ナルトキ
- 十 本邦内又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ住所、本店又ハ主タル事務所ヲ有スル者ノ該地域ニ於ケル事業又ハ營業ノ爲必要ナル資金ヲ該地域ニ送ル爲必要ナルトキ(三)
- 十一 本邦ニ於テ發行シタル信用狀ニ基キ爲替ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ爲シ若ハ支拂ノ爲爲替ヲ買入ルルトキ(二、三)
- 十二 官廳ノ業務トシテ爲ストキ又ハ官廳ノ必要ニ基キテ爲ストキ
- 十三 他ノ各號ニ該當スル場合ノ外一箇年ヲ通ジ千圓相當額以下ノ金額ヲ送金シ又ハ支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ(四追加)
- 第五條 銀行ハ第三條ノ規定ニ拘ラズ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ
 - 一 顧客(銀行ヲ含ム)ノ依頼ニ應ジ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入ヲ爲スコト
 - 二 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ賣却ニ伴ヒ必要ナル決済ヲ爲ス爲邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入ヲ爲シ又ハ該地域ニ對スル送金ヲ爲スコト
 - 三 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル取立爲替ノ取立代リ金ヲ該地域ヘ送金スルコト(四)
 - 四 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル送金爲替ノ支拂ヲ爲スコト(二、四)

第六條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外貨證券(本邦又ハ外國ノ公債、社債、株式又ハ公債社債ノ利札ニシテ外國通貨ヲ以テ表示スルモノヲ謂ヒ登録シタル公債、社債又ハ株式ニシテ外國通貨ヲ以テ表示スルモノハ之ヲ外貨證券ト看做ス以下同ジ)ヲ有償ニテ取得スルコトヲ得ズ(四)

昭和七年七月一日ニ本邦内ニ在リタル外貨證券、昭和七年大藏省令第十二號第三條第一項若ハ本令第十二條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ輸入シタル外貨證券又ハ本令第十二條第一項第一號、第三號若ハ第四號ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ輸入シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ取得スル場合並外國人ガ外國ニ於テ有スル資金ヲ以テ外貨證券ヲ取得スル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セズ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ右ニ掲グル規定ニ相當スル資本逃避防止法又ハ外國爲替管理法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ輸入シタル外貨證券ヲ本邦内ニ於テ取得スル場合亦同ジ(四)

第六條ノ二 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國ニ在ル外國ノ外貨證券ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ第十六條第一項ノ規定ニ依リ支拂期日到来後ニ賣却スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ(六追加)

第七條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ邦貨ヲ對價トシテ外國通貨ヲ以テ表示スル債權(外國爲替及外貨證券タルモノヲ除ク)ヲ讓受クルコトヲ得ズ

第八條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ何人ノ計算ニ於テスルヲ問ハズ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ預金又ハ消費貸借ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ信託又ハ保險(再保險及海上保險ヲ除ク以下同ジ)ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國通貨ヲ以テ表示スル地方債若ハ社債ヲ發行シ又ハ本邦内ニ在ル財産ヲ擔保トシテ外國ニ於テ外國通貨ヲ以テ表示スル借入金若ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ借入金ヲ爲スコトヲ得ズ但シ

邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ居住スル者ヨリ該地域ニ於テ邦貨ヲ以テ表示スル借入金ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ
(四、六)

第十條ノ二 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國居住者ノ債務ニ付擔保ヲ供スルコトヲ得ズ但シ第六條ノ二ノ規定ニ依
リ許可ヲ受ケ外國ニ在ル外貨證券ヲ擔保ニ供スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ(六追加)

前項ノ規定ハ外國人ガ外國ニ於テ所有スル財産ヲ擔保ニ供スル場合ニハ之ヲ適用セズ(六追加)

第十一條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ信用狀ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此
ノ限ニ在ラズ(四、五)

一 本邦又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘノ貨物ノ輸入ノ爲必要ナルトキ(四)

二 本邦ヨリノ貨物ノ輸出ノ爲必要ナルトキ(四)

三 再保險又ハ海上保險契約ニ基ク保險金ノ支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ(四、六)

四 外國ニ旅行スル者ノ一箇年内ノ所要旅費ニ充ツル爲該旅行者ノ携帶スル送金爲替ノ金額ト通ジ千圓相當額以下ノ信用
狀ヲ出發豫定日前二週間内ニ取得スルトキ(四追加、五、六)

五 官廳ヨリ支給ヲ受ケタル旅費其ノ他ノ給與ヲ携帶又ハ送付スル爲信用狀ヲ取得スルトキ(四追加、六)

六 外國ニ旅行シ又ハ滞在スル者ニ對シ一箇年内ノ所要ニ充ツベキ旅費、俸給、給料、手當、學費其ノ他之ニ類スル費用
トシテ第三條ニ掲グル取引又ハ行爲ノ目的物ノ金額並該旅行者又ハ滞在者ノ出發ニ際シ携帶シタル送金爲替及信用狀ノ
金額ト通ジ千圓相當額以下ヲ送ル爲必要ナルトキ(四追加、五、六)

第十二條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ證券ヲ輸入シ又ハ輸出スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
(四)

一 本邦内ニ支拂地ヲ有スル證券ノ支拂ヲ受クル爲支拂期日前三箇月内又ハ支拂期日以後ニ輸入スルトキ(四)

二 株主、取締役、公債所有者又ハ社債權者ガ内外ノ法令又ハ定款ノ規定ニ基キ義務トシテ又ハ權利ノ行使若ハ保全ノ爲
提出スベキ株式、公債又ハ社債ヲ當該會社、官公署又ハ其ノ財務代理人ニ送付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ(四)

三 前號ニ掲グル株式、公債又ハ社債ノ提出ニ伴ヒ當該會社、官公署又ハ其ノ財務代理人ヨリ株式、公債又ハ社債ヲ返付
又ハ交付スル爲輸出シ又ハ輸入スルトキ(四)

四 株式引受人又ハ公債若ハ社債ノ應募者ニ對シ之ニ交付スベキ株式又ハ公債若ハ社債ヲ送付スル爲輸出シ又ハ輸入スル
トキ(四)

五 邦貨ヲ以テ表示スル證券ヲ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘ輸出シ又ハ該地域ヨリ輸入スルトキ但シ公債社債ノ利札
ノ輸出ヲ除ク(三追加、四)

證券ヲ輸入シ又ハ輸出シタル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ二週間内ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ外國ニ旅行セントスル者ハ出
發前報告ヲ爲スコトヲ要ス(四)

第十三條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マズシテ貨物ノ輸出ヲ爲スコトヲ得
ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ヘ輸出スルトキ(四)

二 見本トシテ又ハ寄贈ノ爲輸出スルトキ(四)

三 委託販賣ノ爲輸出スルトキ又ハ委託販賣ノ爲輸入シタル貨物ヲ外國向轉送若ハ返送スルトキ(四)

四 貨物輸出前本邦内ニ於テ其ノ代金ヲ外國ヨリ受領済ナルトキ又ハ本邦内ニ於テ外國ヨリ代金受領済ノ貨物ト取換ノ爲
輸出スルトキ(四、五)

五 貨物輸出後二箇月内ニ本邦内ニ於テ外國ヨリ其ノ代金ヲ確實ニ受領スル契約アルトキ(四、五)

六 本邦ヨリノ貨物ノ輸出又ハ本邦ヘノ貨物ノ輸入ノ爲必要ナル販賣口錢、損害賠償金其ノ他ノ費用ノ支拂ニ充ツル爲輸

出スルトキ(四)

七 檢收後代金ノ確定スベキ性質ノ貨物ヲ輸出スルトキ(四)

八 郵便ニ依リ價額千圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ又ハ鐵道ニ依リ代金引換ノ取扱ノ下ニ輸出スルトキ(四)

九 代金取立手形ニ依リ代金ヲ取立テ直ニ之ヲ本邦ニ回金スル契約ノ下ニ一箇月ヲ通ジ價額二萬圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ(四)

キ(四)

十 官廳ノ必要ニ基キテ輸出スルトキ(四)

十一 價額百圓以下ノ物ヲ輸出スルトキ

十二 商慣習ニ依リ外國爲替ヲ取組マザルトキ(四、五)

十三 手荷物、引越荷物又ハ船用品(漁業用品ヲ含ム以下同ジ)ヲ輸出スルトキ(五追加)

外國ヨリ仕向ケラレタル信用狀ニ基キ本邦内ノ銀行ニ宛テタル爲替手形ヲ振出シ之ヲ賣却シタルトキ又ハ本邦内ノ銀行ニ船積書類等ヲ提供シ代金ヲ受領シタルトキハ外國爲替ヲ取組ミタルモノト看做ス(四)

第十三條ノ二 價額ノ全部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ貨物ヲ輸出スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出申告又ハ郵便差出ニ際シ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ但シ左ニ掲グル物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ(四追加、五)

一 慈善又ハ救恤ノ爲ノ寄贈品(四追加)

二 官廳ノ輸出スル物(四追加)

三 價額百圓以下ノ物(四追加)

四 手荷物、引越荷物又ハ船用品(四追加)

第十三條ノ三 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組ミ貨物ヲ輸

出スル者ハ其ノ爲替取組ニ關シ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出申告又ハ郵便差出ニ際シ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ但シ前條各號ニ掲グル物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ(五追加)

前項ノ報告ヲ爲シタル者其ノ後爲替取組金額ヲ變更セザリシトキハ別ニ定ムル所ニ依リ輸出申告又ハ郵便差出後二週間内ニ爲替取組先銀行ノ證明ヲ附シ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ(五追加)

第十三條ノ四 前條第一項ノ報告ヲ爲シタル者其ノ後爲替ヲ取組マズ又ハ爲替取組金額ヲ變更シタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ輸出申告又ハ郵便差出後二週間内ニ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ但シ爲替取組金額ヲ變更シタル場合ニ在リテハ爲替取組先銀行ノ證明ヲ附スルコトヲ要ス(五追加)

價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組ミ貨物ヲ輸出シタル者其ノ取組ミタル爲替ノ償還又ハ買戻ヲ爲シタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ税關又ハ差出郵便局ヲ經テ遲滞ナク大藏大臣ニ報告スベシ(五追加)

第十四條 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ貨物又ハ證券ヲ輸出シタル者其ノ他該貨物又ハ證券ノ代金ヲ外國ヨリ受領スベキ者ハ其ノ代金ヨリ該貨物又ハ證券ニ付外國ニ於テ要シタル費用及本邦ヘノ輸入貨物ノ代金ニ充當シタルモノヲ除キ該貨物又ハ證券ノ仕向地ニ到着後五箇月内ニ之ヲ本邦ニ回收スベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ(四)

前項ノ規定ニ依リ代金ノ充當及回收狀況ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月分ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ(四)

第十五條 本邦内ニ於テ所有スル外貨證券ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後三箇月内ニ本邦内ニ於テ之ヲ賣却シ若ハ取立依頼ヲ爲シ又ハ本邦内ニ於テ之ガ支拂ヲ受クベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ(四)

第十六條 外國ニ於テ所有スル外貨證券又ハ外國ニ於テ支拂ヲ受クル外貨證券ノ利金若ハ配當金ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後三箇月内ニ之ガ支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ賣却スベシ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(四)

外國ニ於テ所有スル外貨證券ヲ賣却シ若ハ之ガ支拂ヲ受ケ又ハ外貨證券ノ利金若ハ配當金ヲ外國ニ於テ支拂ヲ受ケ若ハ之ヲ受取ル權利ヲ讓渡シタルトキハ其ノ代リ金ハ其ノ外貨證券、外貨證券ノ利金又ハ配當金ニ付外國ニ於テ要シタル費用トシテ支拂ヒタルモノヲ除キ二箇月内ニ之ヲ本邦ニ取寄スル手續ヲ爲スベシ但シ其ノ金額通ジテ千圓相當額未滿ナル場合又ハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ(四)

第十六條ノ二 大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ外國ニ在ル不動産、鑛業權、森林伐採權若ハ工業所有權又ハ外國ノ國籍ヲ有スル船舶ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ(六追加)

一 本邦内又ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ在ル財産ヲ處分シ該地域ニ在ル財産ヲ取得スルトキ(六追加)

二 一箇年ヲ通ジ價額五萬圓相當額以下ノ財産ヲ取得スルトキ(六追加)

三 取得スベキ財産ノ代金ヲ送金シ又ハ之ガ支拂ヲ爲ス爲第三條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ(六追加)

四 鑛業權又ハ工業所有權ノ設定ヲ受ケタルトキ(六追加)

五 相續又ハ遺贈ニ因リ取得スルトキ(六追加)

六 官廳ノ取得スルトキ(六追加)

前項ノ規定ハ外國人ガ無償ニテ又ハ外國ニ於テ所有スル財産ヲ以テ前項ニ掲グル財産ヲ取得スル場合ニハ之ヲ適用セズ

(六追加)

第十六條ノ三 大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ、出資ヲ爲シ又ハ本邦内ニ在ル財産ヲ取得スル爲外國ニ在ル財産ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ(六追加)

一 本邦内若ハ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ於ケル事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ又ハ本邦内若ハ該地域ニ於テ出資ヲ爲ス爲該地域ニ在ル財産ヲ處分スルトキ(六追加)

二 外國ニ於ケル事業、營業若ハ出資ヲ讓受ケ又ハ外國ニ於テ出資ヲ爲ス爲一箇年ヲ通ジ價額五萬圓相當額以下ノ財産ヲ處分スルトキ(六追加)

三 第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外貨證券ヲ取得スルトキ(六追加)

四 第六條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外貨證券ヲ處分スルトキ(六追加)

前項ノ規定ハ外國人ガ外國ニ於テ所有スル財産ヲ處分スル場合ニハ之ヲ適用セズ(六追加)

第十七條 昭和十一年十二月一日以後既存又ハ新設ノ店舗ニ於テ外國爲替業務ヲ營マントスル銀行ハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケベシ(四)

昭和十一年十一月三十日迄ニ外國爲替業務ヲ營ム旨ノ届出ヲ爲シタル銀行又ハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル銀行ヲ外國爲替銀行ト謂ヒ其ノ外國爲替業務ヲ營ム店舗ハ大藏大臣之ヲ告示ス(四)

外國爲替銀行其ノ全部又ハ一部ノ店舗ニ於ケル外國爲替業務ヲ廢止セントスルトキ又ハ其ノ外國爲替業務ヲ營ム店舗ノ名稱若ハ位置ヲ變更セントスルトキハ豫メ大藏大臣ニ届出ヅベシ此ノ場合大藏大臣ハ之ヲ告示ス(四)

第十八條 外國爲替銀行ハ第三條、第六條、第七條及第十二條ノ規定ニ拘ラズ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セズ(二)

一 顧客(銀行ヲ含ム)ノ依頼ニ應ジ外國通貨又ハ外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ賣買ヲ爲スコト

二 前號ノ規定ニ依ル外國通貨又ハ外國爲替ノ賣買ニ伴ヒ必要ナル範圍ニ於テ資金調整ノ爲ニ外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ賣買ヲ爲スコト

三 外國ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル取立爲替ノ取立代リ金ヲ外國ニ送金スルコト(四)

四 外國ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル送金爲替ノ支拂ヲ爲スコト(二追加、四)

五 外貨證券ノ支拂ヲ受クル爲(顧客ノ取立依頼ニ基クモノヲ含ム)支拂期日前三箇月内又ハ支拂期日以後ニ之ヲ輸出スル

コト(四)

第十四條ノ規定ハ外國爲替銀行ガ外貨證券ヲ輸出スル場合ニハ之ヲ適用セズ(四)

第六條ノ二、第十條ノ二、第十五條、第十六條、第二十四條ノ二及第二十四條ノ三ノ規定ハ外國爲替銀行ニハ之ヲ適用セズ(六)

第十八條ノ二 外國爲替銀行第三條又ハ第十一條ニ掲グル取引又ハ行爲ノ相手方トナル場合ニハ顧客(銀行ヲ含ム)ガ其ノ取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルコト又ハ許可ヲ受クルノ要ナキコトヲ確認スベシ(五追加)

第十八條ノ三 大藏大臣ハ必要ト認ムルトキハ事項及人ヲ指定シテ本令ニ定ムル取引又ハ行爲ノ制限ヲ免除スルコトヲ得(六追加)

第十九條 外國爲替銀行ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ於ケル外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)ノ賣買、邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ賣買、取立爲替ノ取扱、送金爲替ノ支拂、信用狀ノ發行等ニ關スル明細書ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ提出スベシ(四)

外國爲替銀行ニ非ザル銀行ハ前項ニ準ジ邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ賣買、取立爲替ノ取扱、送金爲替ノ支拂、信用狀ノ發行等ニ關スル明細書ヲ提出スベシ(四)

第二十條 外國爲替銀行ハ別ニ定ムル所ニ依リ毎日ノ外國爲替(外國爲替銀行ノ業務上外國爲替ニ準ズルモノヲ含ム)賣買高及賣持又ハ買持ノ高等ヲ三日以内ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ外國ニ在ル店舗ノ分ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依リ旬毎ニ通計シ三日以内ニ本店又ハ東京所在店舗ヨリ大藏大臣ニ報告スルヲ以テ足ル(四)

第二十條ノ二 業トシテ外國通貨ノ賣買ヲ爲ス者(銀行ヲ除ク)ハ昭和十一年十二月三十一日迄ニ其ノ業務ヲ營ム店舗ヲ大藏大臣ニ届出ツベシ(四追加)

昭和十一年十二月一日以後業トシテ外國通貨ノ賣買ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ業務ヲ營ムベキ店舗ヲ大藏大臣ニ届出ツベシ(四追加)

前二項ノ規定ニ依リ業トシテ外國通貨ノ賣買ヲ爲ス旨ノ届出ヲ爲シタル者ヲ兩替商ト謂ヒ其ノ業務ヲ營ム店舗ノ變更並廢止ハ豫メ之ヲ大藏大臣ニ届出ツベシ(四追加)

第二十條ノ三 兩替商又ハ銀行ハ第三條及第七條ノ規定ニ拘ラズ其ノ業務上外國通貨又ハ外貨旅行小切手ノ買入ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ(四追加)

第二十一條 證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ヲ主タル業トスル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ於ケル外貨證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ニ關スル明細書ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ提出スベシ

第二十二條 昭和十二年十二月一日ニ外國居住者ト邦貨ヲ以テ表示スル預金又ハ消費貸借ノ契約ヲ爲シ居ル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ本令施行後一箇月内ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ其ノ金額千圓未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ(六)

第二十三條 本令施行後本邦内又ハ外國ニ於テ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲シタル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月分ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ各號ノ取引又ハ行爲毎ニ其ノ目的物ノ金額通ジテ千圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 外國通貨ノ取得又ハ處分
- 二 外國爲替ノ取得又ハ處分
- 三 邦貨ノ強制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ取得又ハ處分
- 四 前各號ニ包含スル方法ニ依ラザル外國ニ對スル送金
- 五 外貨證券ノ取得又ハ處分
- 六 信用狀ノ發行又ハ取得

七 外國通貨ヲ以テ表示スル債權(外國爲替及外貨證券タルモノヲ除ク)又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權ノ讓受(六)

八 外國通貨ヲ以テ表示スル預ケ金又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヘノ預ケ金ノ預入又ハ引出(六)

九 外國通貨ヲ以テ表示スル貸付金又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヘノ貸付金ノ貸付又ハ回收(六)

十 外國通貨ヲ以テ表示スル信託ノ委託又ハ受託

十一 外國通貨ヲ以テ表示スル保險ノ契約ノ締結

十二 外國通貨ヲ以テ表示スル地方債又ハ社債ノ發行又ハ償還(四)

十三 外國通貨ヲ以テ表示スル預リ金又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ預リ金ノ受入又ハ拂戻(六)

十四 外國通貨ヲ以テ表示スル借入金又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ借入金ノ借入又ハ返済(六)

十五 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地内ニ於テ爲ス支拂

外國ニ旅行セントスル者ハ前項ノ期限ニ拘ラズ出發前報告ヲ爲スベシ

第二十四條 前條ノ規定ハ第一項第二號ヲ除クノ外外國人ガ外國ニ於テ爲シタル取引又ハ行爲ニ付之ヲ適用セズ

第二十四條ノ二 本令施行地内ニ於テ外國居住者ト交互計算勘定其ノ他ノ相殺勘定ヲ有スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ於ケル其ノ内容ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ(六追加)

第二十四條ノ三 外國ニ於テ事業又ハ營業ヲ爲ス者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ事業又ハ營業ニ關シ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ外國ニ於テ生ジタル收入支出及本邦トノ間ノ送金其ノ他資金移動ノ狀況竝各期末ニ於テ外國ニ有スル資産負債ノ内容ヲ大藏大臣ニ報告スベシ(六追加)

前項ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スベキ報告書ハ各期間經過後一箇月内ニ之ヲ當該地ヨリ發送シ本店若ハ之ニ準ズルモノ又ハ東京所在店舗ニ於テ其ノ接受後遲滯ナク提出スベシ(六追加)

第二十四條ノ四 外國ニ財産(外貨證券、預ケ金、貸付金及信託ノ受益權ヲ除ク)ヲ有スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ財産

ニ關シ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ於ケル増減ノ内容及各期末ニ於ケル現在高ヲ大藏大臣ニ報告スベシ但シ該財産ノ期末現在高通ジテ一萬圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ(六追加)

前項ノ規定ハ官廳又ハ外國ニ於テ事業若ハ營業ヲ爲ス者ニ之ヲ適用セズ(六追加)

前條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス(六追加)

第二十五條 第十九條、第二十一條及第二十三條ノ規定ニ依リ外國ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付大藏大臣ニ提出スベキ明細書又ハ報告書ハ翌月十五日迄ニ之ヲ當該地ヨリ發送シ本店若ハ之ニ準ズルモノ又ハ東京所在店舗ニ於テ其ノ接受後遲滯ナク提出スベシ

第二十六條 外國通貨、外國爲替若ハ外貨證券ヲ有スル者、外國通貨ヲ以テ表示スル預金、消費貸借、信託若ハ保險ノ契約ヲ爲シ居ル者又ハ外國居住者ト邦貨ヲ以テ表示スル預金若ハ消費貸借ノ契約ヲ爲シ居ル者本令施行地内ニ住所ヲ有スルニ至リタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ届出ツベシ但シ其ノ金額千圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ(四、六)

前項ノ規定ハ外國爲替以外ノモノニ付テハ外國人ニ付之ヲ適用セズ(四)

第二十七條 本令ニ依リ一定ノ期間内ニ明細書又ハ報告書ヲ提出スベキ義務ヲ負フ者變災其ノ他ノ已ムヲ得ザル事故ニ由リ其ノ期間内ニ提出スコルト能ハザルトキハ其ノ事故止ミタルトキ其ノ事由ヲ具シテ遲滯ナク提出スベシ

第二十八條 大藏大臣ハ必要ト認ムルトキハ事項及人ヲ指定シテ本令ニ定ムルモノノ外報告ヲ徴シ又ハ本令ニ定ムル報告ヲ免除シ若ハ報告ノ期限ヲ延長スルコトヲ得(四、六)

第二十九條 大藏大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ何人ニ對シテモ外國爲替管理法第一條ノ禁止若ハ制限又ハ同法第四條ノ處分命令ニ關シ必要ナル事項ニ付其ノ帳簿其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得(六)

第三十條 大藏大臣ハ左ニ掲グル財産ヲ有スル者ニ對シ本令ニ定ムルモノノ外之ヲ日本銀行其ノ他大藏大臣ノ指定スル者ニ賣却シ其ノ他之ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ其ノ處分ノ禁止若ハ制限ヲ爲スコトヲ得(六)

一 金地金、外國通貨又ハ外國爲替(六)

二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ邦貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權(六)

三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノ(六)

第三十一條 本令ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ許可ヲ受クル場合及大藏大臣ニ報告スベキ場合ノ手續ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

附則

第三十二條 本令ハ昭和八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十三條 本令ノ規定ニ依リ各月分ニ付提出スベキ明細書又ハ報告書ハ昭和八年四月分ヨリ之ヲ提出スベシ

第三十四條 昭和八年三月以前ノ各月分ニ付昭和七年大藏省令第十二號第七條、第八條、第九條第二項又ハ第十條第二項ノ規定ニ依ル明細書又ハ報告書ヲ提出セザリシ者ニ付テハ仍同令ヲ適用ス昭和七年大藏省令第十二號第三條第三項ノ規定ニ

依ル報告書ヲ提出セザリシ者ニ付亦同ジ

第三十五條 第二十二條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ提出スベキ明細書又ハ報告書ニシテ特ニ遠隔ノ地ノ分ニ付テハ郵便ニ

依リ本令ノ規定ヲ知り得ベキ月ノ翌月十五日迄ニ當該地ヲ發送スルヲ以テ足ル

第三十六條 昭和六年大藏省令第三十八號又ハ昭和七年大藏省令第十二號ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル者ハ當該

取引又ハ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三十七條 昭和六年大藏省令第三十六號及昭和六年大藏省令第三十八號ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前同令ノ罰則ヲ適用ス

ベカリシ行爲ニ付テハ仍同令ニ依ル

第三十八條 昭和十二年十一月三十日以前ニ邦貨ノ強制通用力ヲ有シタル地域ハ本令ノ適用ニ付テハ當分ノ内之ヲ邦貨ノ強

制通用力ヲ有スル地域ト看做ス(六追加)

○昭和八年大藏省令第十二號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和八年大藏省令第十九號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和八年大藏省令第二十六號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十一年大藏省令第三十八號附則

本令ハ昭和十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十二年大藏省令第二十一號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第六號、同條第七號、同條第八號、第十一條及第十三條ノ改正規定ハ昭和十二年

七月十五日ヨリ、第十三條ノ二、第十三條ノ三及第十三條ノ四ノ改正規定ハ昭和十二年七月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ第四條第六號ノ規定ハ前項但書ノ規定ニ拘ラズ本令公布ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

○昭和十二年大藏省令第五十三號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第二號、同條第七號、同條第八號、第十一條第四號及同條第六號ノ改正規定ハ昭

和十二年十二月十八日ヨリ、第十六條ノ二及第十六條ノ三ノ改正規定ハ昭和十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條ノ二ノ改正規定ニ依リ提出スベキ報告書ハ昭和十三年一月分ヨリ、第二十四條ノ三及第二十四條ノ四ノ改正規定

ニ依リ提出スベキ報告書ハ昭和十二年七月ヨリ十二月迄ノ期間ノ分ヨリ之ヲ提出スベシ

● 供託法

明治三十二年二月八日
法律第十五號

改正(一) 大正十年四月十二日
法律第六十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル供託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
供託法

第一條 法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ供託局ニ於テ之ヲ保管ス(一)

第一條ノ二 前條ノ規定ニ依ル供託ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス(一追加)

第一條ノ三 利害關係人ハ供託官吏ノ處分ニ對シ供託局ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得(一追加)

第一條ノ四 抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ供託官吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス(一追加)

第一條ノ五 供託官吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス(一追加)

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ書類ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ之ヲ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス(一追加)

第一條ノ六 裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ供託官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス(一追加)

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲シ供託官吏及抗告人ニ送達スルコトヲ要ス(一追加)

第一條ノ七 前條ノ規定ニ依リ抗告ヲ却下スル決定ニ對シテハ法律違背ヲ理由トスルトキニ限り非訴事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得(一追加)

前項ノ抗告ニ付爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(一追加)

第二條 供託局ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添エテ之ヲ差出スコトヲ要ス(一)

第三條 供託金ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ利息ヲ附スルコトヲ要ス(一)

第四條 供託局ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取り供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得(一)

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者又ハ銀行ヲ指定スルコトヲ得(一)

倉庫營業者又ハ銀行ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限り之ヲ保管スル義務ヲ負フ(一)

第六條 倉庫營業者又ハ銀行ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス(一)

第七條 倉庫營業者又ハ銀行ハ第五條第一項ノ規定ニ依ル供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得(一)

第八條 供託物ノ還付ヲ請求スル者ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ其權利ヲ證明スルコトヲ要ス(一)

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト、供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無効トス

第十條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託者ノ書面又ハ裁判、公正證書其他ノ公正ノ書面ニ依

リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス(一)

附則

- 第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十二條 本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス
- 第十三條 第四條、第八條及ヒ第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適用ス
- 第十四條 明治二十三年勅令第四百十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○大正十年法律第六十九號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第二十八號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)

本法施行前爲シタル供託ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

供託局所在地外ニ於テハ司法大臣ハ當分ノ内其ノ適當ト認ムル銀行ヲシテ第一條ノ規定ニ依ル供託事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

●供託有價證券取扱規程

大正十一年二月一日
大藏省令第九號

供託有價證券取扱規程左ノ通定ム

供託有價證券取扱規程

- 第一條 供託局ノ保管ニ係ル供託有價證券ハ之ヲ日本銀行ニ寄託スヘシ
- 第二條 供託局前條ノ寄託ヲ爲サムトスルトキハ供託有價證券寄託書(書式ハ政府所有有價證券取扱規程第一號書式政府所有有價證券寄託書ニ準ス)及供託書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ提出シ供託有價證券受託證書ノ交付ヲ受クヘシ
- 第三條 供託局日本銀行ニ寄託セル有價證券ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ供託有價證券拂渡請求書(書式ハ政府所有有價證券取扱規程第二號書式政府所有有價證券拂渡請求書ニ準ス)ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ但シ供託有價證券ノ還付又ハ取戻ヲ受クル權利ヲ有スル者ノ提出シタル請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ供託有價證券拂渡請求書ニ代フルコトヲ得

證券取扱規程第二號書式政府所有有價證券拂渡請求書ニ準ス)ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ但シ供託有價證券ノ還付又ハ取戻ヲ受クル權利ヲ有スル者ノ提出シタル請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ供託有價證券拂渡請求書ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ供託局代供託ヲ認可シタルトキハ代供託請求書ヲ前項ノ拂渡請求書ニ添付スヘシ

- 第四條 供託局供託有價證券附屬利札ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ供託有價證券利札請求書(書式ハ政府所有有價證券取扱規程第三號書式政府所有有價證券利札請求書ニ準ス)ヲ日本銀行ニ提出シ之カ交付ヲ受クヘシ但シ附屬利札ヲ受クル權利ヲ有スル者ノ提出シタル請求書ニ證明ヲ爲シタルモノヲ以テ供託有價證券利札請求書ニ代フルコトヲ得
- 第五條 供託局供託有價證券ノ利息又ハ配當金ニ付附屬供託ヲ認可シタルトキハ供託有價證券利息(配當金)請求書(書式ハ政府所有有價證券取扱規程第三號書式政府所有有價證券利札請求書ニ準ス)及附屬供託請求書ヲ日本銀行ニ提出スヘシ
- 第六條 政府所有有價證券取扱規程第二條及第六條乃至第十條ノ規定ハ供託有價證券ノ取扱手續ニ付之ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●供託物取扱規則

大正十一年三月一日
司法省令第二號

改正(一)大正十二年四月十九日
(二)昭和三年六月二日
司法省令第七號
司法省令第八號

供託物取扱規則左ノ通相定ム

供託物取扱規則

- 第一條 金錢及有價證券ノ供託ニ關スル手續ハ本令ニ依ル
 - 第二條 供託ヲ爲サムトスル者ハ第一號書式ノ供託書一通ヲ供託局ニ提出スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第二號書式ノ供託通
- 第九類 參考法規 供託有價證券取扱規程 供託物取扱規則

知書ヲ添付スヘシ

供託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 供託者ノ氏名住所、官吏公吏其ノ職務上爲ス供託ニ付テハ其ノ官公職氏名及所屬官公署ノ名稱、代理人ニ依ル場合ニ於テハ其ノ代理人ノ氏名住所

二 供託金額、有價證券ニ付テハ其ノ種類記號番號枚數券面額及拂込額

三 供託ノ原因タル事實及法令ノ條項

四 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ表示若之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ其ノ事由

五 反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物ノ表示其ノ他供託物ヲ受取ルニ付テノ條件

第三條 供託官吏供託ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ大藏大臣ノ定ムル預金部預金ノ取扱ニ關スル規定又ハ供託有價證券ノ取扱ニ關スル規定ニ從ヒ拂込書ヲ作成シ且供託書ニ供託受理ノ記載ヲ爲シテ之ニ捺印シ拂込書及供託書ノ一通ヲ供託者ニ交付シ供託物ヲ日本銀行ニ納入セシムヘシ

供託官吏日本銀行ヨリ大藏大臣ノ定ムル預金部預金取扱ニ關スル規定又ハ日本銀行ノ供託有價證券ノ取扱ニ關スル規定ニ依ル供託物受領ノ證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ前條第一項ノ供託通知書ヲ債權者ニ發送スヘシ

第三條ノ二 供託金又ハ供託有價證券ノ受入ヲ取扱フ供託局ニ金錢又ハ有價證券ノ供託ヲ爲サムトスル者ハ第二條ノ供託書ト共ニ供託金又ハ供託有價證券ヲ提出スヘシ(一追加、二)

供託官吏供託ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ供託書ノ一通ニ受領ヲ證シテ之ヲ供託者ニ交付シ且第二條第一項ノ供託通知書ヲ債權者ニ發送スヘシ(一追加)

第四條 供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ノ代供託又ハ附屬供託ヲ請求セムトスル者ハ第三號書式ノ代供託請求書又ハ附屬供託請求書ニ一通ヲ供託局ニ提出スヘシ

供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ第三條第一項ノ拂込書及大藏大臣ノ定ムル供託有價證券ノ取扱ニ關スル規定ニ依ル拂渡請求書ヲ作成シ且代供託請求書又ハ附屬供託請求書ニ請求受理ノ旨ヲ記載シテ之ニ捺印シ拂込書、拂渡請求書及代供託請求書又ハ附屬供託請求書ノ一通ヲ請求者ニ交付シ之ヲ日本銀行ニ提出セシムヘシ(一)

第五條 供託物ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ノ供託物還付請求書(供託物カ有價證券ナルトキハ請求書二通)ニ左ニ掲クル書類ヲ添付シテ之ヲ供託局ニ提出スヘシ

一 供託物受入ノ記載アル供託書

二 辨濟供託ニ在リテハ供託通知書

三 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

四 裁判ニ依リテ定マリタルトキハ執行力アル裁判ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

五 反對給付ヲ爲スヘキトキハ供託法第十條ノ規定ニ依ル證明書類

第六條 供託物ノ取戻ヲ爲サムトスル者ハ第五號書式ノ供託物取戻請求書(供託物カ有價證券ナルトキハ請求書二通)ニ左ニ掲クル書類ヲ添付シテ之ヲ供託局ニ提出スヘシ

一 供託物受入ノ記載アル供託書

二 債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シタル債權者ノ書面及供託ヲ有效ト宣告シタル確定判決ナキコトヲ證スル書面

三 民法第四百九十六條第二項ノ場合ニ該當セサルコトヲ證スル書面

第七條 供託ノ原因消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スルニ足ル裁判ノ正本其ノ他ノ書面

トスルトキハ第五條又ハ前條ノ請求書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第八條 供託官吏供託金ノ還付又ハ取戻ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ記名式持參人拂ノ小切手

ヲ振出シテ供託書ト引換ニ請求者ニ交付スヘシ但シ内渡ノ場合ニ於テハ供託書ニ其ノ額ヲ記載シテ之ヲ請求者ニ返還スヘシ
供託金ノ還付又ハ取戻ニ付前條ノ請求アリタルトキハ供託官吏ハ大藏大臣ノ定ムル預金部預金ノ他店拂ニ關スル規定ニ依

ル手續ヲ爲シ第六號書式ノ供託金支拂通知書ヲ請求者ニ交付シ指定ノ日本銀行ヨリ供託金ノ還付又ハ下戻ヲ受ケシムヘシ
第九條 供託官吏供託有價證券ノ還付又ハ取戻ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ供託物還付請求書又ハ供託物取戻請求書ノ

一通ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ請求者ニ交付シ日本銀行ヨリ有價證券ノ還付又ハ下戻ヲ受ケシムヘシ
第十條 請求者カ第五條及第六條ノ規定ニ依ル書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ供託官吏ハ利害關係人ニ對シ供託物ノ還

付又ハ下戻ニ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス
供託官吏ハ前項ノ期間經過後ニ非サレハ供託物ノ還付又ハ下戻ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求者カ利害關係人ノ承諾書ヲ提出シタルトキハ之ヲ適用セス
第十一條 配當其ノ他供託物ノ分割拂渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ供託者ハ第七號書式ノ支拂委託書ニ供託物受入ノ記載アル供

託書ヲ添附シテ之ヲ供託局ニ送付シ分割拂渡ヲ受クヘキ者ニ第八號書式ノ證明書ヲ交付スヘシ
分割拂渡ヲ受クヘキ者カ前項ノ證明書ヲ提出シテ供託物拂渡ノ請求ヲ爲シタルトキハ供託官吏ハ第八條及第九條ノ規定ニ

準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ
第十二條 保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者利札ヲ受取ラムトスルトキハ第九號書式ノ供託有價證券利札請求書二通

ヲ供託局ニ提出スヘシ
供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ其ノ一通ヲ請求者ニ交付シ日本銀行

ヨリ利札ヲ受取ラシムヘシ
第十三條 供託金ノ利息ハ元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ元金ノ受取人ト利息ノ受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡

ノ後利息ヲ拂渡スヘシ

保證トシテ金錢ヲ供託シタル場合ニ於テ供託カ一年以上繼續スルトキハ其ノ利息ハ毎年六月ニ於テ前月迄ニ生シタル金額

ヲ計算シ供託者又ハ之ヲ受取ルヘキ者ニ拂渡スヘシ
第十四條 前條第一項ノ利息ノ拂渡ヲ受ケムトスル者ハ第十號書式ノ供託金利息請求書二通、同條第二項ノ利息ノ拂渡ヲ受

ケムトスル者ハ第十一號書式ノ供託金利息請求書二通ヲ供託局ニ提出スヘシ
供託官吏前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ前項ノ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ其ノ一通ヲ請求者ニ交付シ日

本銀行ヨリ利息ヲ受取ラシムヘシ

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年大藏省令第六號供託物取扱規程ハ之ヲ廢止ス

第一號書式(用紙半紙紙數二枚以上ニ及フトキハ契印スルコト)

供託書(金錢ト有價證券トハ各別ニ作成スルコト)

住 所

供託者 何 某

(第三者ニ於テ供託スルトキハ供託者第三者ト記入スルコト)

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也(尙全額拂込未済ノモノハ其ノ拂込額ヲ記載スルコト)

但シ何年何月又ハ何期渡以降利札付

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

第九類 參考法規 供託物取扱規則

又ハ

一何會社株券額面何圓也

同上

又ハ

一何々

同上

供託ノ原因タル事實

供託スヘキ法令ノ條項

供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定又ハ之ヲ確知シ得サル事由

反對給付ノ目的物其ノ他供託物ヲ受取ルニ付テノ條件

裁判所其ノ他官廳ノ名稱及件名

右供託ス

年 月 日

右

何

某團

供託局宛

右日本銀行ニ於ケル供託局口座ニ拂込ムヘシ

年 月 日

供託

局宛

受入書式

右受入ヲ證ス

年 月 日

日本銀行宛

奥書ノ式

前書ノ金額(有價證券)受領候也

年 月 日

住所

受取人

何

某團

供託局宛

内渡書式

内

一金何圓也

右年 月 日 内渡ヲ了ス

年 月 日

供託

局宛

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

第九類 參考法規

供託物取扱規則

又ハ

一何會社株券額面何圓也

同上

又ハ

一何々

同上

(種類多數ナルトキハ別ニ内譯書ヲ添付スルコトヲ得此ノ場
合ニ於テハ別紙内譯書ノ通ト記入シ内譯書ト契印スルコト)

右年 月 日 内渡ヲ證ス

日本銀行

第二號書式

供託通知書

一金何圓也

右ハ何々ノ事由ニ因リ何供託局ニ供託致候間御受領相成度此段及通知候也

年 月 日

住所

何 某

住所

某殿

第三號書式

代供託請求書又ハ附屬供託請求書(代供託物ト附屬供託物ト
ハ各別ニ作成スルコト)

供託番號第 號
一金何圓也

何々公債證書(何會社株券)何圓何年何月(何期)渡利息(配當金)(何年何月償還金)
前書ノ金額代供託(附屬供託)トシテ御受入相成度(別紙委任狀相添)及請求候也

年 月 日

住所

何 某

供託局宛

右代供託(附屬供託)トシテ受入手續ヲ爲スヘキモノトス

年 月 日

供託局

受入書式

右受入ヲ證ス

年 月 日

日本銀行

奥書ノ式

第九類 參考法規 供託物取扱規則

前書ノ金額受領候也

年 月 日

住 所

何

某團

供託局宛

内渡書式

内

一金何圓也

右年 月 日内渡ヲ了ス

年 月 日

供 託 局 宛

第四號書式

供託物還付請求書(供託書一通毎ニ作成スルコト)

供託番號第 號

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

一何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

同上

前書ノ金額(有價證券)何々ノ事由ニ因リ還付相成度別紙供託書及證明書類相添及請求候也

年 月 日

住 所

受取人

何

某團

供託局宛

右還付ヲ認可ス

年 月 日

供 託 局 宛

第五號書式

供託物取戻請求書(供託書一通毎ニ作成スルコト)

供託番號第 號

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

第九類 參考法規

供託物取扱規則

一何會社株券額面何圓也 同上

又ハ

一何々 同上

前書ノ金額(有價證券)何々ノ事由ニ因リ下戻相成度別紙供託書及證明書類相添及請求候也

年 月 日

住 所

供託者 何

某團

供託局宛

右取戻ヲ認可ス

年 月 日

住 所

供託局宛

第六號書式

供託金支拂通知書

住 所

受取人 何

某

供託番號第 號

一金何圓也

右者ニ對シ前記ノ金額拂渡相成度候也

年 月 日

住 所

供託局宛

日本銀行(支拂店)宛

右受領候也

年 月 日

住 所

何

某團

第七號書式

日本銀行(支拂店)宛

支拂委託書(供託書一通毎ニ作成スルコト)

供託番號第 號

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ

一何會社株券額面何圓也

同上

又ハ

一何々

同上

第九類 參考法規

供託物取扱規則

内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

同上

同上

住所

受取人 何

某

内

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

同上

同上

住所

受取人 何

某

右ハ何々ノ事由ニ因リ内譯ノ通分割拂渡スコトヲ要スルニ付別紙供託書相添及請求候也

年 月 日

受取人

何

某

住所

供託者

何

某團

供託局宛

第八號書式

證明書

住所

受取人

何

某

供託番號第 號

一金何圓也

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

又ハ

一何會社株券額面何圓也

又ハ

一何々

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

同上

同上

右者前記ノ金額(有價證券)ノ拂渡ヲ受クヘキモノナルコトヲ證ス

第九類 參考法規 供託物取扱規則

年 月 日

住 所

供託者 何

某團

右拂渡ヲ認可ス

年 月 日

供 託 局 宛

第九號書式

供託有價證券利札請求書

供託番號第 號

何年何月渡

一何々公債證書何圓券附屬利札

何 枚

又ハ

一何々附屬利札

何 枚

右及請求候也

年 月 日

住 所

何

某團

供託局宛

右拂渡ヲ認可ス

年 月 日

供 託 局 宛

右受領候也

年 月 日

住 所

何

某團

日本銀行宛

第十號書式

供託金利息請求書

供託番號第 號

供託金何圓ニ對スル利息支拂相成度及請求候也

年 月 日

住 所

受取人 何

某團

供託局宛

第九類 參考法規 供託物取扱規則

一金何圓也

(金何圓ニ對スル何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル迄ノ年何分何厘ノ割合ニ依ル利息)

右拂渡ヲ認可ス

年 月 日

右受領候也

年 月 日

日本銀行宛

第十一號書式

供託金利息請求書

供託番號第 號

供託金何圓(但シ何年何月何日供託受入濟)ニ對スル利息支拂相成度及請求候也

年 月 日

供託局宛

住所

受取人 何

某團

供託局宛

一金何圓也

(金何圓ニ對スル何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル迄ノ年何分何厘ノ割合ニ依ル利息)

右拂渡ヲ認可ス

年 月 日

右受領候也

年 月 日

日本銀行宛

住所

受取人 何

某團

供託局宛

●銀行ニ於テ爲ス供託法第一條ノ供託事務取扱ニ
關スル件

大正十一年三月一日
司法省令第四號

銀行ニ於テ爲ス供託法第一條ノ供託事務取扱ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條 銀行ニ於テ爲ス供託法第一條ノ供託事務ノ取扱ハ本令ニ依ル

第二條 供託ヲ爲サムトスル者ハ第一號書式ノ供託書ニ通テ供託物ト共ニ銀行ニ提出スヘシ但シ辨濟供託ニ付テハ第二號書

式ノ供託通知書ヲ添付スヘシ

第九類 參考法規

銀行ニ於テ爲ス供託法第一條ノ供託事務取扱ニ關スル件

供託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 供託者ノ氏名住所、官吏公吏其ノ職務上爲ス供託ニ付テハ其ノ官公職氏名及所屬官公署ノ名稱、代理人ニ依ル場合ニ於テハ其ノ代理人ノ氏名住所

二 供託金額、有價證券ニ付テハ其ノ種類記號番號枚數券面額及拂込額

三 供託ノ原因タル事實及法令ノ條項

四 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ表示若之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ其ノ事由
五 反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物ノ表示其ノ他供託物ヲ受取ルニ付テノ條件

第三條 銀行供託ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ供託書ノ一通ニ受領ヲ證シテ之ヲ供託者ニ交付スヘシ

銀行前項ノ手續ヲ終リタルトキハ直ニ前條第一項ノ供託通知書ヲ債權者ニ發送スヘシ

第四條 供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ノ代供託又ハ附屬供託ヲ請求セムトスル者ハ第三號書式ノ代供託請求書又ハ附屬供託請求書ニ通テ銀行ニ提出スヘシ

銀行前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ代供託請求書又ハ附屬供託請求書ノ一通ニ受領ヲ證シテ之ヲ請求者ニ交付スヘシ
第五條 供託物ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ノ供託物還付請求書ニ左ニ掲クル書類ヲ添附シテ之ヲ銀行ニ提出スヘシ

一 供託物受入ノ記載アル供託書

二 辨濟供託ニ在リテハ供託通知書

三 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

四 裁判ニ依リテ定マリタルトキハ執行力アル裁判ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

五 反對給付ヲ爲スヘキトキハ供託法第十條ノ規定ニ依ル證明書類

第六條 供託物ノ取戻ヲ爲サムトスル者ハ第五號書式ノ供託物取戻請求書ニ左ニ掲クル書類ヲ添附シテ之ヲ銀行ニ提出スヘシ

一 供託物受入ノ記載アル供託書

二 債權者カ供託ヲ受託セサル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シタル債權者ノ書面及供託ヲ有效ト宣告シタル確定判決ナキコトヲ證スル書面

三 民法第四百九十六條第二項ノ場合ニ該當セサルコトヲ證スル書面

第七條 銀行供託物ノ還付又ハ取戻ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ供託書ト引換ニ供託物ノ還付又ハ下戻ヲ爲スヘシ但シ内渡ノ場合ニ於テハ供託書ニ其ノ額ヲ記載シテ之ヲ請求者ニ返還スヘシ

第八條 請求者カ第五條及第六條ノ規定ニ依ル書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ銀行ハ利害關係人ニ對シ供託物ノ還付又ハ下戻ニ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

銀行ハ前項ノ期間經過後ニ非サレハ供託物ノ還付又ハ下戻ヲ爲スコトヲ得ス
前二項ノ規定ハ請求者カ利害關係人ノ承諾書ヲ提出シタルトキハ之ヲ適用セス

第九條 配當其ノ他供託物ノ分割拂渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ供託者ハ第六號書式ノ支拂委託書ニ供託物受入ノ記載アル供託書ヲ添附シテ之ヲ銀行ニ送付シ分割拂渡ヲ受クヘキ者ニ第七號書式ノ證明書ヲ交付スヘシ
分割拂渡ヲ受クヘキ者カ前項ノ證明書ヲ提出シテ供託物拂渡ノ請求ヲ爲シタルトキハ銀行ハ第七條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者利札ヲ受取ラムトスルトキハ第八號書式ノ供託有價證券利札請求書ヲ銀行ニ提出スヘシ

供託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 供託者ノ氏名住所、官吏公吏其ノ職務上爲ス供託ニ付テハ其ノ官公職氏名及所屬官公署ノ名稱、代理人ニ依ル場合ニ於テハ其ノ代理人ノ氏名住所

二 供託金額、有價證券ニ付テハ其ノ種類記號番號枚數券面額及拂込額

三 供託ノ原因タル事實及法令ノ條項

四 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其ノ者ノ表示若之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ其ノ事由

五 反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其ノ反對給付ノ目的物ノ表示其ノ他供託物ヲ受取ルニ付テノ條件

第三條 銀行供託ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ供託書ノ一通ニ受領ヲ證シテ之ヲ供託者ニ交付スヘシ

銀行前項ノ手續ヲ終リタルトキハ直ニ前條第一項ノ供託通知書ヲ債權者ニ發送スヘシ

第四條 供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ノ代供託又ハ附屬供託ヲ請求セムトスル者ハ第三號書式ノ代供託請求書又ハ附屬供託請求書ニ通テ銀行ニ提出スヘシ

銀行前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ代供託請求書又ハ附屬供託請求書ノ一通ニ受領ヲ證シテ之ヲ請求者ニ交付スヘシ

第五條 供託物ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ノ供託物還付請求書ニ左ニ掲クル書類ヲ添附シテ之ヲ銀行ニ提出スヘシ

一 供託物受入ノ記載アル供託書

二 辨濟供託ニ在リテハ供託通知書

三 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

四 裁判ニ依リテ定マリタルトキハ執行力アル裁判ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

五 反對給付ヲ爲スヘキトキハ供託法第十條ノ規定ニ依ル證明書類

第六條 供託物ノ取戻ヲ爲サムトスル者ハ第五號書式ノ供託物取戻請求書ニ左ニ掲クル書類ヲ添附シテ之ヲ銀行ニ提出スヘシ

一 供託物受入ノ記載アル供託書

二 債權者カ供託ヲ受託セサル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シタル債權者ノ書面及供託ヲ有效ト宣告シタル確定判決ナキコトヲ證スル書面

三 民法第四百九十六條第二項ノ場合ニ該當セサルコトヲ證スル書面

四 供託ノ原因消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スルニ足ル裁判ノ正本其ノ他ノ書面

第七條 銀行供託物ノ還付又ハ取戻ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ供託書ト引換ニ供託物ノ還付又ハ下戻ヲ爲スヘシ但シ

内渡ノ場合ニ於テハ供託書ニ其ノ額ヲ記載シテ之ヲ請求者ニ返還スヘシ

第八條 請求者カ第五條及第六條ノ規定ニ依ル書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ銀行ハ利害關係人ニ對シ供託物ノ還付又

ハ下戻ニ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

銀行ハ前項ノ期間經過後ニ非サレハ供託物ノ還付又ハ下戻ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求者カ利害關係人ノ承諾書ヲ提出シタルトキハ之ヲ適用セス

第九條 配當其ノ他供託物ノ分割拂渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ供託者ハ第六號書式ノ支拂委託書ニ供託物受入ノ記載アル供託書ヲ添附シテ之ヲ銀行ニ送付シ分割拂渡ヲ受クヘキ者ニ第七號書式ノ證明書ヲ交付スヘシ

分割拂渡ヲ受クヘキ者カ前項ノ證明書ヲ提出シテ供託物拂渡ノ請求ヲ爲シタルトキハ銀行ハ第七條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者利札ヲ受取ラムトスルトキハ第八號書式ノ供託有價證券利札請求書ヲ銀行ニ提出スヘシ

第九類 參考法規 銀行ニ於テ爲ス供託法第一條ノ供託事務取扱ニ關スル件

九一五